

区分	作業内容	これまで一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定	9月			10月			11月			12月			備考			
			1	2	3	16	23	30	1	8	15	22	29	30				
1号機タービン建屋 滞留水処理	(実績) ・復水器穿孔・内部確認 ・1号機T/Bダスト濃度測定 ・干渉物撤去 ・総量低減対策 (予定) ・総量低減対策 ・1号機T/Bダスト濃度測定 ・干渉物撤去	現場作業	総量低減対策 復水器一部水抜			ヒータドレン配管フラッシング/復水器一部水抜き			詳細表記への見直し						2016年10月5日 1号機タービン建屋滞留水処理移送設備(追設)について実施計画変更申請			
			事前準備															
			移送設備追設、干渉物撤去															
			1号機T/Bダスト濃度測定/評価															
浄化設備等	【多核種除去設備】 (実績) ・処理運転(A・B・C系統) (予定) ・処理運転(A・B・C系統)	現場作業	A系 処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)												・A系統:運転中※ ・B系統:運転中※ ・C系統:運転中※ ※処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止			
			B系 処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)															
			C系 処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)															
	【高性能多核種除去設備】 (実績・予定) ・処理運転	現場作業	処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)												処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止			
			A系 処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)						A系 クロスフローフィルタ取替									
【増設多核種除去設備】 (実績) ・処理運転(A・B・C系統) (予定) ・処理運転(A・B・C系統) ・クロスフローフィルタ交換(A・B・C系統)	現場作業	B系 処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)						B系 クロスフローフィルタ取替						・A系統:運転中※ ・B系統:運転中※ ・C系統:運転中※ ※処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止				
		C系 処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)						C系 クロスフローフィルタ取替										
【サブドレン浄化設備】 (実績) ・処理運転 ・地下水ドレン前処理装置の設置 ・配管等清掃による付着物の撤去 ・共有配管の単独化 (予定) ・処理運転 ・地下水ドレン前処理装置の設置 ・サブドレン浄化設備の2系列化 ・配管等清掃による付着物の撤去 ・共有配管の単独化	現場作業	処理運転						工程追加						サブドレン汲み上げ、運用開始(2015.9.3~) 排水開始(2015.9.14~) 2016年8月2日 地下水ドレン前処理装置設置について実施計画変更申請 2016年10月21日 サブドレン他浄化装置2系列目設置について実施計画変更申請 2016年8月9日 サブドレン集水設備共有配管の一部単独化について実施計画変更申請				
		地下水ドレン前処理装置の設置																
		配管等清掃(付着物撤去)																
		共有配管単独化						新規工程追加										
陸側遮水壁	(実績) ・山側95%凍結、山側補助工法(3号機西側) ・海側補助工法(1号機北側・東側、4号機南側) (予定) ・山側95%凍結、山側補助工法(1~4号機西側、4号機南側)	現場作業	山側95%凍結(第一段階フェーズ2 6/6~)												2016年3月30日 陸側遮水壁の閉合について実施計画変更認可(原規規発第1603303号) 2016年10月17日 陸側遮水壁の一部閉合について実施計画変更申請			
			海側補助工法(1号機北側・東側、4号機南側 6/6~)			工程の確定												
			山側補助工法(1~4号機西側、4号機南側 8/10~)															
H4エリアNo.5 タンクからの漏えい 対策	(実績・予定) ・汚染の拡散状況把握	現場作業	モニタリング						工程の見直し(海側の工程優先による)									
処理水受タンク増設	(実績) ・追加設置検討(タンク配置) ・K4エリアタンク設置工事(地盤改良、タンク基礎構築、タンク設置) ・H2フルータンクリプレース準備工事(水移送、残水処理、ブルータンク撤去) ・H2フランジタンクリプレース準備工事(地盤改良、タンク基礎構築) ・H2フルータンクリプレース準備工事(地盤改良、タンク基礎構築) ・H2フルータンク、フランジタンクリプレース工事(溶接型タンク) ・J9エリアタンク設置工事(地盤改良、タンク基礎構築、タンク設置) ・H4フランジタンクリプレース準備工事(タンク解体) (予定) ・追加設置検討 ・K4エリアタンク設置工事(タンク基礎構築、タンク設置) ・H2フルータンクリプレース準備工事(水移送、残水処理、ブルータンク撤去、移設) ・H2フランジタンクリプレース準備工事(地盤改良、タンク基礎構築) ・H2フルータンクリプレース準備工事(地盤改良、タンク基礎構築) ・H2フルータンク、フランジタンクリプレース工事(溶接型タンク) ・H4フランジタンクリプレース準備工事(タンク解体) ・Bフランジタンクリプレース準備工事(残水処理) ・H5フランジタンクリプレース準備工事(残水処理) ・H6フランジタンクリプレース準備工事(残水処理) ・H3フランジタンクリプレース準備工事(残水処理)	設計 現場作業	タンク追加設置設計												以下に2016年9月29日時点進捗を記載 2016年8月1日付 一部使用承認(35基) (原規規発第1608012号) ・使用前検査終了(17/35基) 2015年10月1日 H2エリアにおける濃縮廃液貯槽の撤去等について実施計画変更認可(原規規発第1510011号) 2016年9月7日付 一部使用承認(44基) (原規規発第1609075号) ・使用前検査終了(1/44基) 2016年9月7日付 一部使用承認(12基) (原規規発第1609076号) ・使用前検査終了(0/12基) 2015年12月14日 H4エリアにおけるRO濃縮水貯槽の撤去等について実施計画認可(原規規発第1512148号) ・解体完了(36/56基) 2016年9月15日 BエリアにおけるRO処理水貯槽の撤去等について実施計画変更申請 2016年9月15日 H5エリアにおけるRO濃縮水貯槽の撤去等について実施計画変更申請 2016年9月15日 H6エリアにおけるRO濃縮水貯槽の撤去等について実施計画変更申請 2016年9月15日 H3エリアにおけるRO濃縮水貯槽の撤去等について実施計画変更申請			
			K4エリア タンク設置(35,000t)			K4エリア タンク設置準備 地盤改良、タンク基礎構築												
			K4エリア タンク設置						(▽5,000t) (▽5,000t) 使用前検査予定の追加									
			H2エリアタンク設置(105,600t)			H2フルータンクリプレース準備 水移送、残水処理												
			H2フランジタンクリプレース準備 地盤改良、タンク基礎構築															
			H2フルータンク撤去、移設						工程の見直し									
			H2フルータンクリプレース準備 地盤改良、タンク基礎構築															
			H2エリアタンク設置			▲2,400t (▽2,400t)			使用前検査実績&予定の追加									
			J9エリア タンク設置(8,400t)			J9エリア タンク設置準備 地盤改良、タンク基礎構築												
			J9エリア タンク設置			実績の反映						(▽2,400t) 使用前検査予定の追加						
			H4エリアタンク解体作業															
			Bフランジタンクリプレース準備、残水処理															
H5フランジタンクリプレース準備、残水処理																		
H6フランジタンクリプレース準備、残水処理																		
H3フランジタンクリプレース準備、残水処理																		
主トレンチ(海水配管トレンチ) 他 の汚染水処理	(実績・予定) ・主トレンチ(海水配管トレンチ)立坑部監視(2号立坑C) ・地下水移送(1-2号取水口間)(2-3号取水口間)(3-4号取水口間)	現場作業	主トレンチ(海水配管トレンチ2号機) 2号機凍結運転												O2号機トレンチ ・立坑C:2015.9.17~水位等監視中			
			地下水移送(1-2号機取水口間、2-3号機取水口間、3-4号機取水口間)															

陸側遮水壁の状況（第一段階 フェーズ2）

2016年10月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

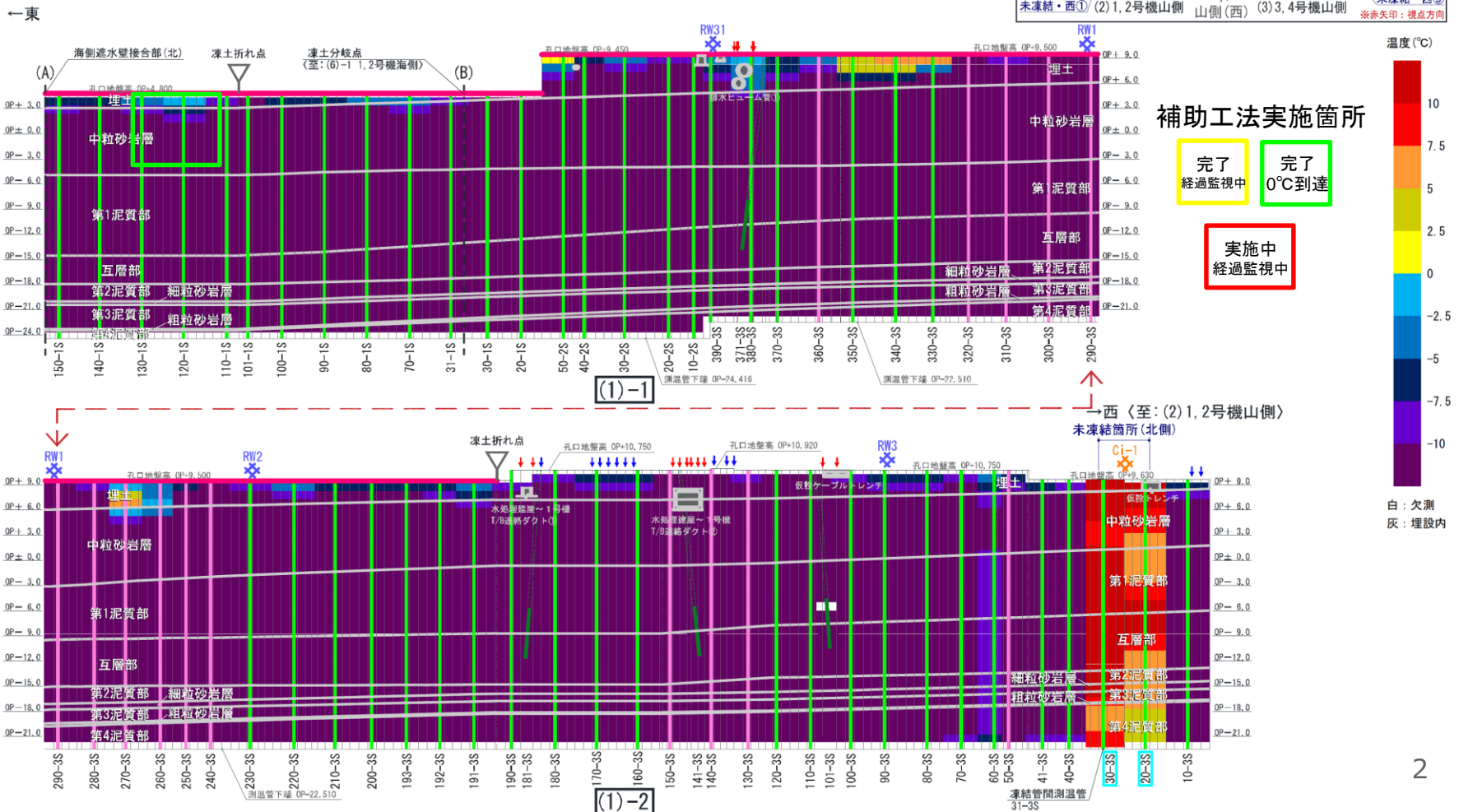
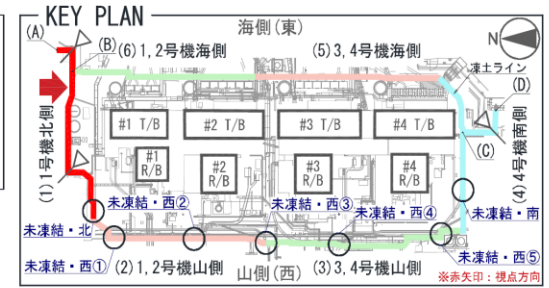
- 陸側遮水壁は凍結それ自体を目的としたものではなく、建屋への地下水の流入を抑制し、汚染水の発生を抑制するための対策である。
- 第一段階フェーズ2において山側の95%以下を閉合することで、建屋周辺への地下水の流入量を減らすことができ、第一段階として、汚染水の発生を抑制することができる。
- 第一段階を通じて、陸側遮水壁の効果発現状況を陸側遮水壁内外の地下水位差およびサブドレン・ウェルポイント・地下水ドレンの汲み上げ量等により確認していく。

■ 地中温度分布図

(1) 1号機北側 (北側から望む)

(温度は10/25 7:00時点のデータ)

- 凡例
- : 測温管 (凍土ライン外側)
 - : 測温管 (凍土ライン内側)
 - : 測温管 (複列部斜め)
 - : 未凍結箇所管理測温管
 - ▽ : 凍土折れ点
 - ◆ : RW (リチャージウェル)
 - ◇ : Ci (中粒砂岩層・内側)
 - ↓ : 単列部凍結管 (先行)
 - ↓ : 複列部凍結管
 - : 海側・北側一部凍結箇所



補助工法実施箇所

- 完了 経過監視中
- 完了 0°C到達
- 実施中 経過監視中

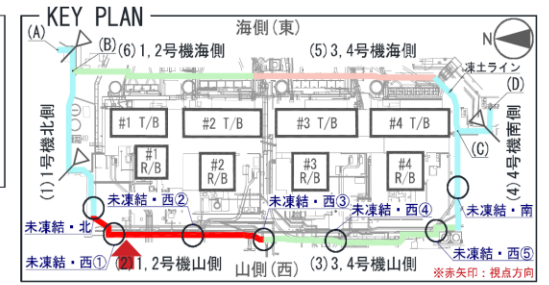
白: 欠測
灰: 埋設内

■ 地中温度分布図

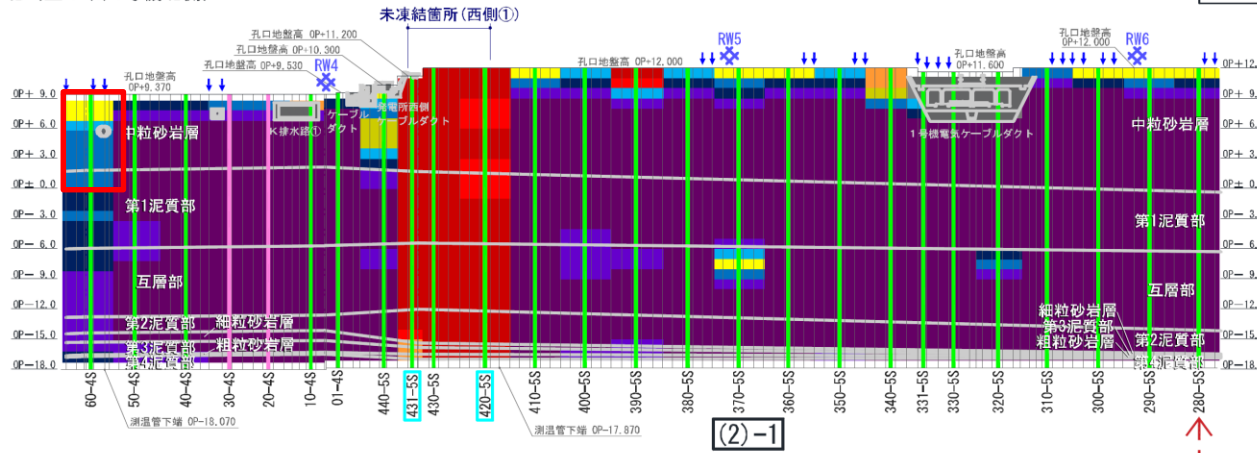
(2) 1, 2号機山側 (西側から望む)

(温度は10/25 7:00時点のデータ)

- 凡例
- : 測温管 (凍土ライン外側)
 - : 測温管 (凍土ライン内側)
 - : 測温管 (複列部斜め)
 - : 未凍結箇所管理測温管
 - ▽ : 凍土折れ点
 - ⊗ : RW (リチャージウェル)
 - ⊗ : C1 (中粒砂岩層・内側)
 - ↓ : 単列部凍結管 (先行)
 - ↓ : 複列部凍結管
 - : 海側・北側一部凍結箇所



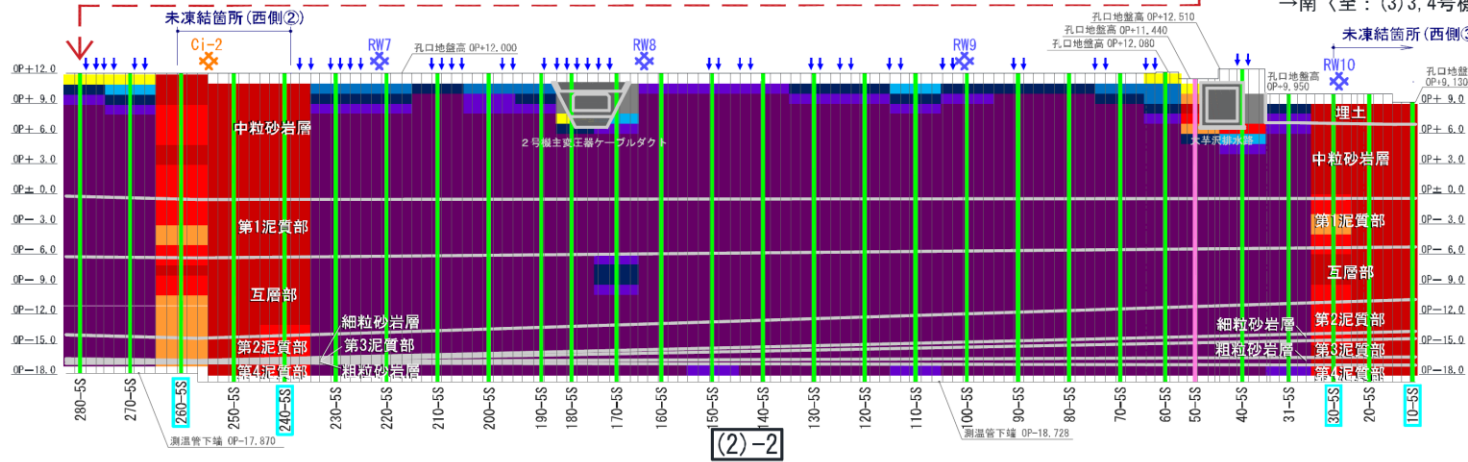
←北 (至: (1) 1号機北側)



補助工法実施箇所

- 完了 経過監視中
- 完了 0°C到達
- 実施中 経過監視中

→南 (至: (3) 3, 4号機山側)

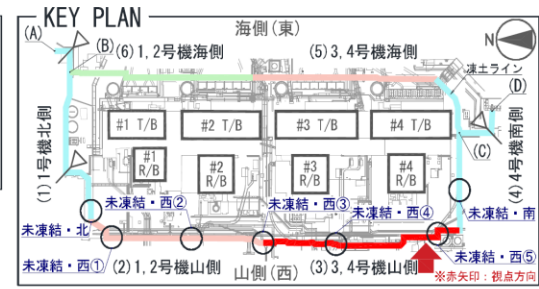


■ 地中温度分布図

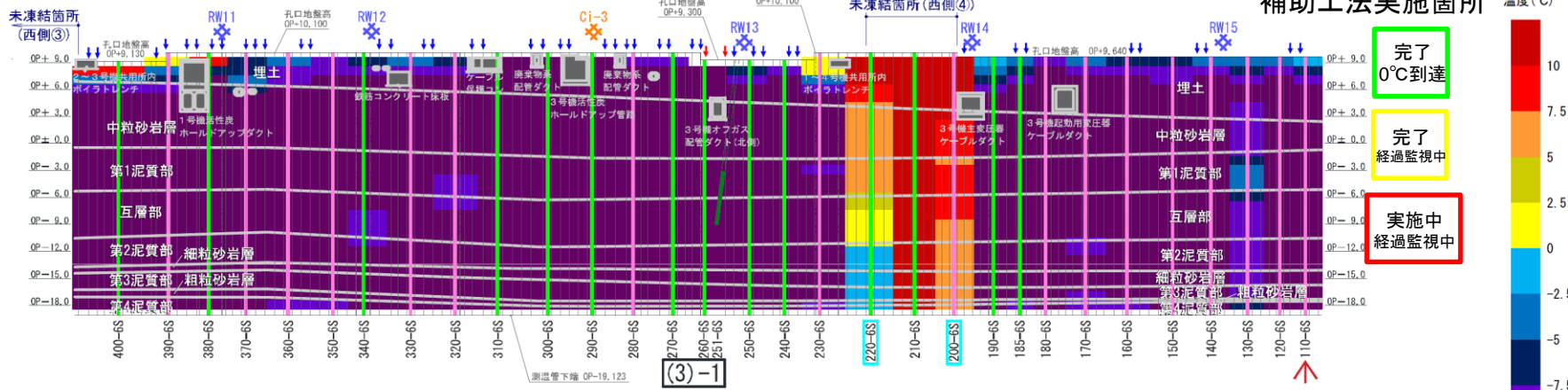
(3) 3, 4号機山側 (西側から望む)
(温度は10/25 7:00時点のデータ)

凡例

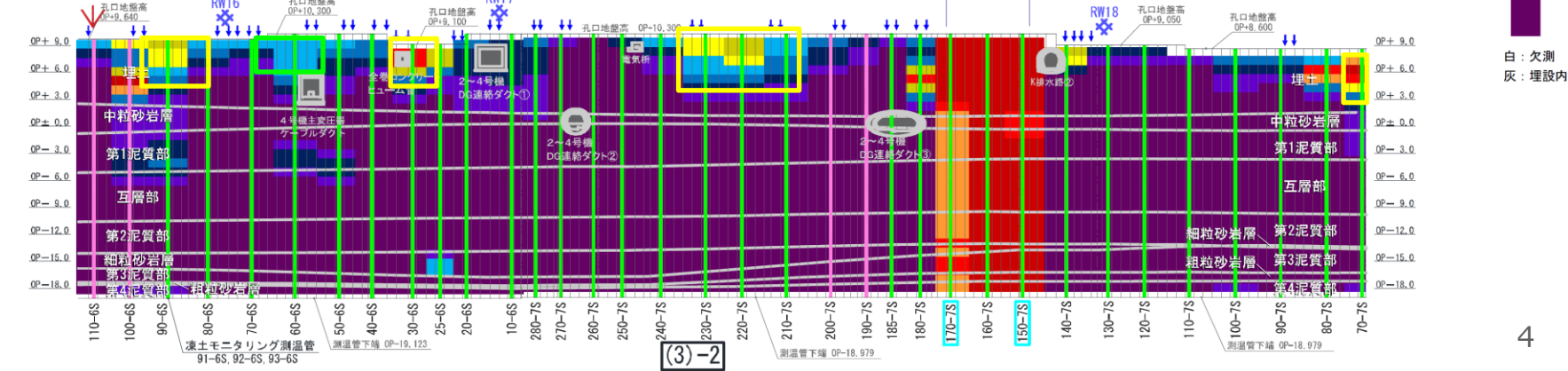
- : 測温管 (凍土ライン外側)
- : 測温管 (凍土ライン内側)
- : 測温管 (複列部斜め)
- : 未凍結箇所管理測温管
- ▽ : 凍土折れ点
- ◆ : RW (リチャージウェル)
- ◆ : Ci (中粒砂岩層・内側)
- ◆ : 単列部凍結管 (先行)
- ◆ : 複列部凍結管
- ◆ : 海側・北側一部凍結箇所



←北 (至: (2) 1, 2号機山側)



→南 (至: (4) 4号機南側)



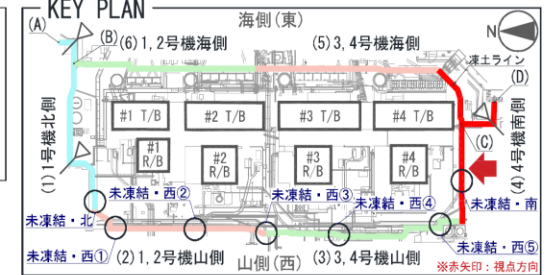
地中温度分布図 (4号機南側)

■ 地中温度分布図

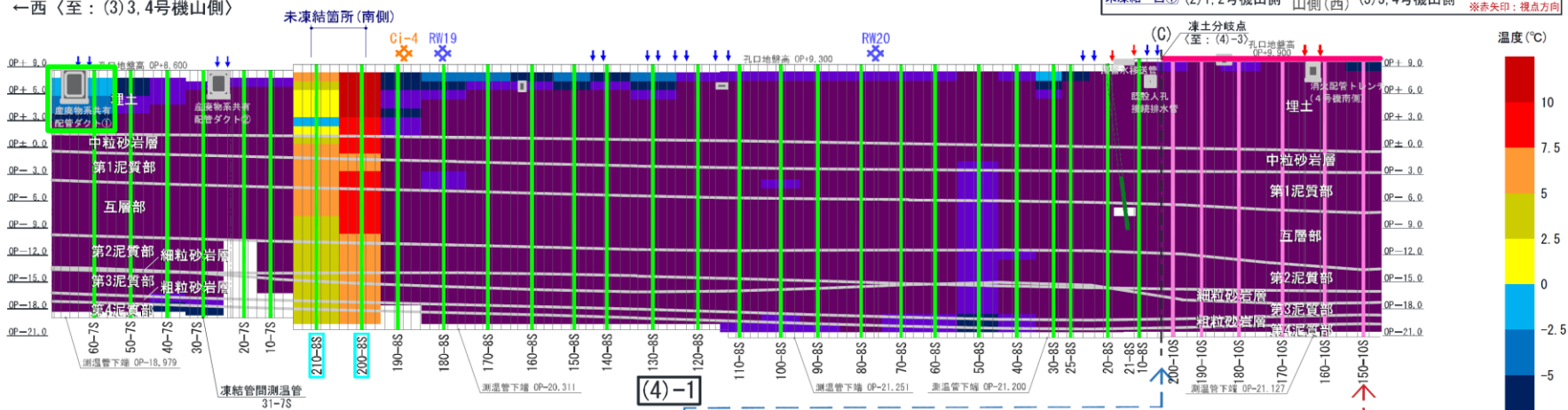
(4) 4号機南側 (南側から望む)

(温度は10/25 7:00時点のデータ)

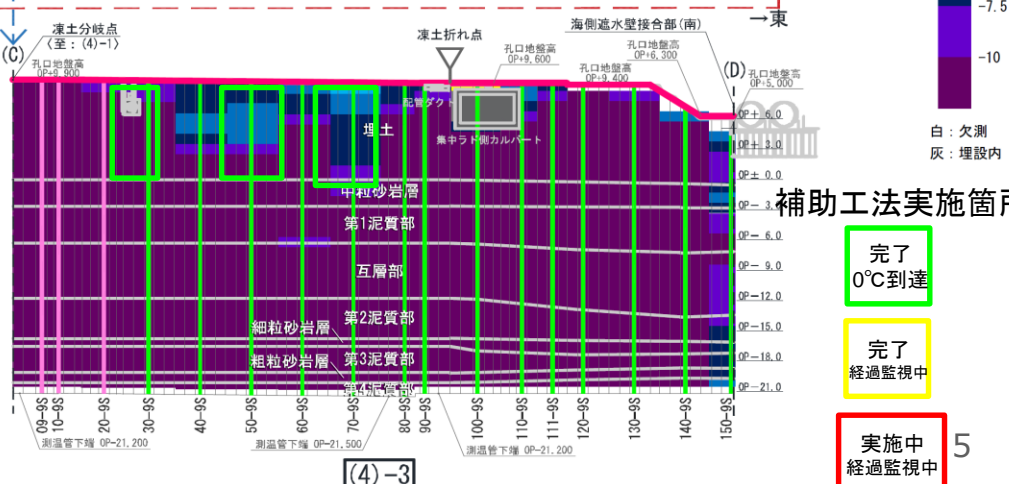
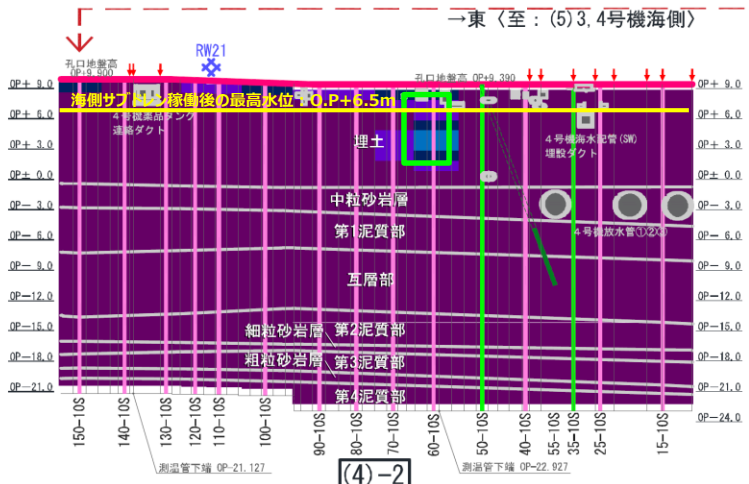
- 凡例
- : 測温管 (凍土ライン外側)
 - : 測温管 (凍土ライン内側)
 - : 測温管 (複列部斜め)
 - : 未凍結箇所管理測温管
 - ▽ : 凍土折れ点
 - ◆ : RW (リチャージ Jewel)
 - ◆ : CI (中粒砂岩層・内側)
 - ↓ : 単列部凍結管 (先行)
 - ↓ : 複列部凍結管
 - : 海側・北側一部凍結箇所



←西 (至: (3) 3, 4号機山側)



→東 (至: (5) 3, 4号機海側)



補助工法実施箇所

完了
0°C到達

完了
経過監視中

実施中
経過監視中

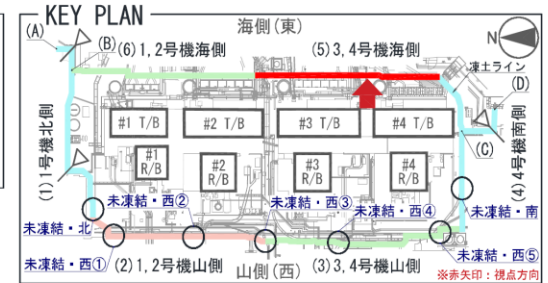
地中温度分布図 (3・4号機東側)

■ 地中温度分布図

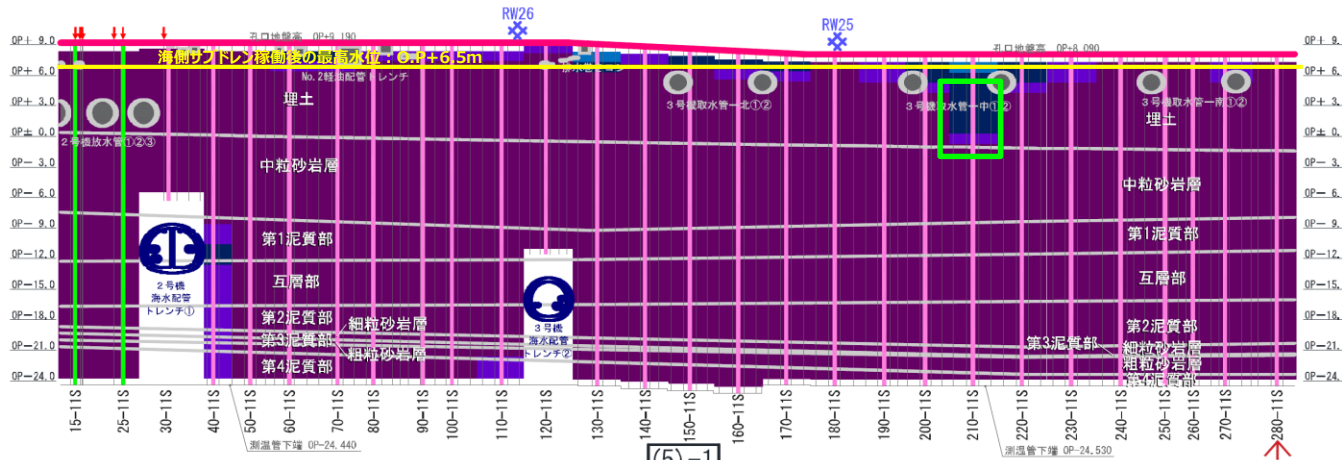
(5) 3, 4号機海側 (西側: 内側から望む)

(温度は10/25 7:00時点のデータ)

- 凡例
- 測温管 (凍土ライン外側)
 - 測温管 (凍土ライン内側)
 - 測温管 (複列部斜め)
 - 未凍結箇所管理測温管
 - 凍土折れ点
 - RW (リチャージウエル)
 - CI (中粒砂岩層・内側)
 - 単列部凍結管 (先行)
 - 複列部凍結管
 - 海側・北側一部凍結箇所

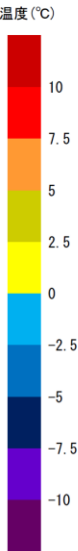


←北 (至: (6) 1, 2号機海側)



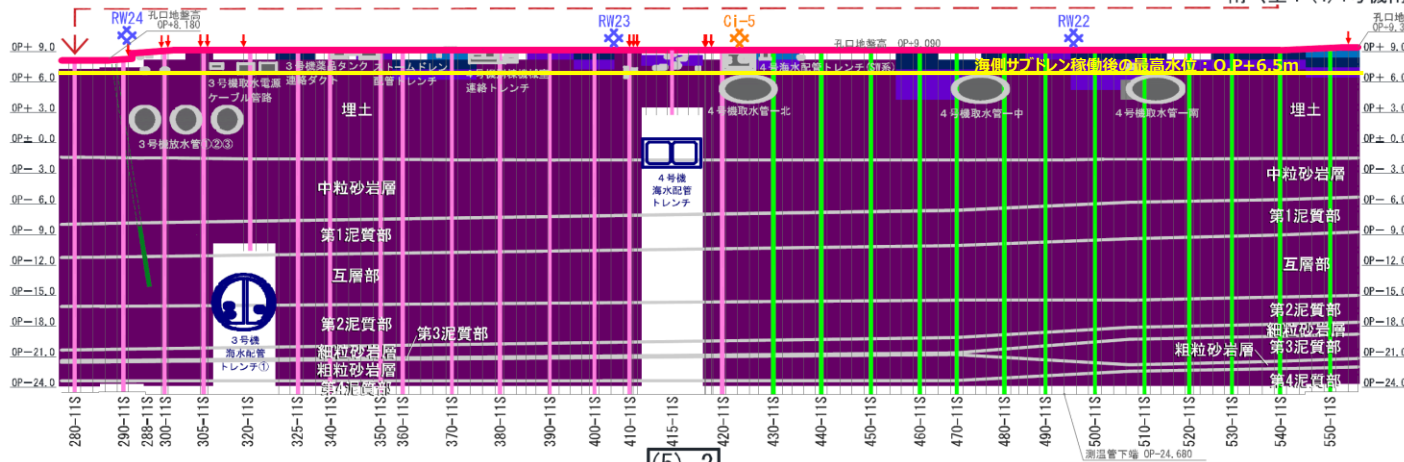
補助工法実施箇所

- 完了 経過監視中
- 完了 0°C到達
- 実施中 経過監視中



白: 欠測
灰: 埋設内

→南 (至: (4) 4号機南側)



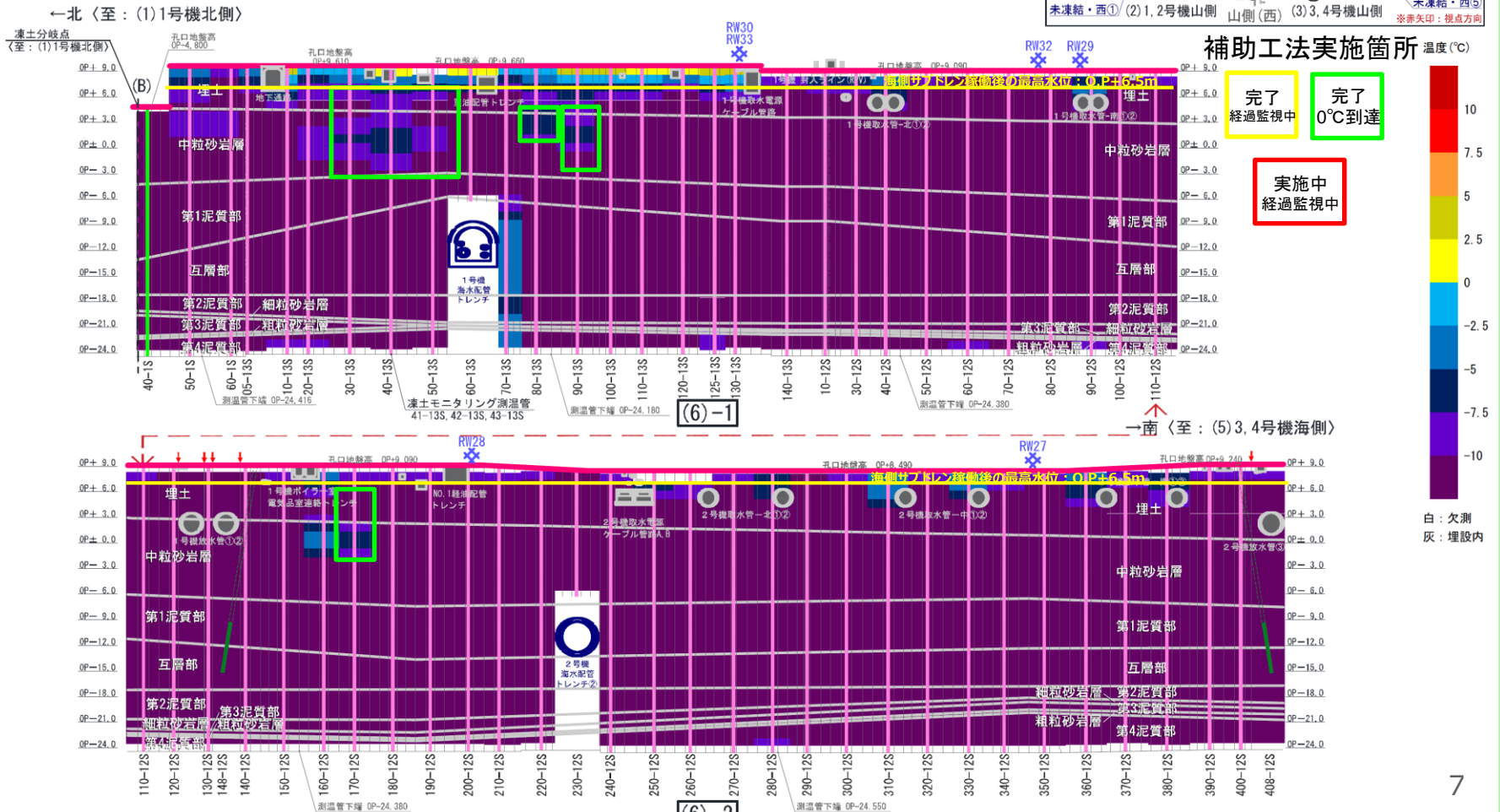
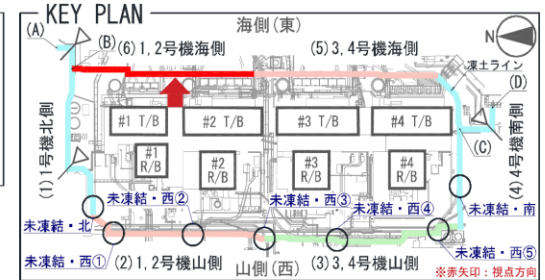
地中温度分布図 (1・2号機東側)

■ 地中温度分布図

(6) 1, 2号機海側 (西側：内側から望む)

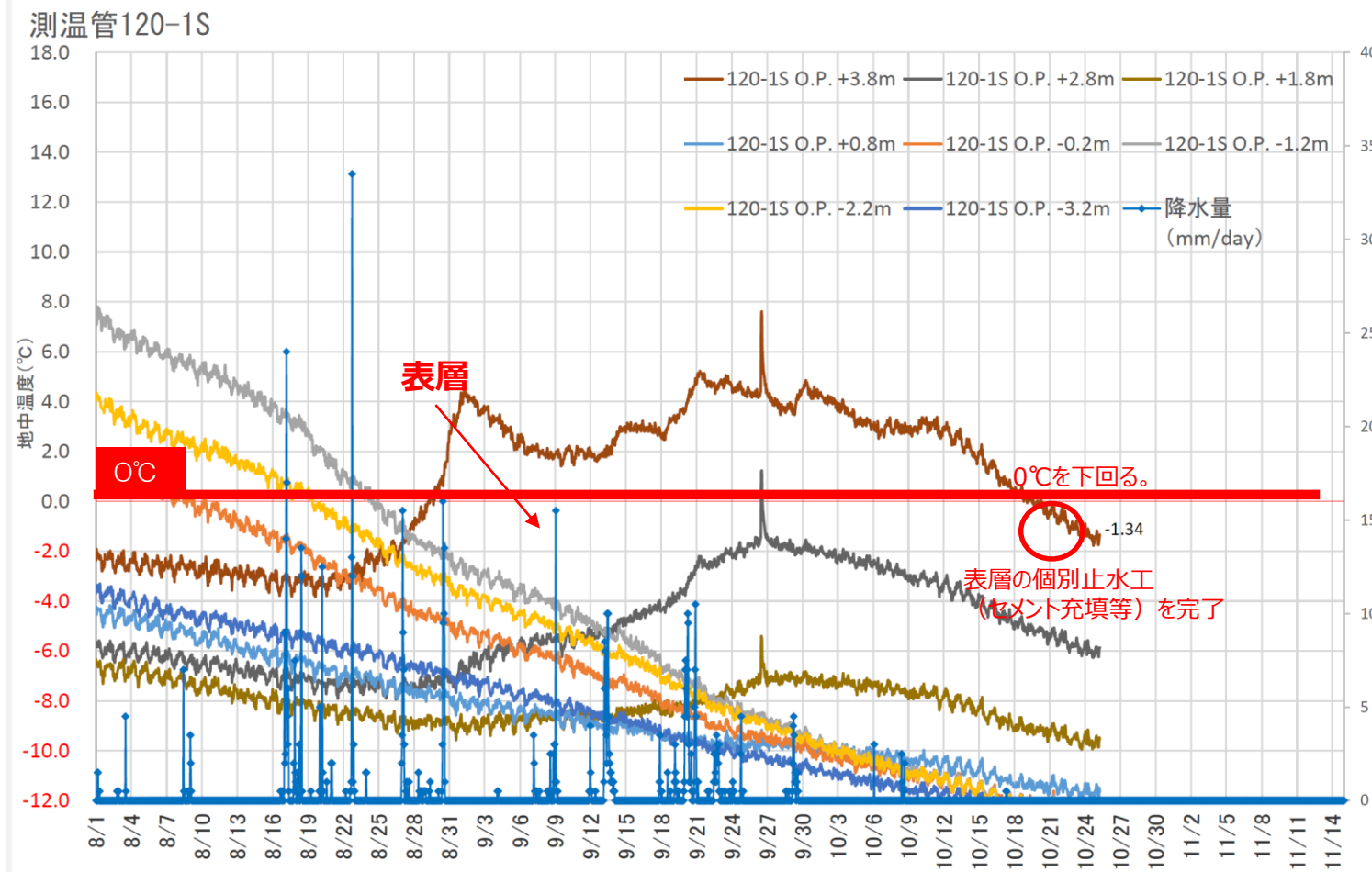
(温度は10/25 7:00時点のデータ)

- 凡例
- : 測温管 (凍土ライン外側)
 - : 測温管 (凍土ライン内側)
 - : 測温管 (複列部斜め)
 - : 未凍結箇所管理測温管
 - ▽ : 凍土折れ点
 - ◆ : RW (リチャージウェル)
 - ◆ : CI (中粒砂岩層・内側)
 - ◆ : 単列部凍結管 (先行)
 - ◆ : 複列部凍結管
 - ◆ : 海側・北側一部凍結箇所

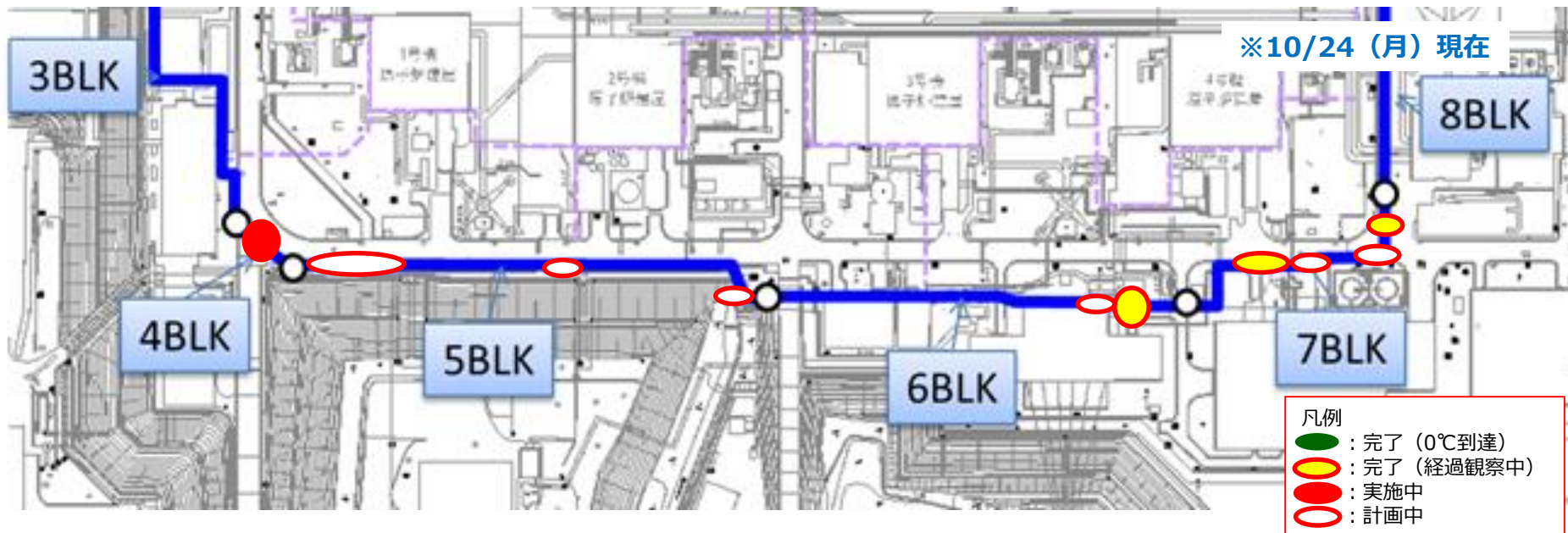




【120-1S】
表層を含め、0度を下回る。



海側について対象となる全ての測温ポイントについて0°Cを下回った。



施工状況 (6 BLKの例)



1. 薬液注入工法の適用深度（地表2m以深）の全測温管データのうち、現在温度が0℃を上回り、且つ予測温度※1が0℃を上回る測温ポイントを抽出。
2. 抽出した測温ポイントが3深度※2以上連続し、且つ i) 現在温度が5℃以上のもの、ii) 予測温度が5℃以上のもの双方を含むものは、『優先順位 1』とする。
3. 1. で抽出された測温ポイントのうち、2. に該当しなかったもので、中粒砂岩層以浅に位置するものは、『優先順位 2』とする。
4. 1. で抽出された測温ポイントのうち、2. に該当しなかったもので、互層以深に位置するものは、『優先順位 3』とする。
5. 補助工法については、原則、『優先順位 1』→『優先順位 2』→『優先順位 3』の順で行う。
6. 1. ～ 4. の抽出・優先順位の分類は、少なくとも2週間に1回の見直しを継続し、その都度、補助工法を適用する箇所を追加・削除を行い、工程に反映する。なお、今後、未凍結箇所の閉合を実施し補助工法が必要な場合においても、適宜工程に反映する。

※1 予測温度：予測を行った日までの1週間の温度変化が、以後そのまま継続すると仮定して予測した30日後の温度をいう。

※2 深度：1深度は、深さ1mの幅で有り、一つの測温ポイントはその1mの幅の平均温度を示している。

山側補助工法（薬液注入）工程（10/6～13の地中温度推移に基づく）、及び進捗（10/24現在）

BLK	対象	進捗	9月	10月	11月	12月
4	60-4S	施工中				
6	90-6S	完了				
	60-6S	完了				
7	230-7S	完了	【優先順位1】			
	220-7S					
	210-7S					
	60-7S	完了				
5	440-5S	完了		未凍結箇所隣接のため、実施時期検討中		
	331-5S	未着手				370-5S
	340-5S				320-5S → 0℃を下回る	
	180-5S	未着手				
	50-5S	未着手		【優先順位2】		【優先順位3】
	40-5S					
6	100-6S	未着手				
	30-6S	完了				50-6S → 0℃を下回る
7	80-7S	未着手（新規）		山側補助工法適用の考え方にに基づき、補助工法着手予定		
	180-7S	未着手		未凍結箇所隣接のため、実施時期検討中		
	70-7S	完了				
3	270-3S	未着手				

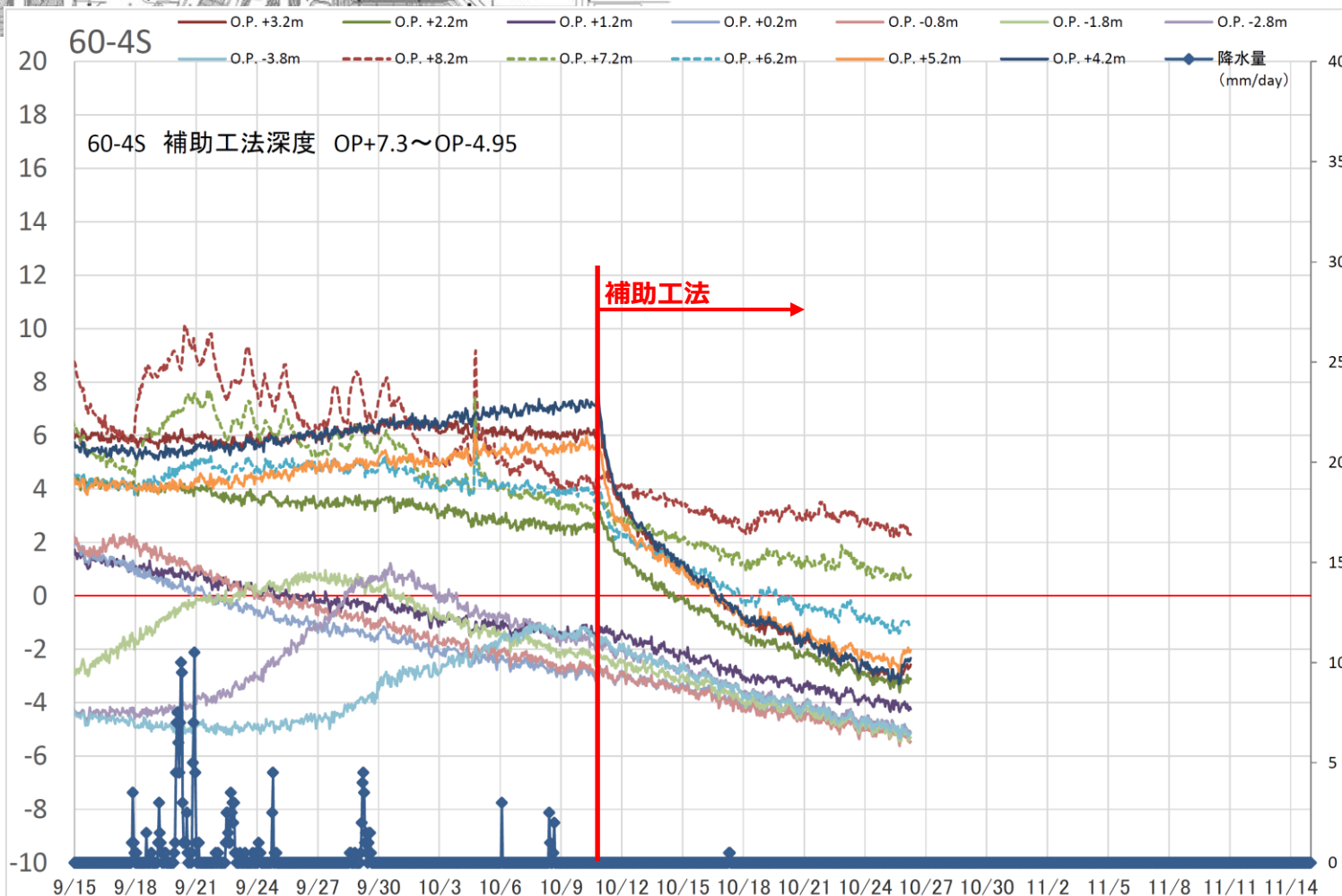
山側補助工法 温度低下状況 (4BLK)



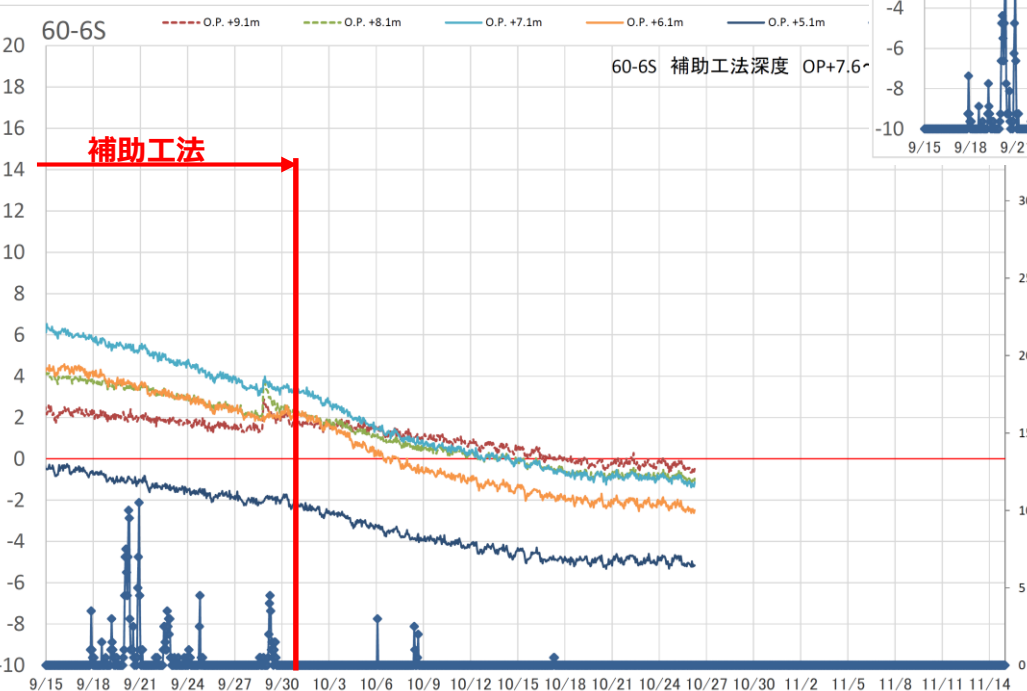
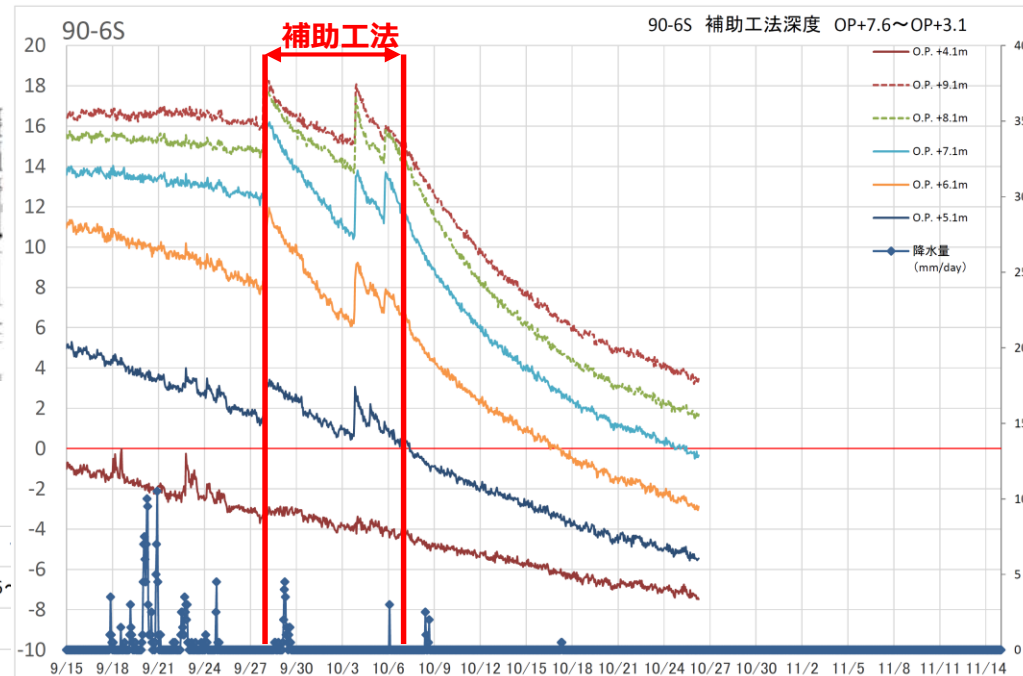
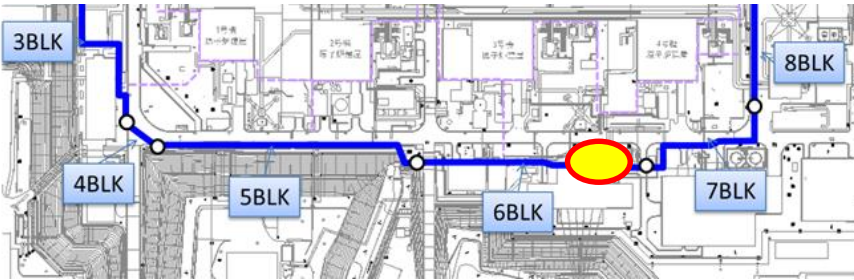
【60-4S】

補助工法実施中。

温度は比較的順調に低下しており、経過観察中。



山側補助工法 温度低下状況 (6BLK)



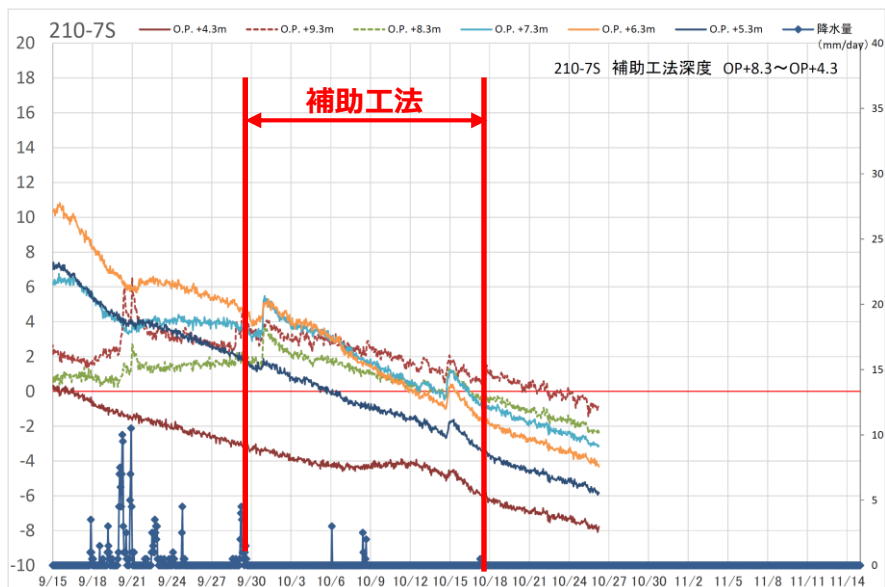
【60-6S】

補助工法完了。
0℃を下回る。

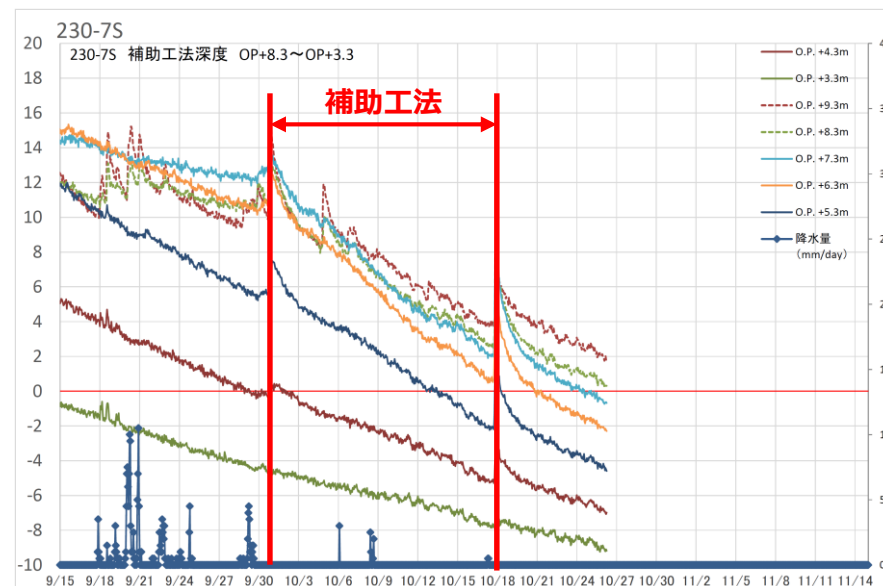
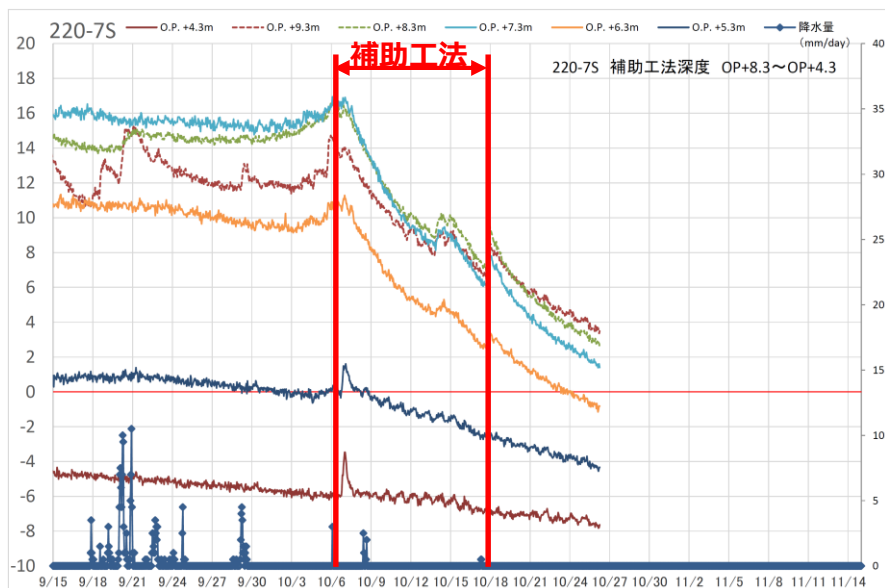
【90-6S】

補助工法完了。
温度は比較的順調に低下しており、経過観察中。

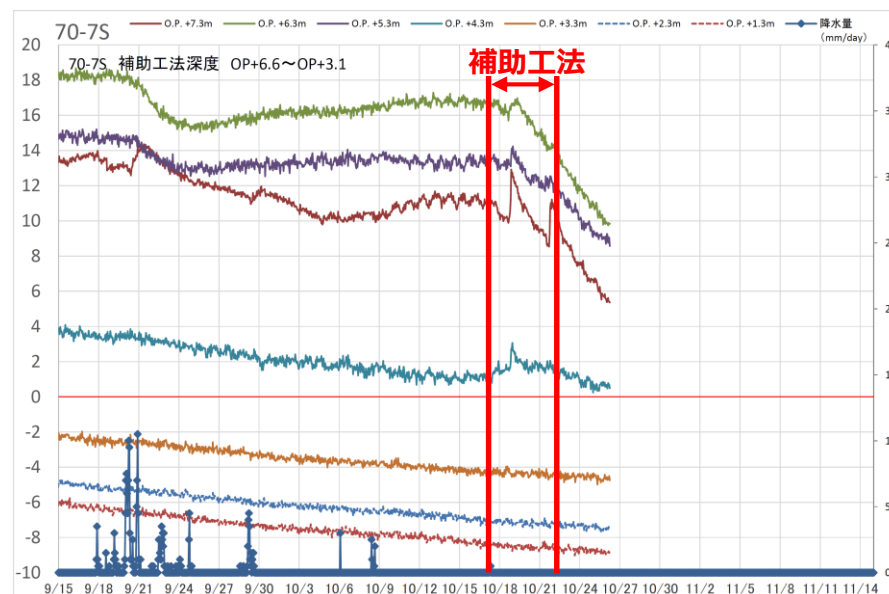
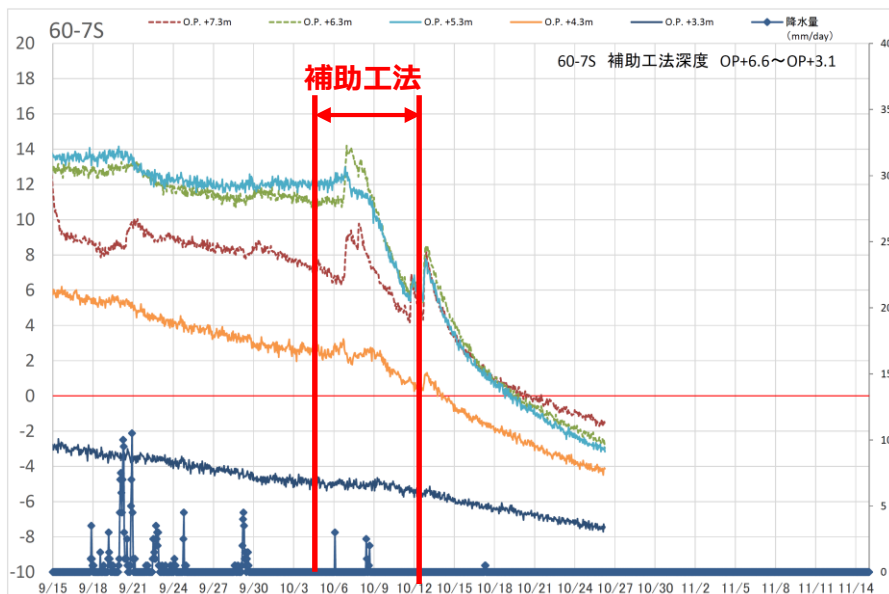
山側補助工法 温度低下状況 (7BLK 1/2)



【210、220、230-7S】
 補助工法完了。
 210-7Sについては0℃を下回った。
 その他についても温度は比較的順調に低下しており、経過観察中。



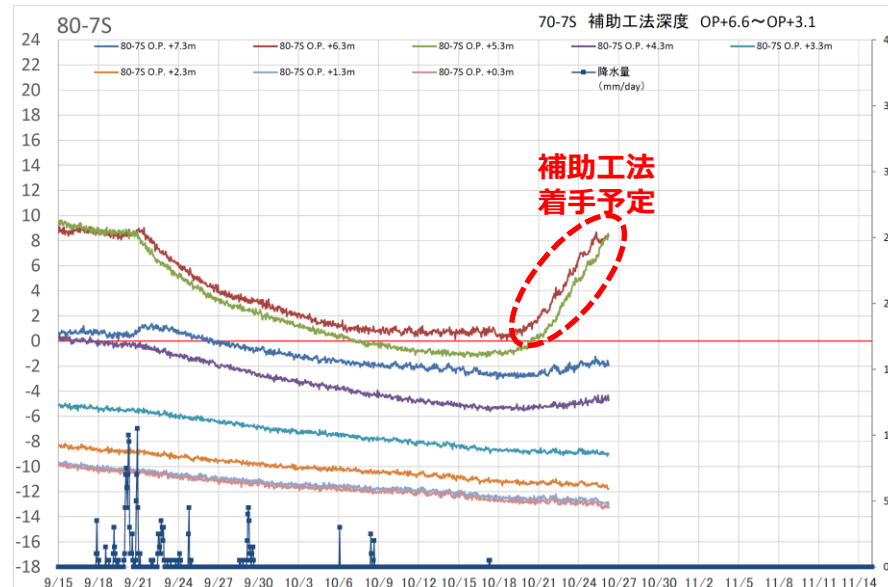
山側補助工法 温度低下状況 (7BLK 2/2)



【60-7S】
補助工法完了。
0℃を下回る。

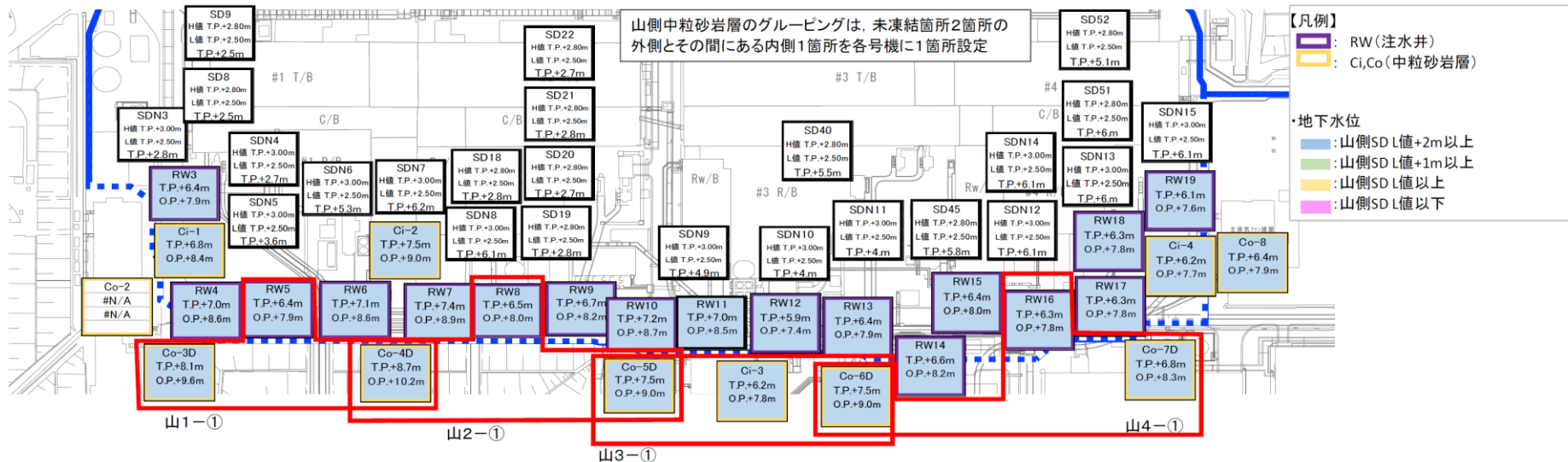
【70-7S】
補助工法完了。
温度は比較的順調に低下しており、経過観察中。

【80-7S】
温度経過観察中。
補助工法の適用の考え方に基づき、補助工法着手予定。

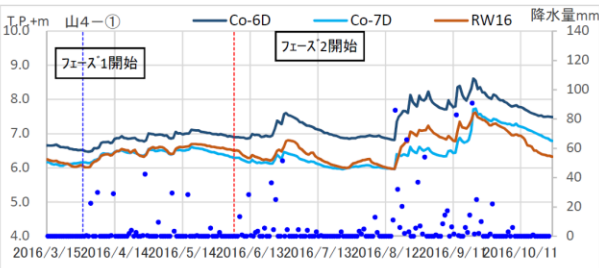
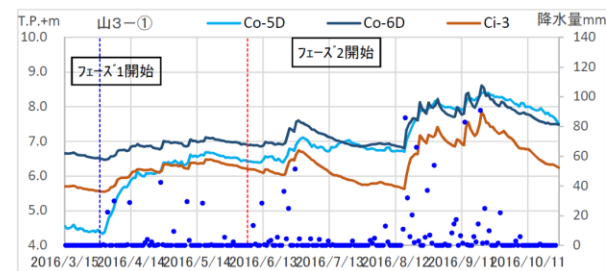
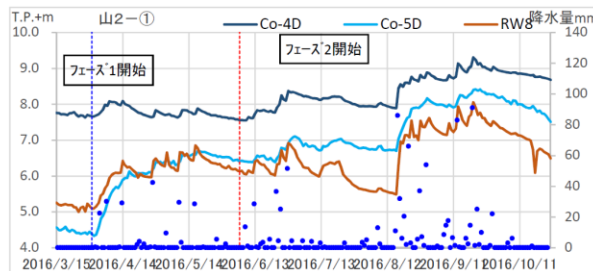
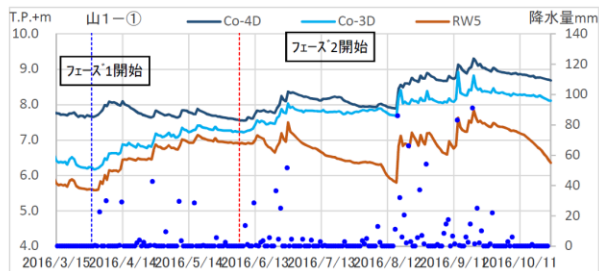


陸側遮水壁運用初期における監視項目(第一段階フェーズ2 山側 中粒砂岩層水位)

3. 陸側遮水壁(海側周辺地下水位とサブドレン稼働状況)



4. 陸側遮水壁内外水位

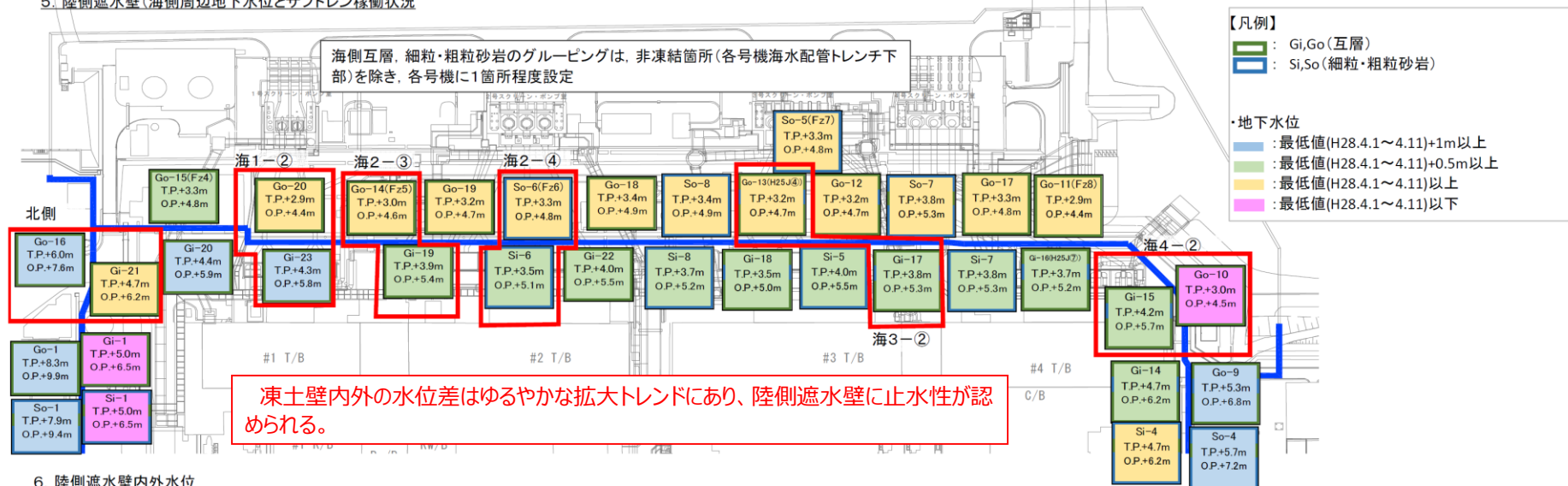


降雨による停滞は認められるものの、凍土壁内外の水位差はゆるやかな拡大トレンドにあり、陸側遮水壁に止水性が認められる。

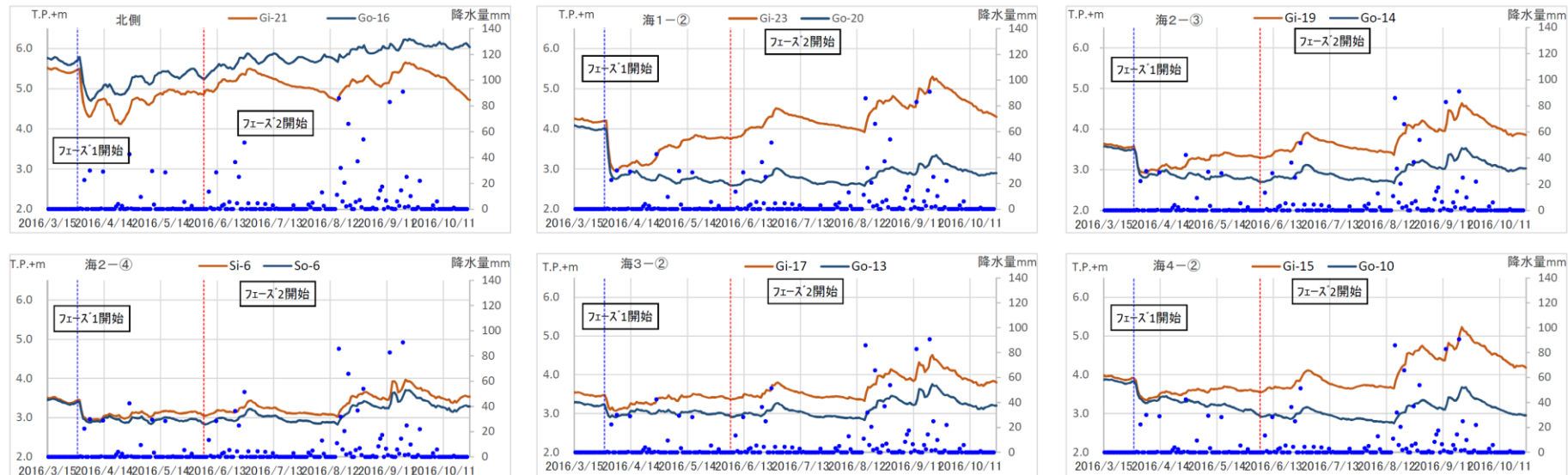
地下水位・水頭状況 (互層、細粒・粗粒砂岩層水頭① 海側)

陸側遮水壁運用初期における監視項目(第一段階フェーズ2 海側 互層・細粒・粗粒砂岩水位)

5. 陸側遮水壁(海側周辺地下水位とサブドレン稼働状況)



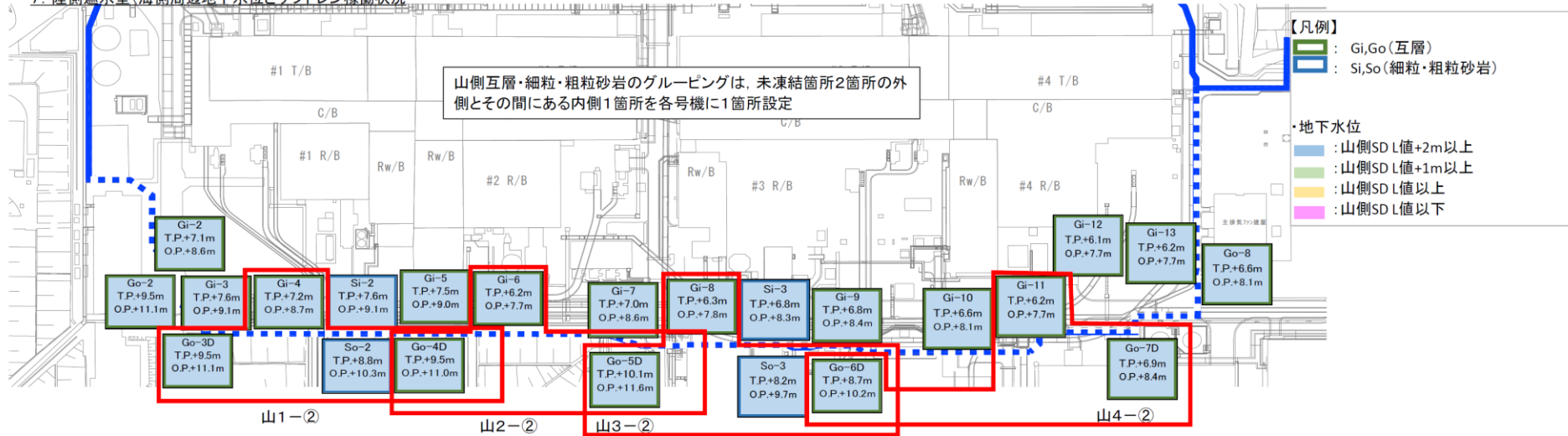
6. 陸側遮水壁内外水位



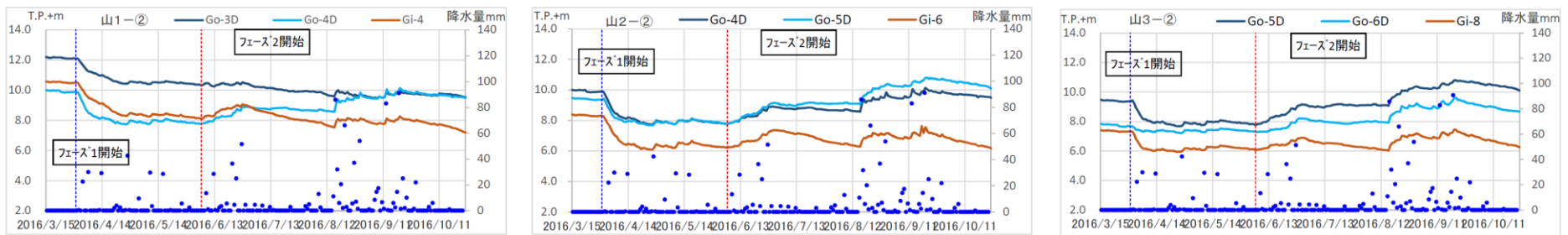
地下水位は10/25 12:00時点のデータ

陸側遮水壁運用初期における監視項目（第一階段フェーズ2 山側 互層、細粒・粗粒砂岩水位）

7. 陸側遮水壁（海側周辺地下水位とサブドレン稼働状況）



8. 陸側遮水壁内外水位

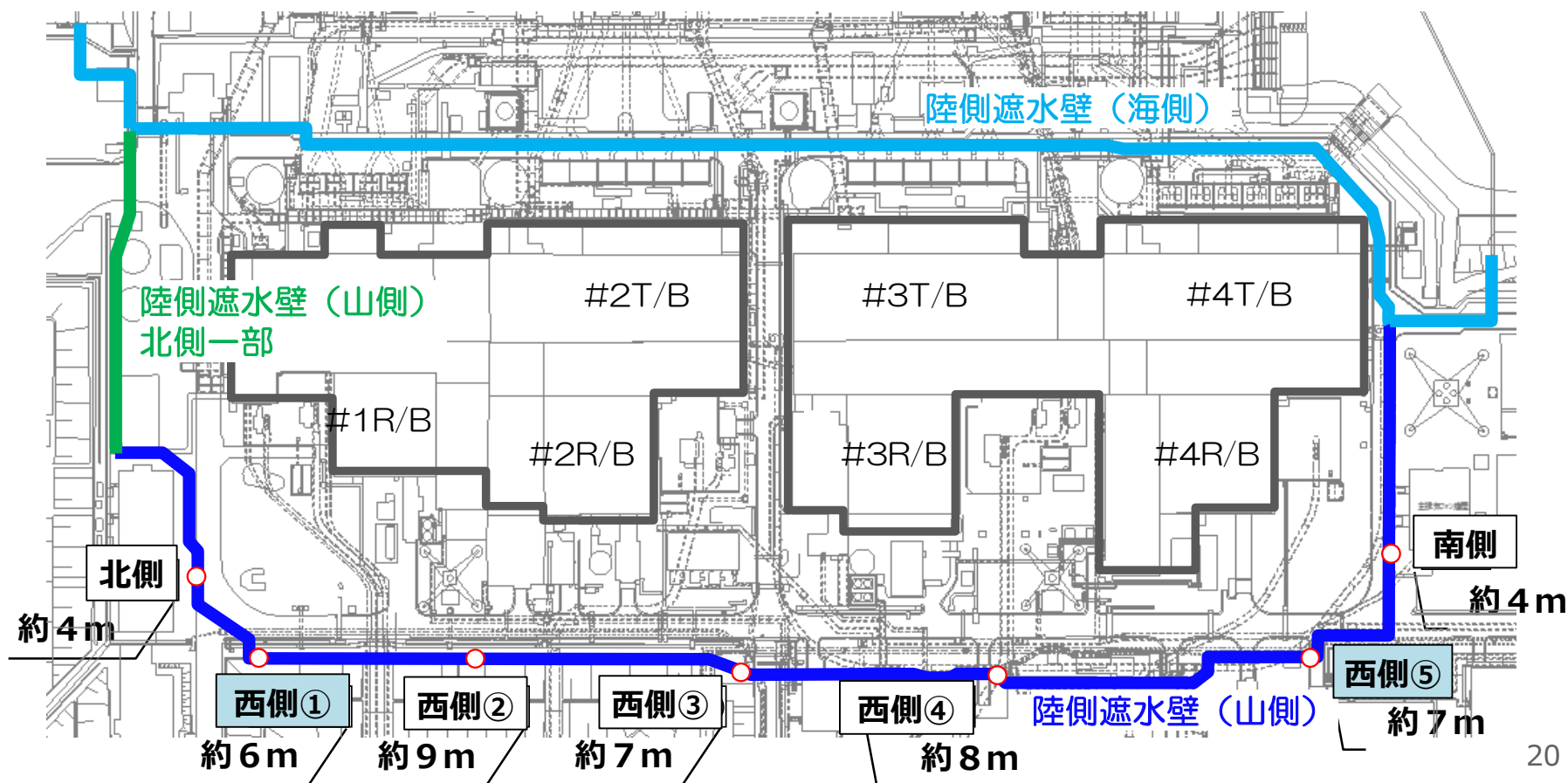


凍土壁内外の水位差はゆるやかな拡大トレンドにあり、陸側遮水壁に止水性が認められる。

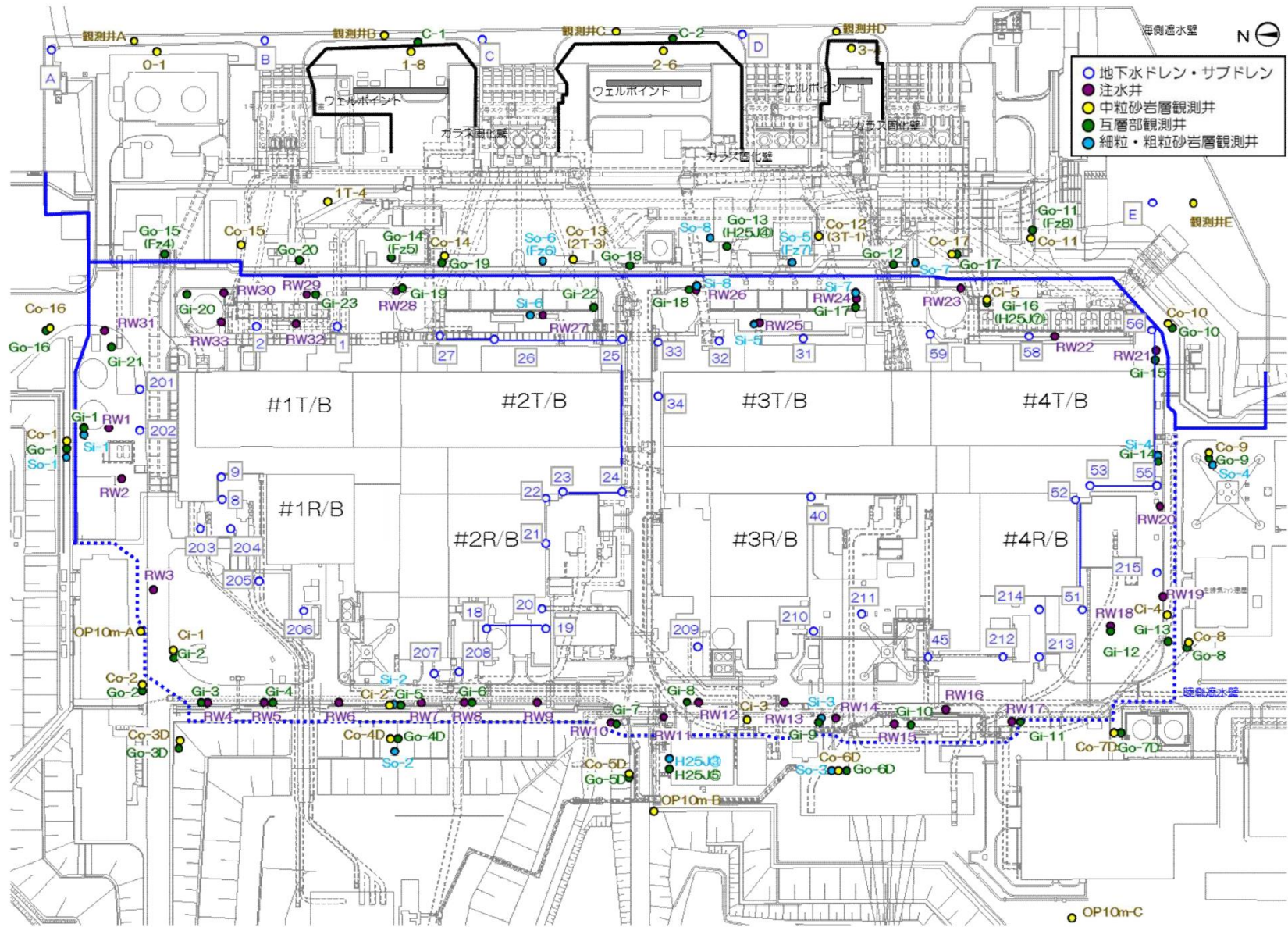
現状の未凍結箇所と一部閉合箇所の選定

- ・第一段階フェーズ2で凍結対象外としていた山側の未凍結箇所は、7箇所（山側総延長約860mの約5%）である（各未凍結箇所の位置および区間延長は、下図に示すとおり）。
- ・一部閉合箇所の選定においては、閉合後の地下水流入バランスを大きく変えないことを考慮し、近くに未閉合箇所（北側および南側）があり、閉合箇所が対称となる、「西側①」と「西側⑤」の2箇所とした。
- ・10月17日付で原子力規制委員会に上記に関する実施計画の変更認可申請を提出した。（現在は審査中）

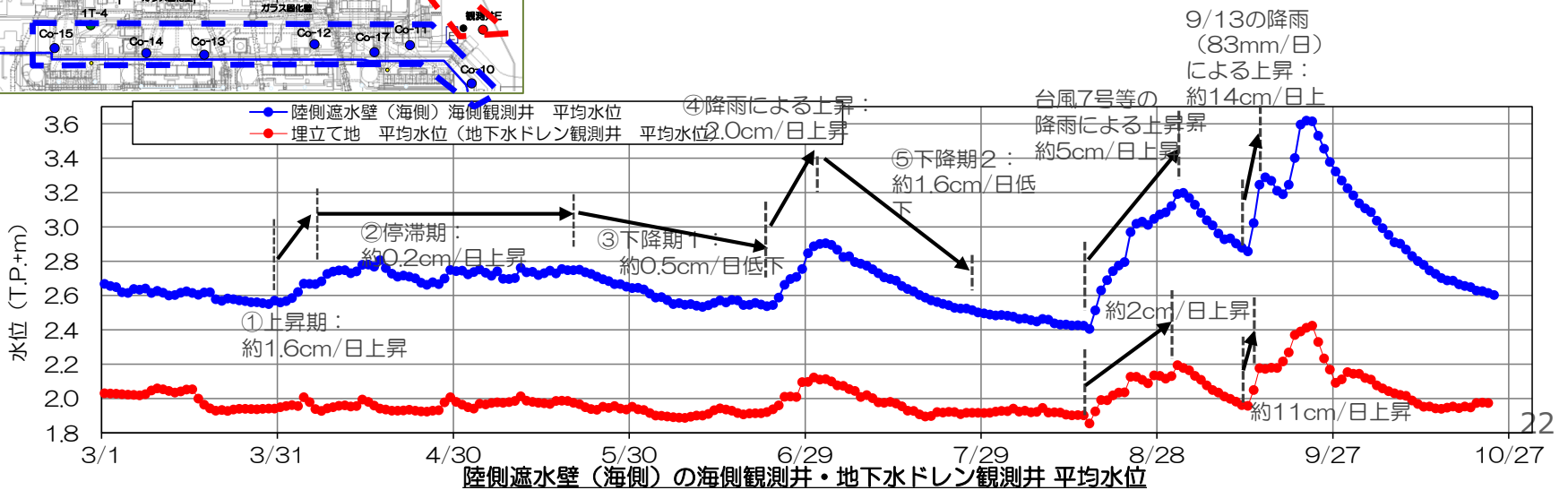
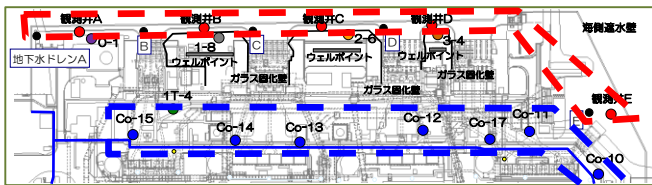
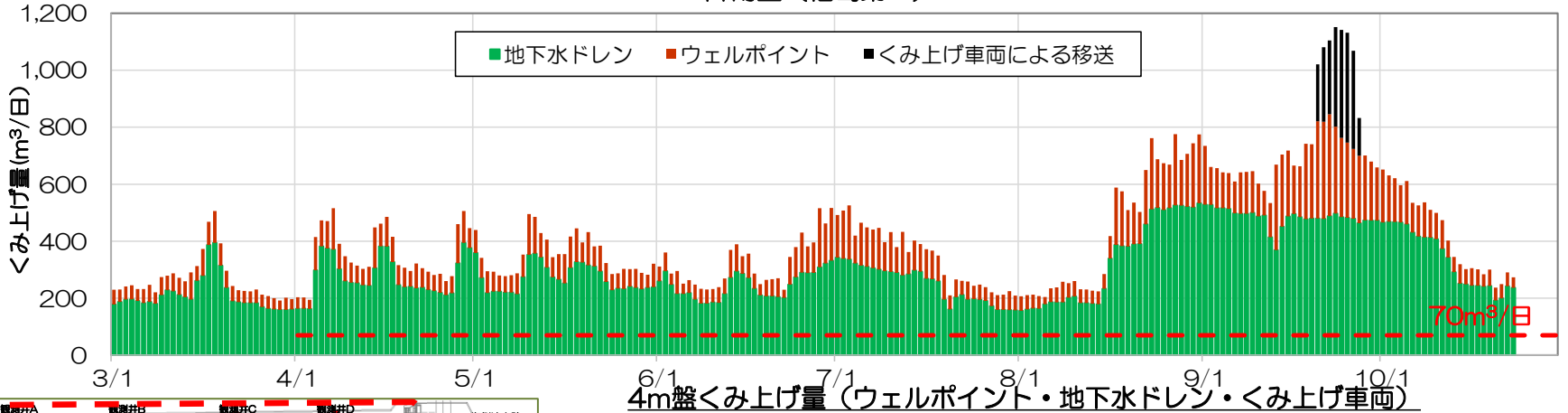
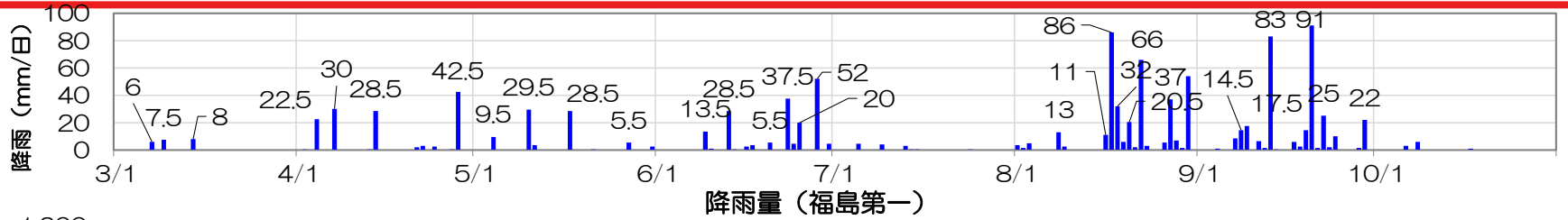
○未凍結箇所：7箇所（未凍結区間延長計：約45m(山側総延長約860mの約5%)）



【参考】地下水位観測井位置図（2016年6月現在）



(参考) 4m盤くみ上げ量と陸側遮水壁の海側および埋立て地水位の推移 TEPCO



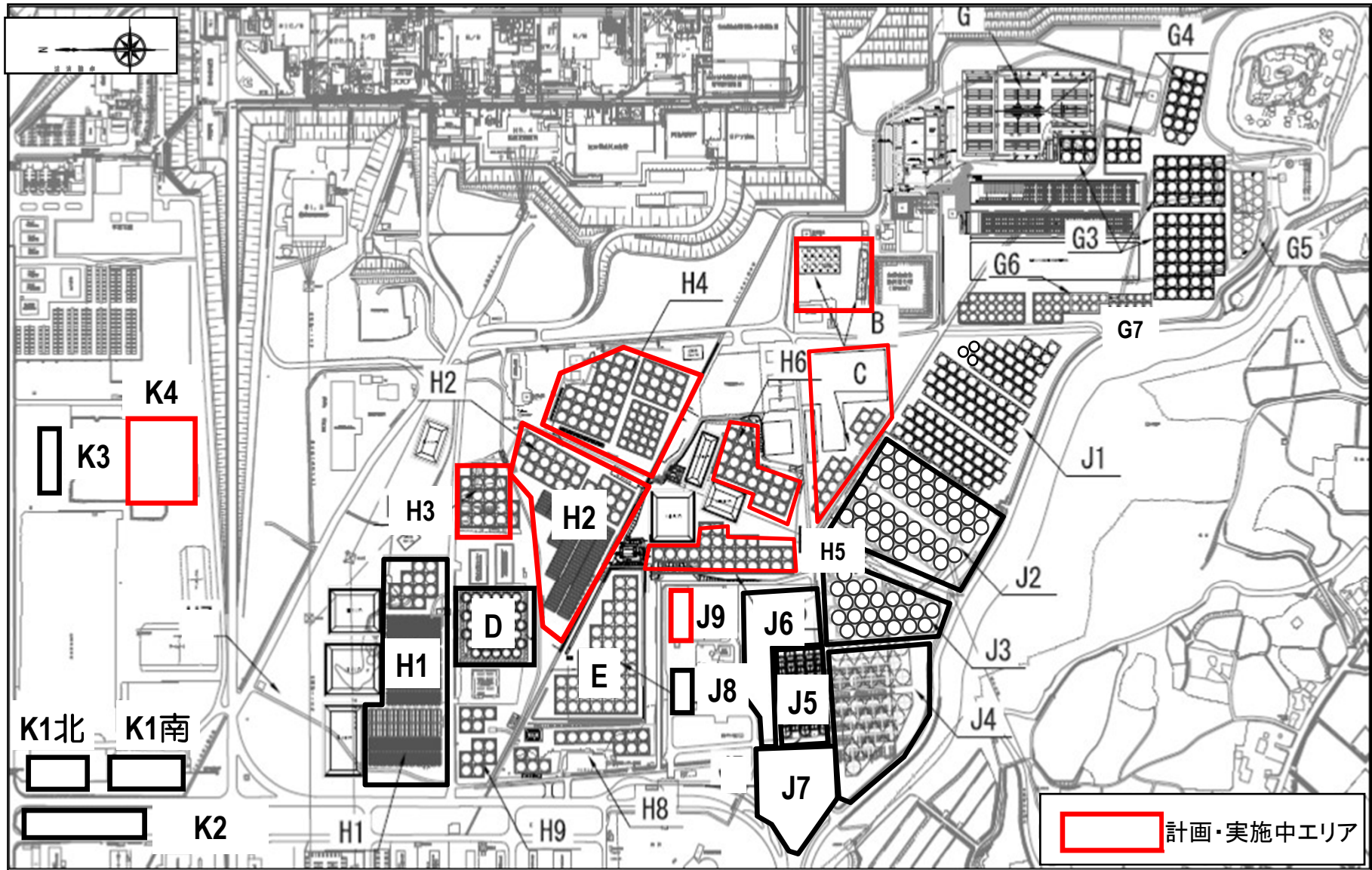
タンク建設進捗状況

2016年10月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. タンクエリア図



2-1. タンク工程（新設分）



		2016年度												2017年度								16.10の見込 ／計画基数	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降			
新設 タンク	J9エリア 現地溶接型	9月16日進捗見込	地盤改良・基礎設置												タンク								
		基数						0.7	2.1	2.1	2.1	1.4											
	10月26日進捗見込							1	3	3	3	2											
	基数							1	3	3	3	2											
新設 タンク	K4 完成型	9月16日進捗見込	地盤改良・基礎設置												タンク								
		基数					9.0	8.0				12.0	6.0										
	10月26日進捗見込					9	8				12	6											
	基数					9.0	8.0			10.0	2.0	6.0											
		基数					9	8		10	2	6											
																			17基／35基				

2-2. タンク工程 (リプレース分)



		2016年度												2017年度								16.10の見込 /計画基数	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降			
リ プ レ ー ス タ ン ク	H2ブルータンクエリア 現地溶接型	9月16日進捗見込 (概略)	地盤改良・基礎設置												13基 計画未定								
		既設除却	タンク																				
		10月26日進捗見込 (概略)	残水・撤去												4.8 4.8 12.0 7.2 14.4 14.4 12.0								
		基数 既設除却	2 2 5 3 6 6 5												4 3 3 2 2 1								
	H2フランジタンクエリア 現地溶接型	9月16日進捗見込 (概略)	地盤改良・基礎設置												フランジタンクエリアのタンク開発量は、 上記ブルータンクエリアに計上								
		既設除却																					
		10月26日進捗見込 (概略)																					
		既設除却																					1基/44基
	H4エリア 完成型	9月16日進捗見込 (概略)	地盤改良・基礎設置												残水・撤去								
		既設除却	タンク												12.0 12.0 12.0								
		10月26日進捗見込 (概略)													10 10 10								
		基数 既設除却													12.0 12.0 12.0								
		基数 既設除却													10 10 10								
	Cエリア 完成型	9月16日進捗見込 (概略)	地盤改良・基礎設置												残水・撤去								
		既設除却	▲13												12.0 6.0 12.0								
		基数 既設除却													10 5 10								
	Dフランジタンクエリア 完成型	9月16日進捗見込 (概略)	地盤改良・基礎設置												残水・撤去								
		既設除却	▲19												28.8								
		基数 既設除却													24								
	H3フランジタンクエリア 現地溶接型	9月16日進捗見込 (概略)	地盤改良・基礎設置												残水・撤去								
		既設除却	▲8												9.6								
		基数 既設除却													8								
	H5,6フランジタンクエリア 現地溶接型	9月16日進捗見込 (概略)	地盤改良・基礎設置												残水・撤去								
		既設除却	▲31												38.4								
		基数 既設除却													32								

他のエリアについても順次リプレース予定

2-3. タンク建設進捗状況

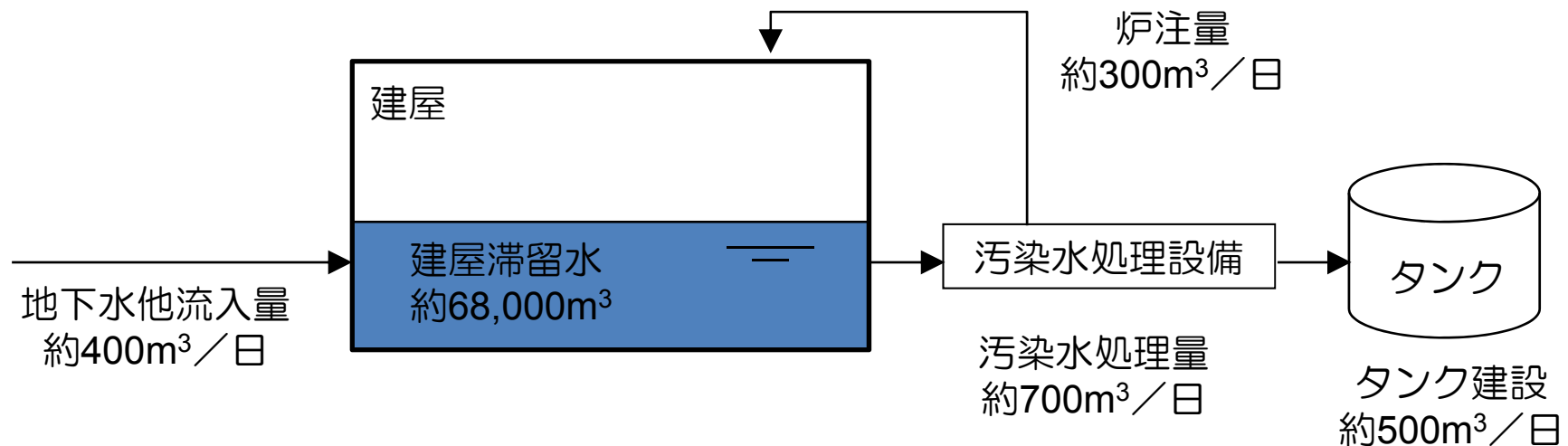
エリア	全体状況
J9	旧技術訓練棟を撤去後、700m ³ の現地溶接型タンク、12基を設置する予定。地盤改良と基礎構築は完了。現在、タンク設置中。
K4	多核種除去装置エリアにおいて1,000m ³ 、35基の工場完成型タンクを設置する計画。現在は地盤改良・基礎構築、タンク設置中。12月以降設置計画分のうち10基を10月から設置前倒し、残り8基の前倒し検討中。 2016/11/1,2 使用前検査予定（5基）
H2	2015/5/27フランジタンク解体着手。2015/10/1ブルータンク撤去認可。2016/3/11フランジタンク全28基撤去完了。現在、地盤改良・基礎構築、タンク設置中。 2016/9/1にタンク建設工事中に火災が発生。再発防止対策のため一時作業中断。2016/9/7に作業再開 9月末現在、降雨により基礎コンクリート打設が遅延（2週間程度）。タンク建設への影響を精査中。 また、台風・降雨により溶接作業が遅延（3週間程度）、基礎影響を含めた計画の見直しを検討中。 1基目の作業工程実績を精査し、今後の改善方策を検討中。 2016/11/1,2 使用前検査予定（1基）
H4	2015/12/14フランジタンク解体認可。現在、フランジタンク撤去中。
B	実施計画の認可を踏まえて、フランジタンクの解体着手予定。
C	実施計画変認可を踏まえて、フランジタンクの解体着手予定。
H3	実施計画の認可を踏まえて、フランジタンクの解体着手予定。
H5, H6	実施計画の認可を踏まえて、フランジタンクの解体着手予定。

2-4. 実施計画申請関係

エリア	申請状況
J9	<ul style="list-style-type: none"> • 2016/4/20 実施計画変更申請 (K4, H2エリアタンクと同時申請) • 2016/7/4 実施計画補正申請 • 2016/7/4 実施計画変更認可
K4	<ul style="list-style-type: none"> • 2016/4/20 実施計画変更申請 (J9, H2エリアタンクと同時申請) • 2016/7/4 実施計画補正申請 • 2016/7/4 実施計画変更認可
H2	リプレースタンク44基分 <ul style="list-style-type: none"> • 2016/4/20 実施計画変更申請 (J9, K4エリアタンクと同時申請) • 2016/7/4 実施計画補正申請 • 2016/7/4 実施計画変更認可
H4	リプレースタンク分 <ul style="list-style-type: none"> • 実施計画変更申請準備中
B	タンク解体分 <ul style="list-style-type: none"> • 2016/9/15 実施計画変更申請 (H5, H6, H3エリアタンクと同時申請)
C	リプレースタンク分 <ul style="list-style-type: none"> • 実施計画変更申請準備中
H3	タンク解体分 <ul style="list-style-type: none"> • 2016/9/15 実施計画変更申請 (B, H5, H6エリアタンクと同時申請)
H5, H6	タンク解体分 <ul style="list-style-type: none"> • 2016/9/15 実施計画変更申請 (B, H3エリアタンクと同時申請)

3-1. 建屋滞留水処理の前提条件

- 建屋滞留水処理には、日々の地下水他流入量に加え、建屋滞留水量を受け入れるタンク容量の確保が必要
 - 地下水他流入量：約400m³/日（2016.3～2016.7の平均値）
 - 建屋滞留水量：約68,000m³（2016.8時点）
- 処理期間には、タンク建設スピード、汚染水処理量や地下水他流入量が影響
- タンク建設や処理設備増設は、早期対応が困難。地下水他流入量の抑制は、処理量の増加と同等の効果があり、タンク必要容量の抑制も可能
- タンクのリプレースを含めた運用目標として、過去の実績を等を基に約500m³/日として設定
H28.11～H29.9までの建設予定数は、約520m³/日



- タンク建設は、新規エリアへの設置とフランジタンクのリプレースにより計画している。
- 特に、信頼性の低いフランジタンクは、可能な限り早期に溶接タンクにリプレースし、リスクを下げる必要があること、また、タンクの大型化等の効率化による容量増加も見込めることから、優先して実施していく。

リプレース以外のタンク増容量についての検討

- 敷地南側にはタンクを約99万m³設置しており、空きエリアは少ない。新たにタンクエリアを確保するためには、資機材移動等が必要であり、タンク建設には約2年以上を要する。このため、早期リスク低減効果は期待できない。
- 敷地北側の利用予定が無いエリアについては、大規模な土木工事を伴い、タンク設置まで約3年を要するため、早期リスク低減効果は期待できない。
- その他、例えば、既存のフランジタンク再利用等を行えば、タンク容量の早期増加が期待できるが、増容量できないことや、耐震性の向上ができなくなる等の問題もあるため、慎重に検討していく。

3-3. リプレースの効率化によるタンク容量の増加

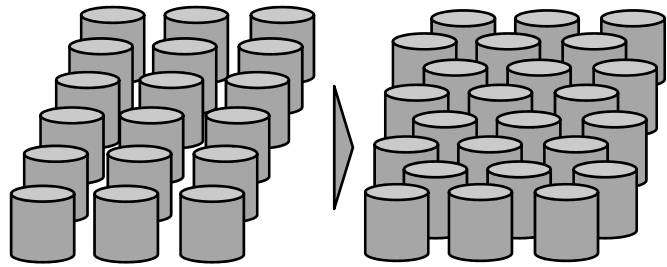
・リプレースの効率化によるタンク容量の増加

リプレースの効率化

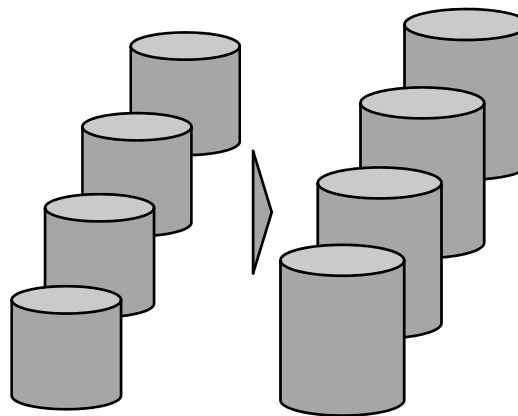
- ① タンク配置見直しにより敷地利用率を向上し、容量増加
- ② タンクの大型化により、容量増加
- ③ 横置きタンクを縦置きタンクに変更し、容量増加

+151,000m³

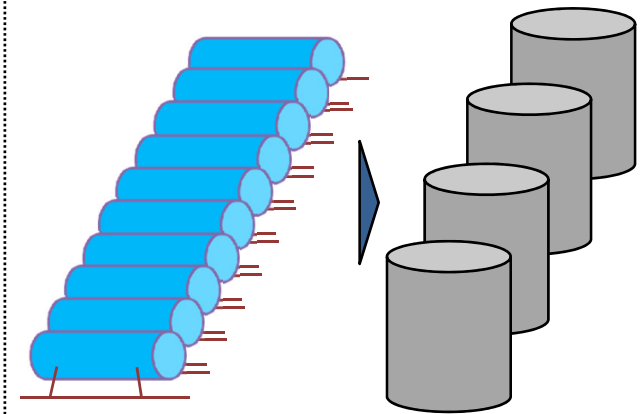
	現在の容量(m ³)	当初計画案(m ³)	改善実施後(m ³)
リプレース (H2、H4エリア)	86,000	142,000	185,000
リプレース (その他エリア)	213,000	230,000	338,000



①配置見直しにより敷地利用率を向上

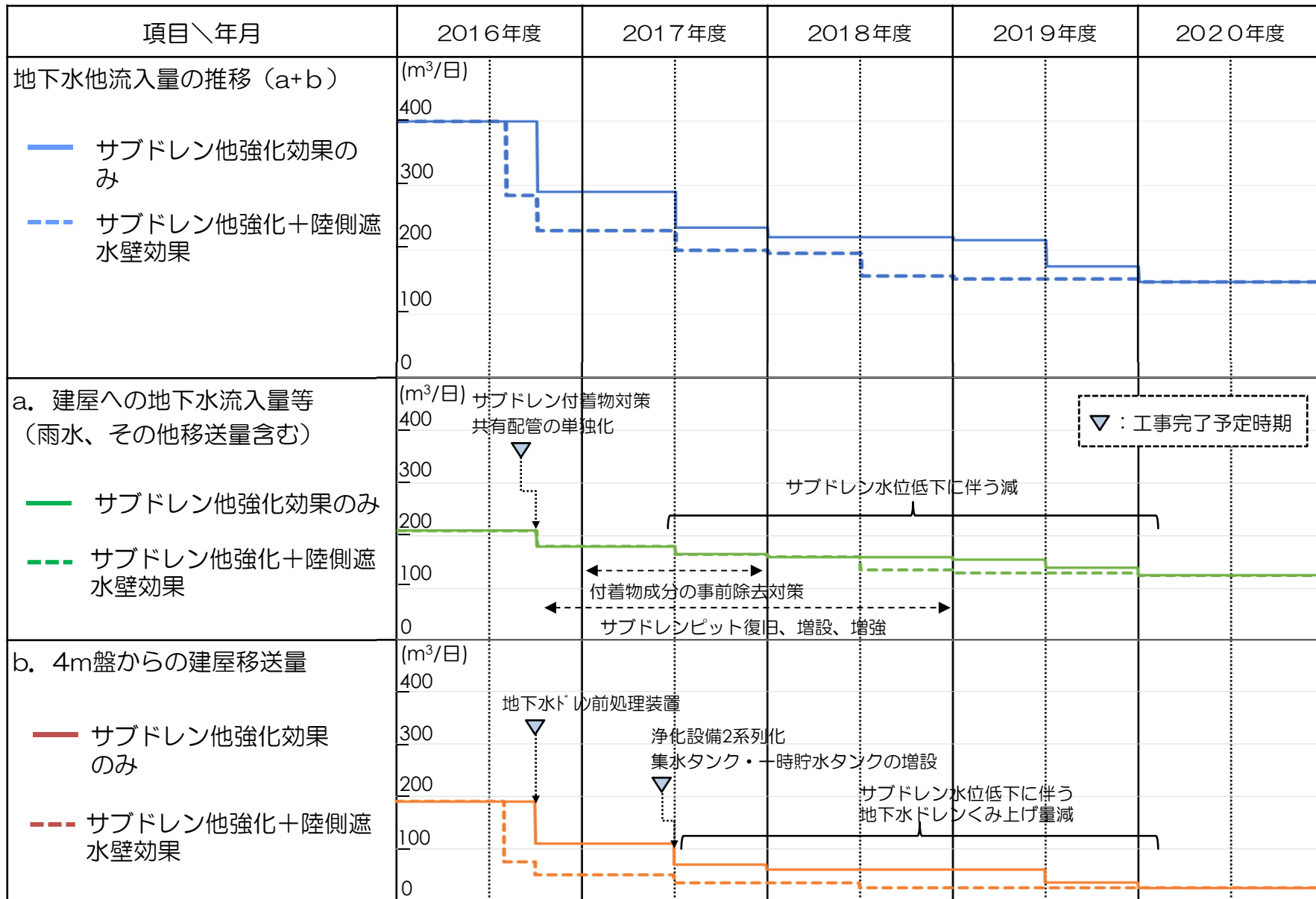


1,000m³タンク 1,200m³タンク
②タンクの大型化

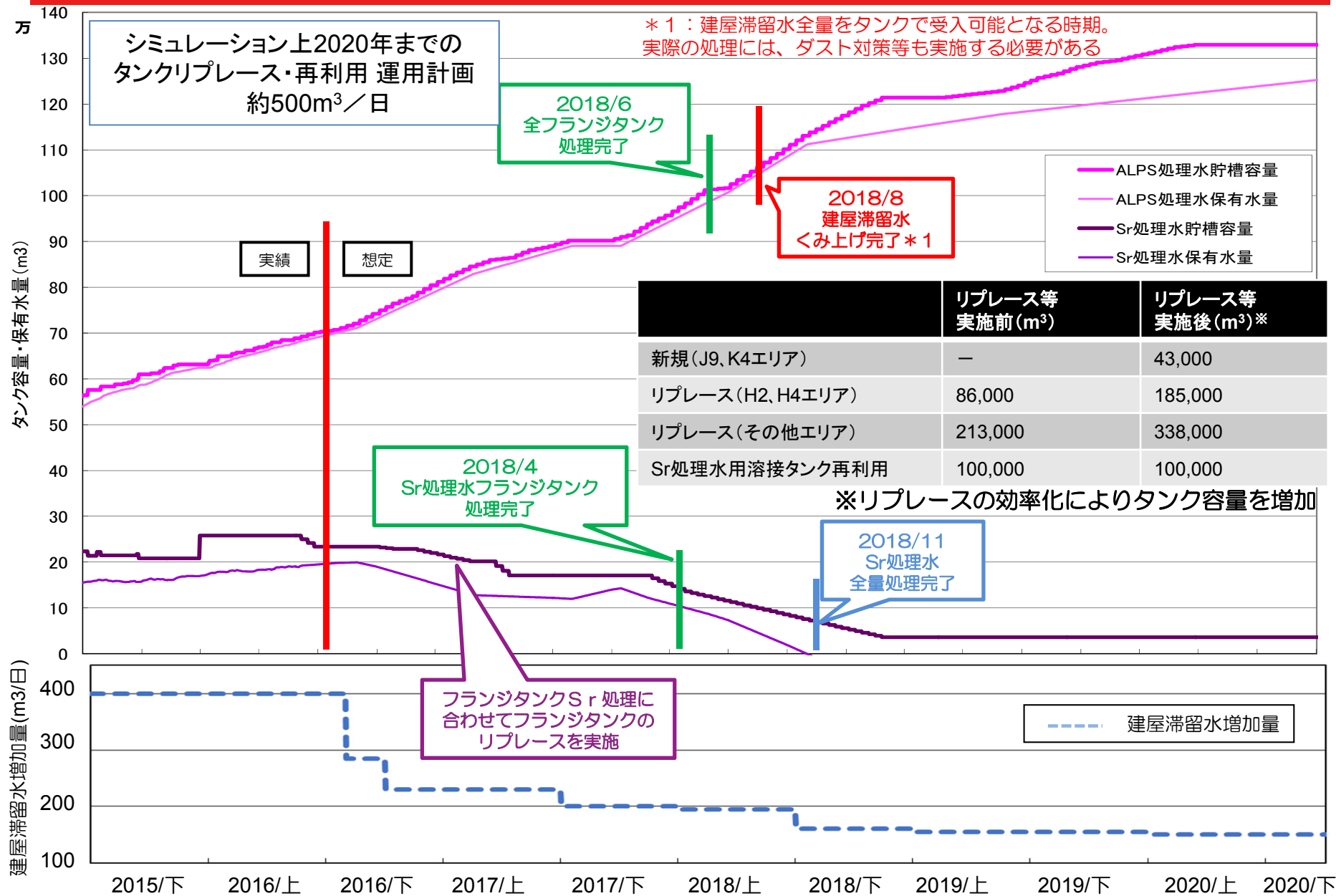


100m³タンク 1,200m³タンク
③横置きタンクを縦置きタンクに変更

4-1. リプレースの効率化によるタンク容量の増加



4-3. 水バランスシミュレーション (サブドレン他強化+陸側遮水壁の効果)



1号機 復水器水抜き及び ヒータドレン配管フラッシングについて

2016年 10月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

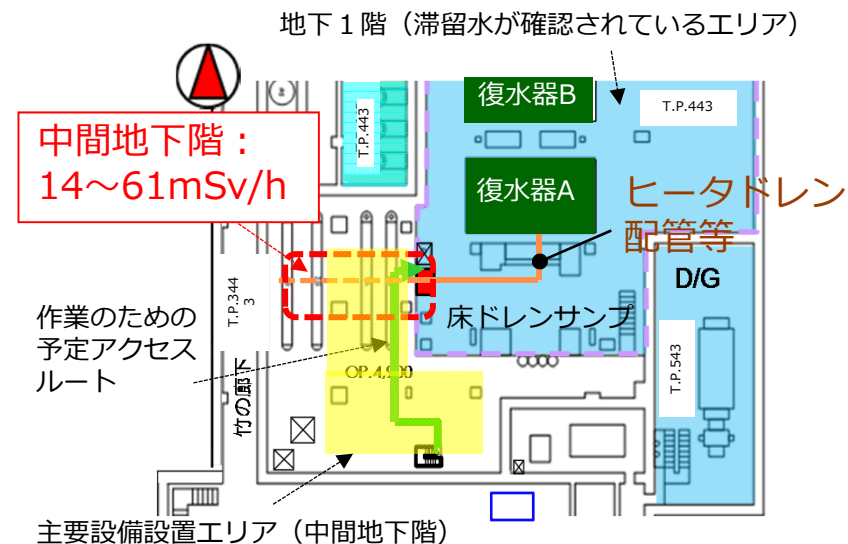
1. 目的

1号機タービン建屋滞留水処理を進めるため、今後2016年度末までに、「滞留水移送装置（残水）」として、地下1階床面の最下部（床ドレンサンプ内）に移送ポンプを、中間地下階（T.P.3443）に配管等関連設備の設置を予定。

作業場所となる中間地下階の一部エリアについては、高線量汚染水が内部に残存していると思われるヒータドレン配管等が近傍に敷設されていることから、雰囲気線量が高い（約14～61mSv/h）ことが確認されている。

地下階作業の本格実施の前に、作業員の被ばく低減を目的に、**ヒータドレン配管のフラッシングを実施**する。

ヒータドレン配管のフラッシング水は復水器内に導かれ、復水器内の貯留水を希釈することとなる。この希釈した復水器内の水を1号機廃棄物処理建屋へ移送し、これを何度か繰り返す。

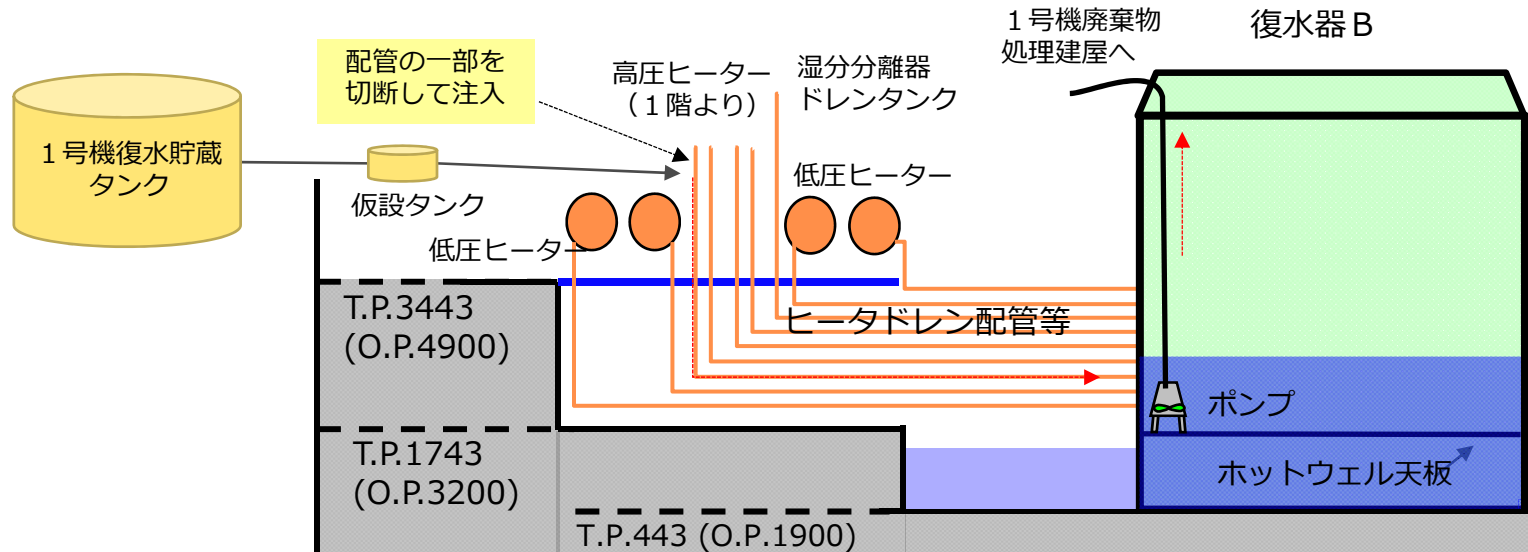


1号機タービン建屋地下階平面図

2. 作業手順概要

作業準備：1号機復水貯蔵タンクにフラッシング水（RO処理水）を給水（実施済）。

フラッシング：1号機復水器内貯留水を1号機廃棄物処理建屋へ排水（実施済）。
 フラッシング水をヒータドレン配管へ注入し、配管のフラッシングを実施。
 復水器へ流入したフラッシング水を、1号機廃棄物処理建屋へ排水。
 上記フラッシングと排水作業を複数回実施する。



復水器内貯留水サンプリング結果 (2016.3.30採取)					
分析項目	全β線	Cs-134	Cs-137	Sr-89	Sr-90
復水器 (B) (単位: Bq/L)	1.8E+09	3.2E+08	1.6E+09	<3.6E+06	5.2E+07

3. 工 程

■ 1号機復水器内貯留水の移送およびヒータドレン配管フラッシング工程は以下の通り。

作業内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1号機復水貯蔵タンク給水		■		■ (現在)		
作業準備&復水器内仮設水中ポンプ設置		■	■	■		
復水器内貯留水の移送				■		
ヒータドレン配管フラッシング /復水器内フラッシング水の排水				■	■	
地下階エリア移送ライン敷設						■

● 復水器からの移送実績

2016. 10. 5 (水)	60m ³	
2016. 10. 6 (木)	50m ³	
2016. 10. 7 (金)	60m ³	
2016. 10. 11 (火)	60m ³	
2016. 10. 20 (木)	80m ³	(フラッシング水 100m ³ 注入後)
2016. 10. 25 (火)	80m ³	(フラッシング水 60m ³ 注入後)

■ : 実施済
 ■ : 実施予定

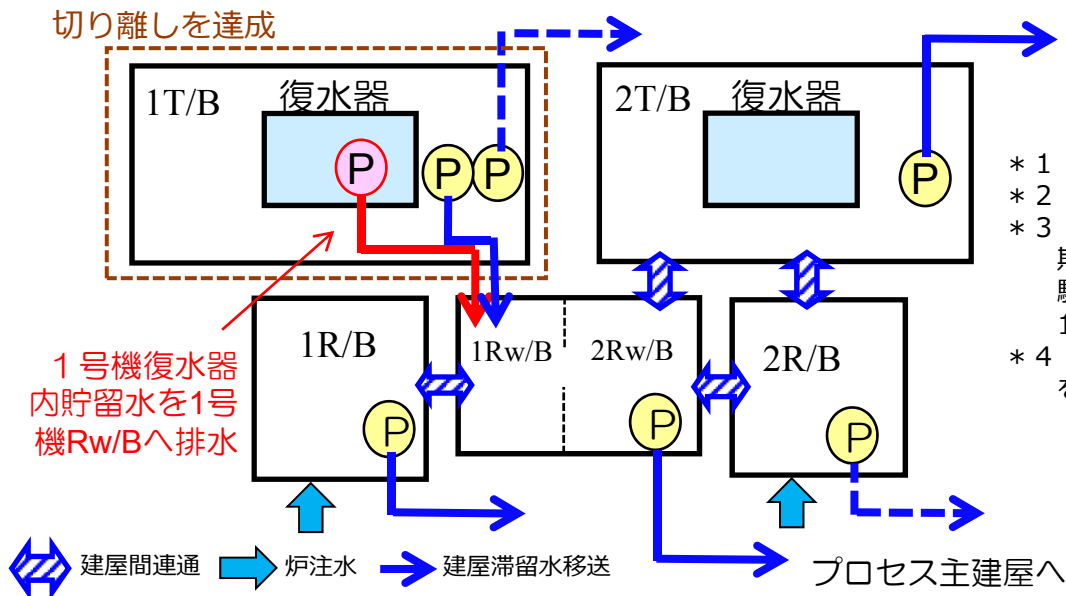
4. 建屋滞留水への影響

■ 1号機復水器内貯留水の移送計画

1号機復水器内貯留水の排水先である1号機Rw/Bは主に2号機Rw/B*¹と連通しており、2号機Rw/Bの滞留水移送ポンプを起動し、プロセス主建屋*²へ滞留水を移送後、KURIONにて処理。

■ KURION入口水の放射能濃度（予測と実績）

期間	移送予定/実績量(m ³)	濃度(Cs137)予測* ¹ (Bq/L)	濃度(Cs137)実績* ³ (Bq/L)	備考
2016.10.5~ 2016.10.11	約230m ³ (実績)	2.2×10 ⁷	2.6×10 ⁷ (2016.10.13採取)	復水器内貯留水を排水
2016.10.20~ 2016.11.1	約240m ³ (予定)	3.6×10 ⁷ (見直し* ⁴)	追而 (2016.11.2頃採取予定)	復水器内貯留水の希釈水を排水
2016.11.8~ 2016.11.17	約180m ³ (予定)	4.0×10 ⁷ (見直し* ⁴)	追而 (2016.11.18頃採取予定)	復水器内貯留水の希釈水を排水



- * 1 地下階の連絡通路にて連通が確認されており、連通性が良い
- * 2 高温焼却炉建屋より容量が大きいことからプロセス主建屋を選択
- * 3 移送開始前の濃度は 1.6×10^7 Bq/Lであり、濃度予測と実績は当該期間の移送終了時点とする。なお、濃度上昇の上限は過去の運転経験上、KURIONが安定的に運転できる範囲として、 1×10^8 Bq/L程度を目安とする。
- * 4 10/13の分析結果と予測値に若干の乖離があったことから、見直しを実施

【参考】 1号機タービン建屋滞留水処理工程



■ 1号機タービン建屋の滞留水処理スケジュールは以下の通り

	2015年度			2016年度												2017年度				
	1	0	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	0	1	1	2	1	2	3
主要イベント	▼サブドレン稼働 ▼海側遮水壁鋼矢板閉合			▼原子炉建屋との切り離し完了 ▼陸側遮水壁（海側）凍結開始																
移送設備追設	現場調査			線量低減(中間階床面)			復水器内貯留水処理			配置成立性／施工方法検討			干渉物撤去			移送設備設置				
ダスト抑制	ダスト濃度測定／ダスト評価												ダスト抑制							

最下階床面露出▽
滞留水移送開始▽

Eタンクエリア D-5タンク フランジ部から内堰内への水滴下 について

2016年10月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 事象

EエリアD 5タンク第3フランジ部から内堰内への水の滴下が発生した。

2. 時系列

10 / 6

- 12 : 15 タンクパトロール員よりEエリアD 5タンク第3フランジ部T字部位より水の滴下を発見5～6滴 / 1秒。
(タンク水位 : 92.7%, 第3フランジ部 : 75.6%)
- 12 : 17 委託員より水処理当直長へ状況報告
- 13 : 09 当該部からの漏えい水が堰内に落ちないように養生開始
- 13 : 40 漏えい箇所養生完了 (仮設受タンクへ受入開始)
- 14 : 30 滴下水のサンプリング実施
サンプリング結果 (全β放射能) 5.9E+05Bq/L
- 18 : 00 EエリアD 5タンクからEエリアB6タンクへ移送開始

10 / 7

- 7 : 50 EエリアD 5タンクからEエリアB6タンクへ移送終了
(タンク水位 : 92.7% → 71.4%)
- 8 : 00 第3フランジ締結部T字部位より漏洩の無いことを確認

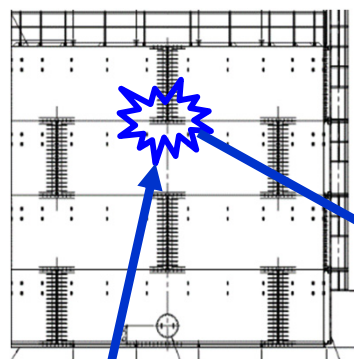
3. 漏えい量（推定）

- ✓ 約32 L（現場状況より、5.4 L / 時間 * 約6時間）：Sr処理水
※前回パトロール時間から養生完了まで

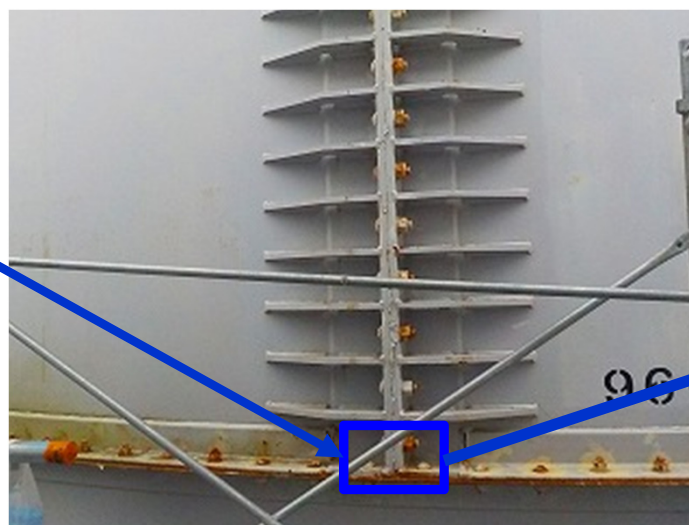
4. 漏洩箇所

- ✓ 第3フランジ締結部T字部位

【EエリアD5タンク漏洩箇所】



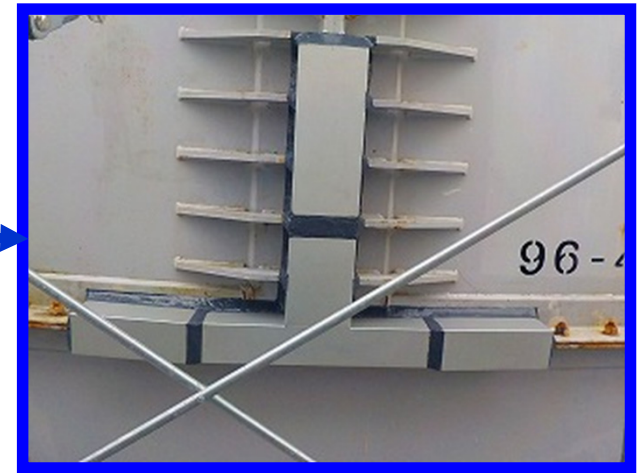
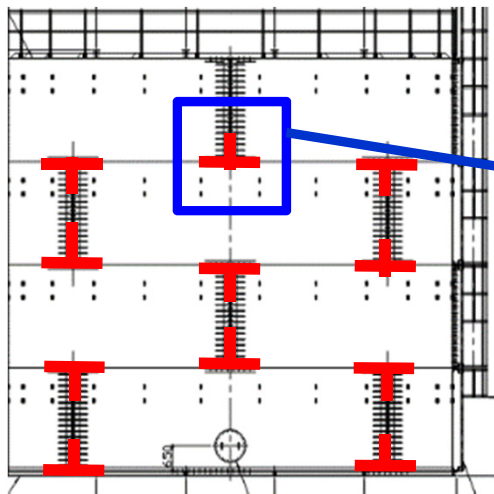
滴下の発生箇所



1. タンクの補修について

- ✓ D5タンクフランジ締結部のT字部位（28箇所）の止水補修終了。（10/25終了）

【フランジ締結部のT字部の止水補修状況】

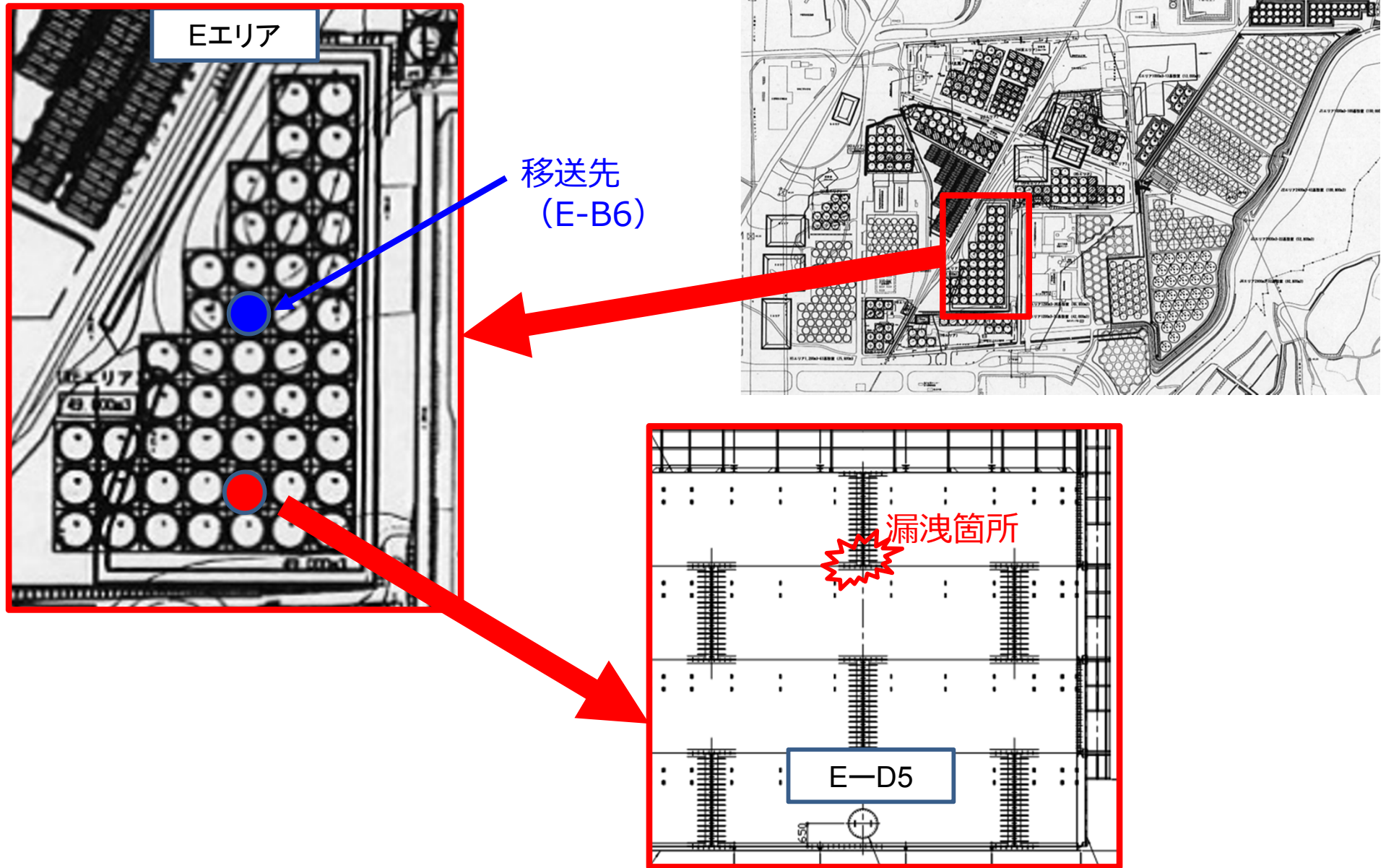


赤線部：補修箇所

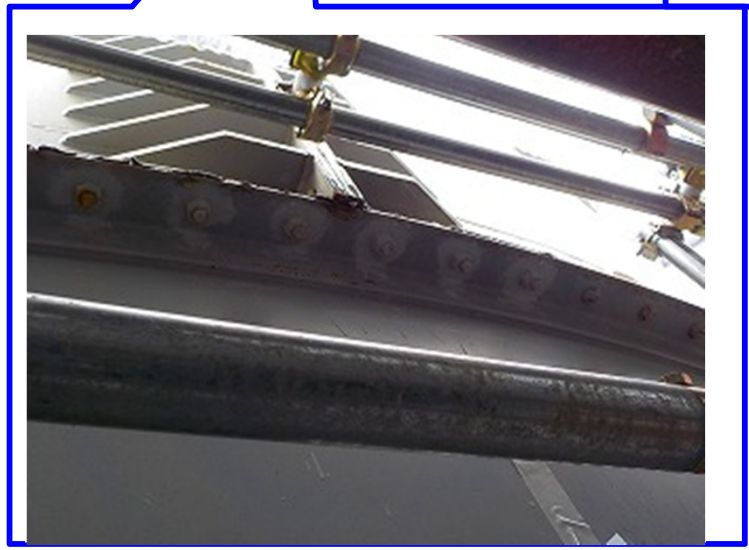
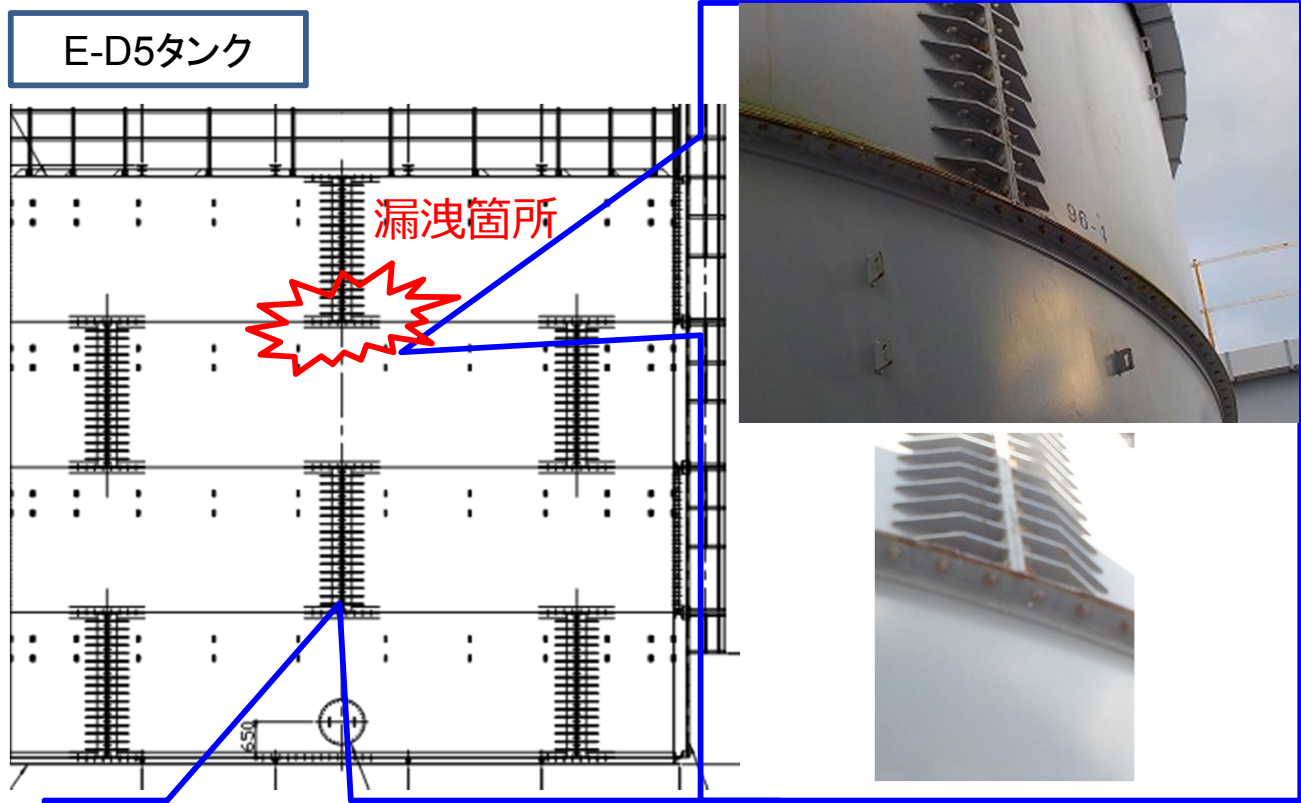
2. 原因調査について

- ✓ 漏えい箇所のフランジ締結部については、フランジ部のパッキン等に何らかの原因があると考えられるが、詳細の調査にはタンクの解体が必要なことから、今後タンクリプレースに併せ調査を行う計画。なお、ボルトについては、止水補修時に緩みの無いことを確認。

【参考】漏えい箇所



【参考】漏えい状況・応急処置



多核種除去設備 鉄共沈処理配管溶接部から堰内への滴下事象

2016年10月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

■概要

- 多核種除去設備A系統の鉄共沈処理プロセスにおけるクロスフローフィルタ（CFF）下流の配管溶接部から滴下を確認
- 滴下した水は多核種除去設備の堰内に留まっており、建屋外への漏えいには至っていない

■時系列

【10/15】

- 10:40 作業員より溜り水発見の連絡
- 11:13 当社の当直員がCFFとデカントタンク間の配管下部に溜り水（約3cm×約4cm×深さ約1mm）を確認
- 11:53 当該箇所上流の弁「閉」操作を実施
- 14:10 保温材をはがし配管溶接部より1分あたり1滴程度の滴下を確認
- 14:49 当該滴下箇所をテープ養生するとともに下部にビニル養生を実施
その後、滴下は確認されていない

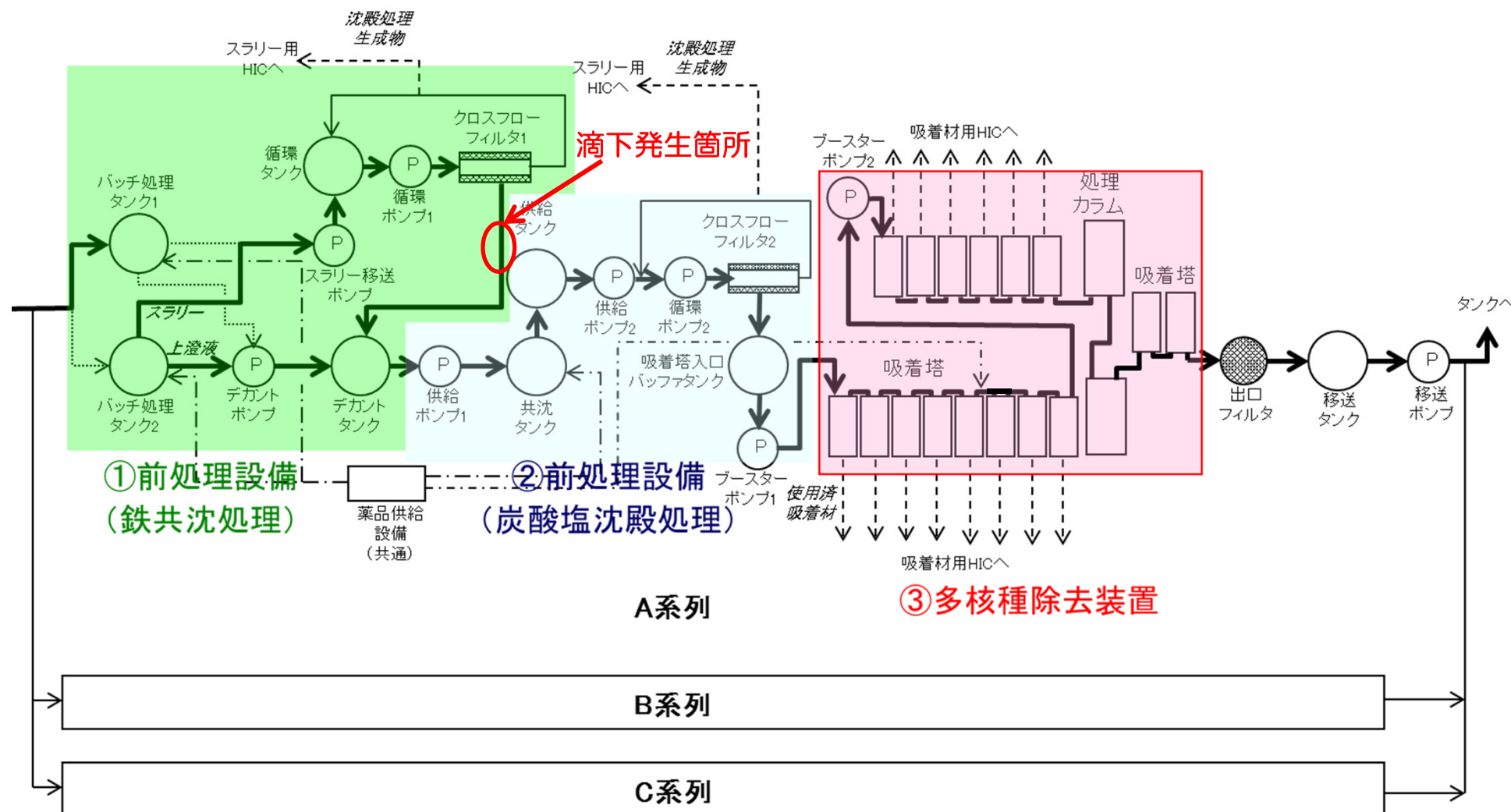
【10/17,18】

当該箇所の水抜きを実施

※なお、A系統については、CFFの酸洗浄のため、10/12より停止中であった。

滴下発生箇所

■滴下発生箇所



滴下箇所の状況

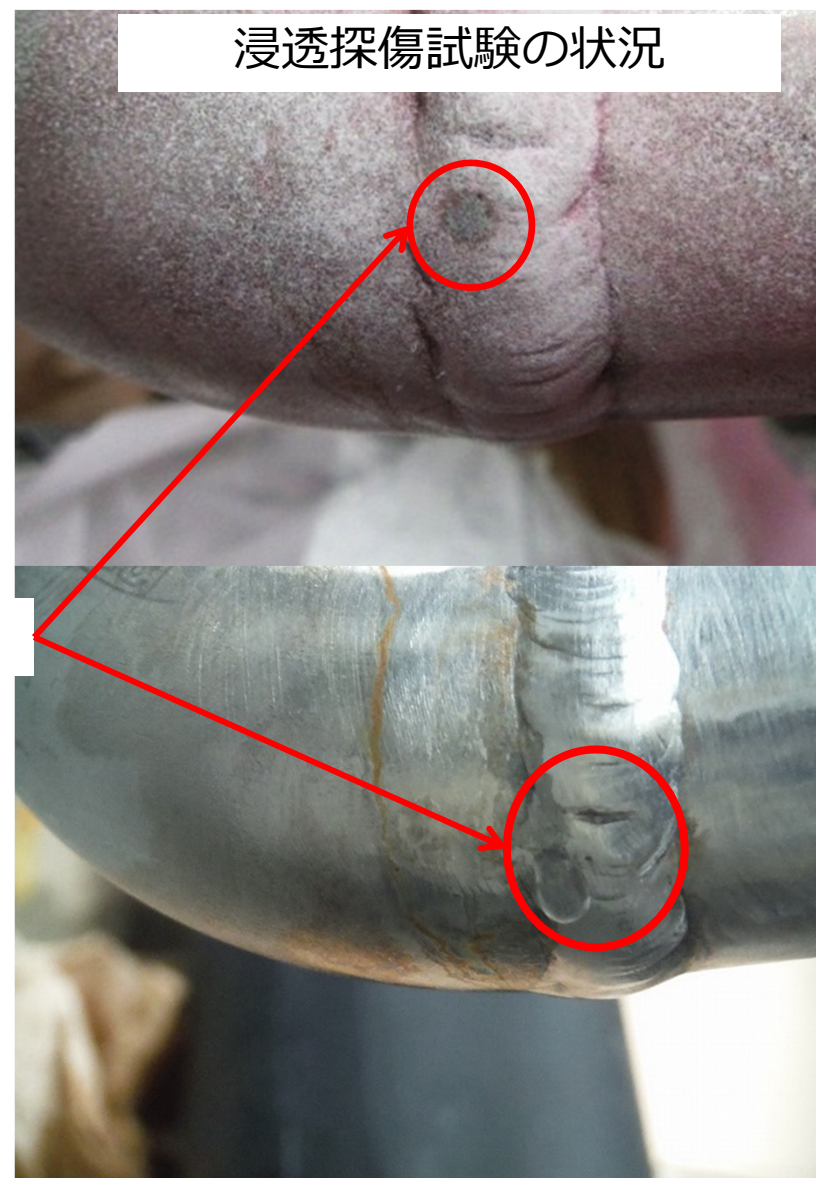
■滴下箇所の状況

- ・発生箇所：配管エルボ部溶接部（1箇所）
- ・配管仕様：材料「SUS316L」、口径「25A」
- ・内包流体液性：中性
- ・当該溶接部に対する点検実績はなし



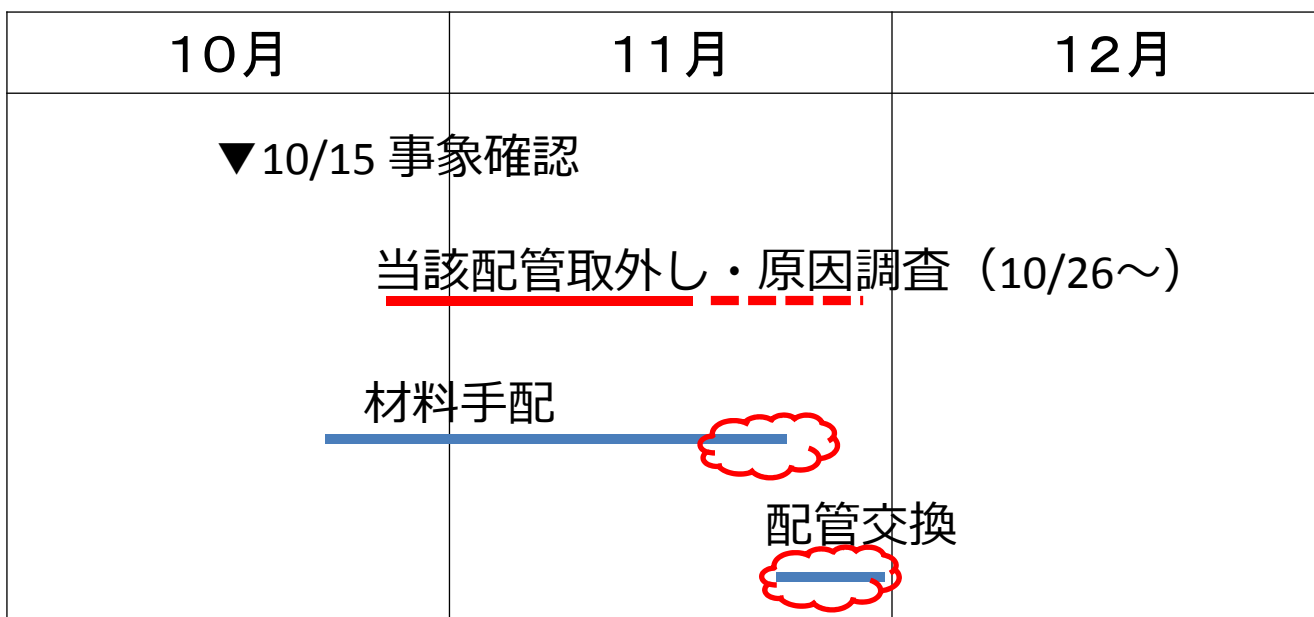
拡大

滴下発生箇所



B C 系統の調査状況及び今後の予定

- 類似箇所の調査状況
 - B C 系統の類似箇所に対し溶接部の目視及び浸透探傷検査を実施し異常がないことを確認
- 今後の予定
 - 当該箇所の配管を取外し詳細な調査を実施予定
 - 今後、当該配管の取替え実施



詳細調整中

多核種除去設備 吸着塔 1 5, 1 6 塔目吸着材排出ラインから堰内 への滴下事象

2016年10月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

■概要

- 多核種除去設備共通系統の吸着塔15,16塔目の使用済み吸着材排出ラインから滴下を確認。
- 滴下した水は多核種除去設備の堰内に留まっており、建屋外への漏えいには至っていない

■時系列

【10/17】

- 16:20頃 協力企業社員が多核種除去設備 A 系の吸着塔近傍において、配管保温材からの滴下及び溜り水（約20cm×約10cm×深さ約1mm）を 2 箇所を確認。滴下の頻度は20秒に1滴程度
- 16:35頃 滴下箇所（2 箇所）に対して水受け養生を実施
- 17:37頃 保温材を外して配管の状況を確認したところ、配管のエルボ部 1 所のにじみを確認。その後、にじみの確認された箇所に対し応急処置としてテーピングを実施

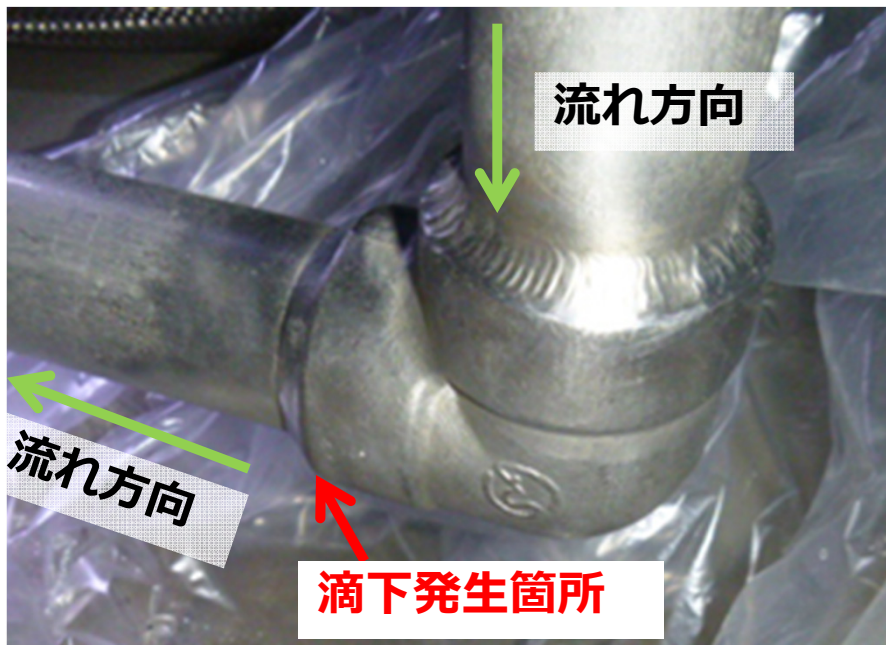
【10/18】

- 10:40頃 テーピング箇所からの滴下及びにじみがないことを確認
- 12:30頃 当該配管内の水抜きを実施

滴下箇所状況

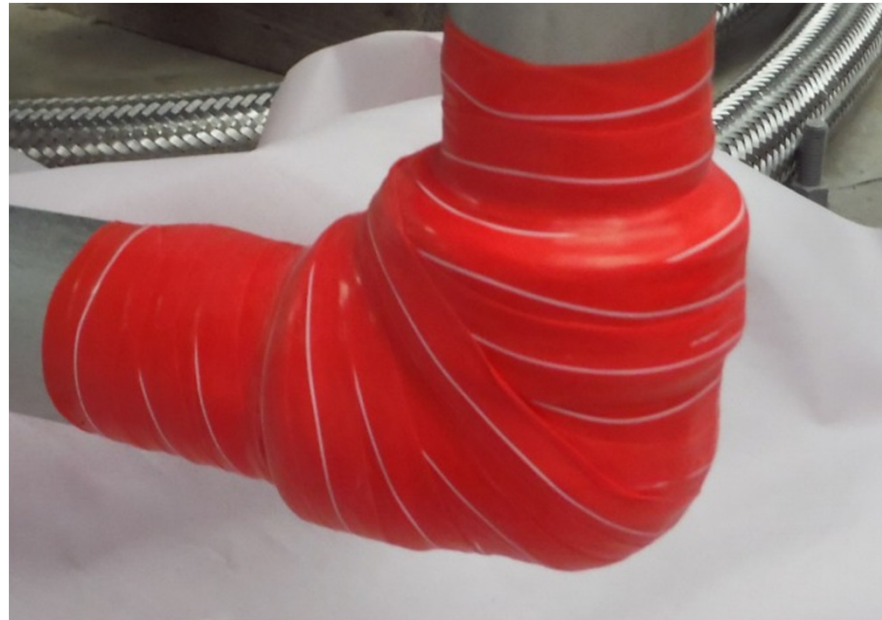
■ 滴下箇所の状況

- 滴下は配管エルボ部（SUS316L）より発生（1箇所）
- 当該ラインは使用済み吸着材の排出時に使用するラインであり、事象確認時は吸着材の排出を行っていなかったものの、配管内には水が残留していた状態
- 当該溶接部に対する点検実績はなし



滴下発生箇所の状況（保温材取外し後）

- 応急処置の状況
 - 当該箇所に対し応急処置として自己融着テープを取付け、滴下及びにじみのないことを確認
 - 空気圧による漏えい確認を実施し、当該配管を用いた吸着材排出を可能な状態であることを確認済み




今後の予定

■今後の予定

- 当該箇所における滴下発生の原因調査及び類似箇所に対する調査要否について検討
- 当該配管については、フレキ管（EPDM）に交換を検討中

10	11	12	1
▼10/17 事象確認			
▼10/25 応急処置後漏えい確認実施			
原因調査・類似箇所調査要否検討			
<hr style="border-top: 1px solid red; border-bottom: 1px dashed red;"/>			
材料手配			
<hr style="border-top: 1px solid blue;"/>			
配管交換			
<hr style="border-top: 1px solid blue;"/>			

 詳細調整中

サブドレン他水処理施設の状況について

2016年10月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. サブドレン他水処理施設の概要

■ サブドレン他水処理施設は、集水設備、浄化設備、移送設備から構成される。

<集水設備>

サブドレン集水設備

1～4号機タービン建屋等の周辺に設置されたサブドレンピットから地下水をくみ上げる設備

地下水ドレン集水設備

海側遮水壁と既設護岸の間に設置された地下水ドレンポンドから地下水をくみ上げる設備

<浄化設備>

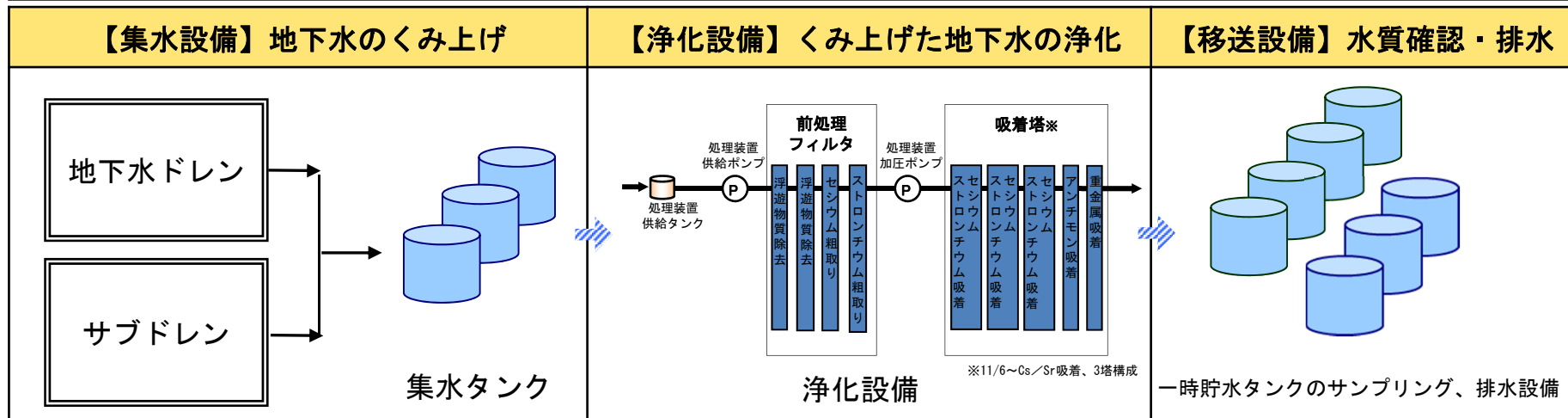
サブドレン他浄化設備

くみ上げた水に含まれている放射性核種（トリチウム除く）を十分低い濃度になるまで除去し、一時貯水タンクに貯留する設備

<移送設備>

サブドレン他移送設備

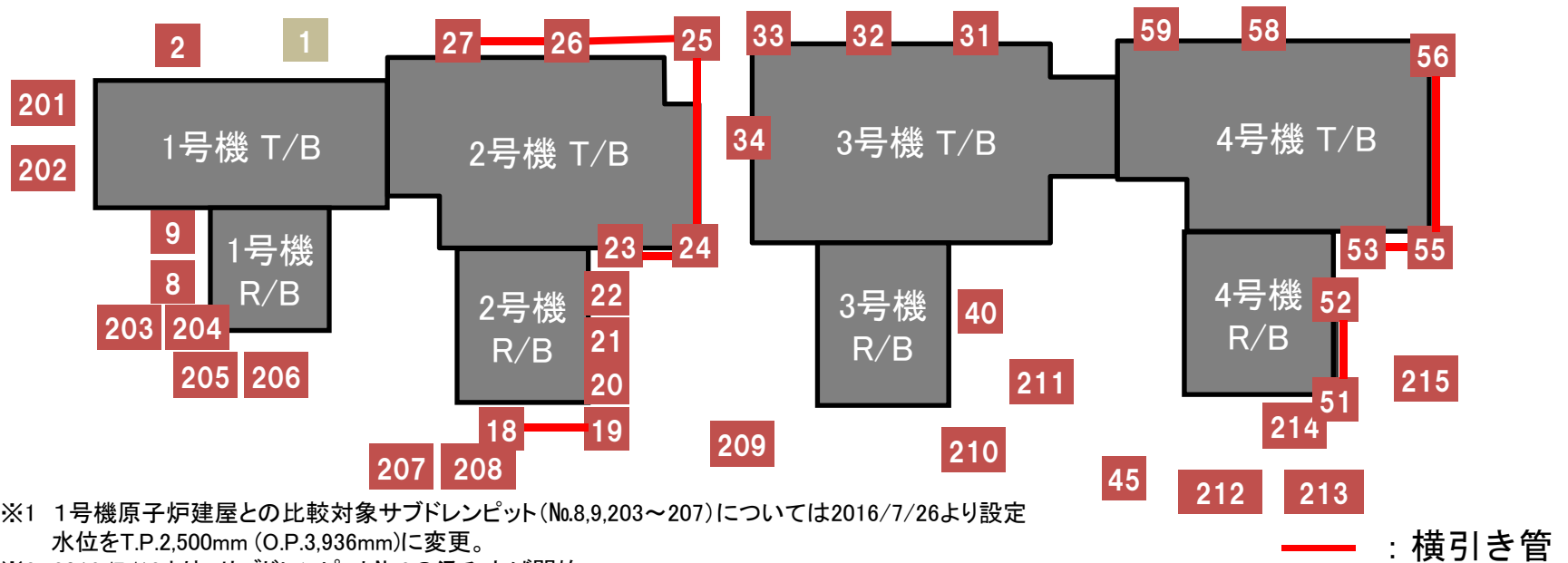
一時貯水タンクに一時貯留した処理済水を水質分析した後、排水する設備



2-1. サブドレンの汲み上げ状況（24時間運転）

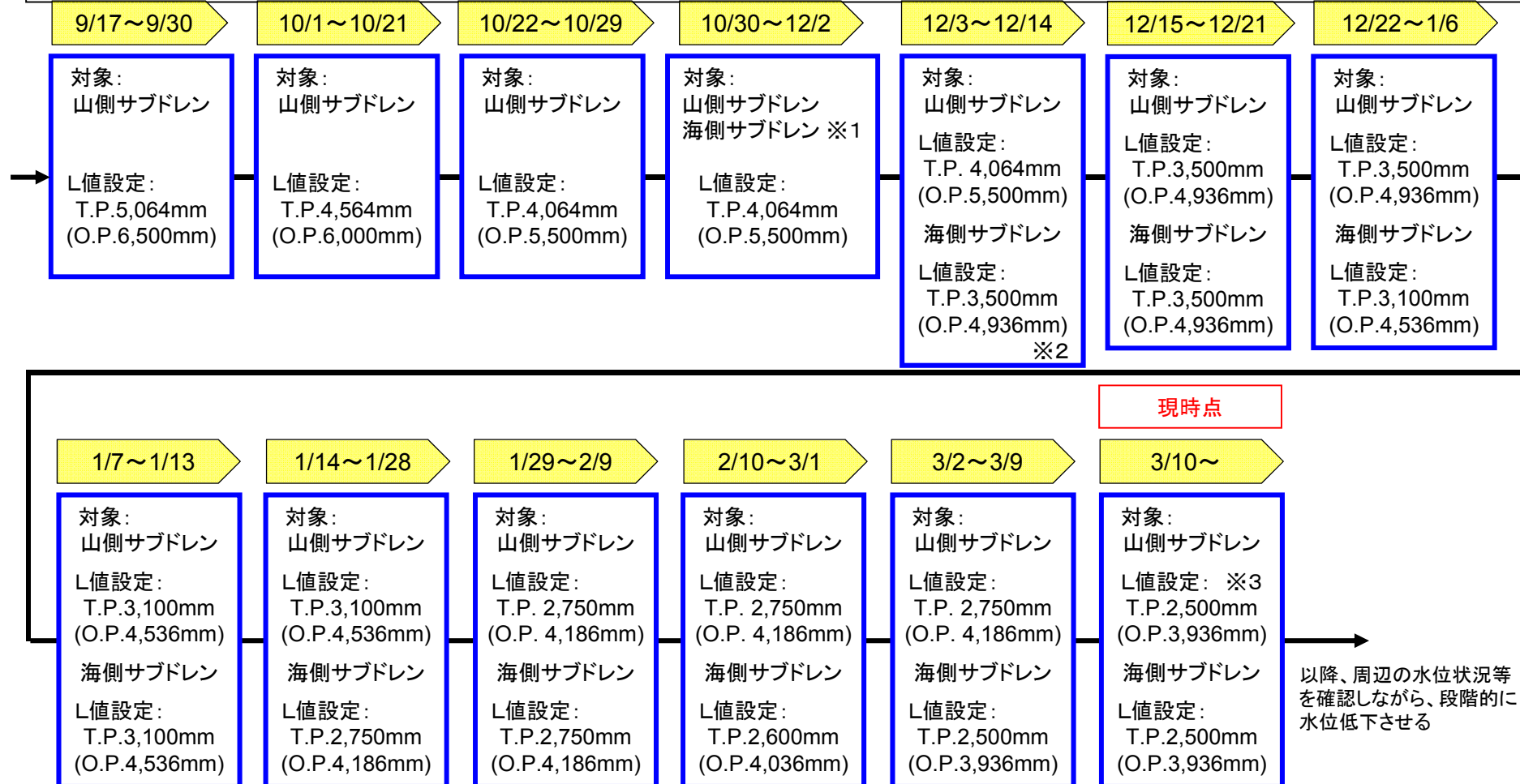
- 山側サブドレンL値をT.P.5,064 (O.P.6,500)から稼働し、段階的にL値の低下を実施。
実施期間：2015年9月17日～
L値設定：2016年3月10日～ T.P.2,500 (O.P.3,936)で稼働中。※1
- 海側サブドレンL値をT.P. 4,064 (O.P.5,500)から稼働し、段階的にL値の低下を実施。
実施期間：2015年10月30日～
L値設定：2016年3月2日～ T.P.2,500 (O.P.3,936)で稼働中。 ※2
- 一日あたりの平均汲み上げ量：約400m³（2015年9月17日15時～2016年10月24日15時）

■ : 稼働対象 ■ : 稼働対象外



2-2. サブドレン稼働状況

■ 2015/9/17より山側サブドレン24時間稼働を開始し、以降段階的水位低下を実施。



※1 2015/11/17より、T.P.3,964mm (O.P.5,400mm)で稼働。

※2 2015/12/3よりNo.201,202,23,24,25,26,27,32,33,34,53,55,58の設定水位をT.P.3,500mm (O.P.4,936mm)に変更。

※3 1号機原子炉建屋との比較対象サブドレンピット(No.8,9,203~207)については2016/7/26より設定水位をT.P.2,500mm (O.P.3,936mm)に変更。

3. 至近の排水実績

- サブドレン他浄化設備は、2015年9月14日に排水を開始し、2016年10月24日までに260回目の排水を完了。排水量は、合計211,122m³。
- 一時貯水タンクの水質はいずれも運用目標（Cs134=1, Cs137=1, 全β=3, H3=1,500(Bq/L)）未満である。

排水日		10/15	10/17	10/18	10/20	10/23	10/24
一時貯水タンクNo.		F	G	A	B ※	D	E
浄化後の水質 (Bq/L)	試料採取日	10/10	10/12	10/13	10/15	10/18	10/19
	Cs-134	ND(0.65)	ND(0.68)	ND(0.74)	ND(0.62)	ND(0.74)	ND(0.62)
	Cs-137	ND(0.53)	ND(0.68)	ND(0.53)	ND(0.53)	ND(0.68)	ND(0.75)
	全β	ND(2.4)	ND(2.4)	ND(2.4)	ND(2.4)	ND(2.2)	ND(2.3)
	H-3	400	440	450	440	380	400
排水量(m ³)		794	836	993	727	987	976
浄化前の水質 (Bq/L)	試料採取日	10/7	10/9	10/10	10/12	10/15	10/16
	Cs-134	15	16	15	12	17	16
	Cs-137	83	99	61	68	100	82
	全β	—	—	—	250	—	—
	H-3	350	450	500	400	430	390

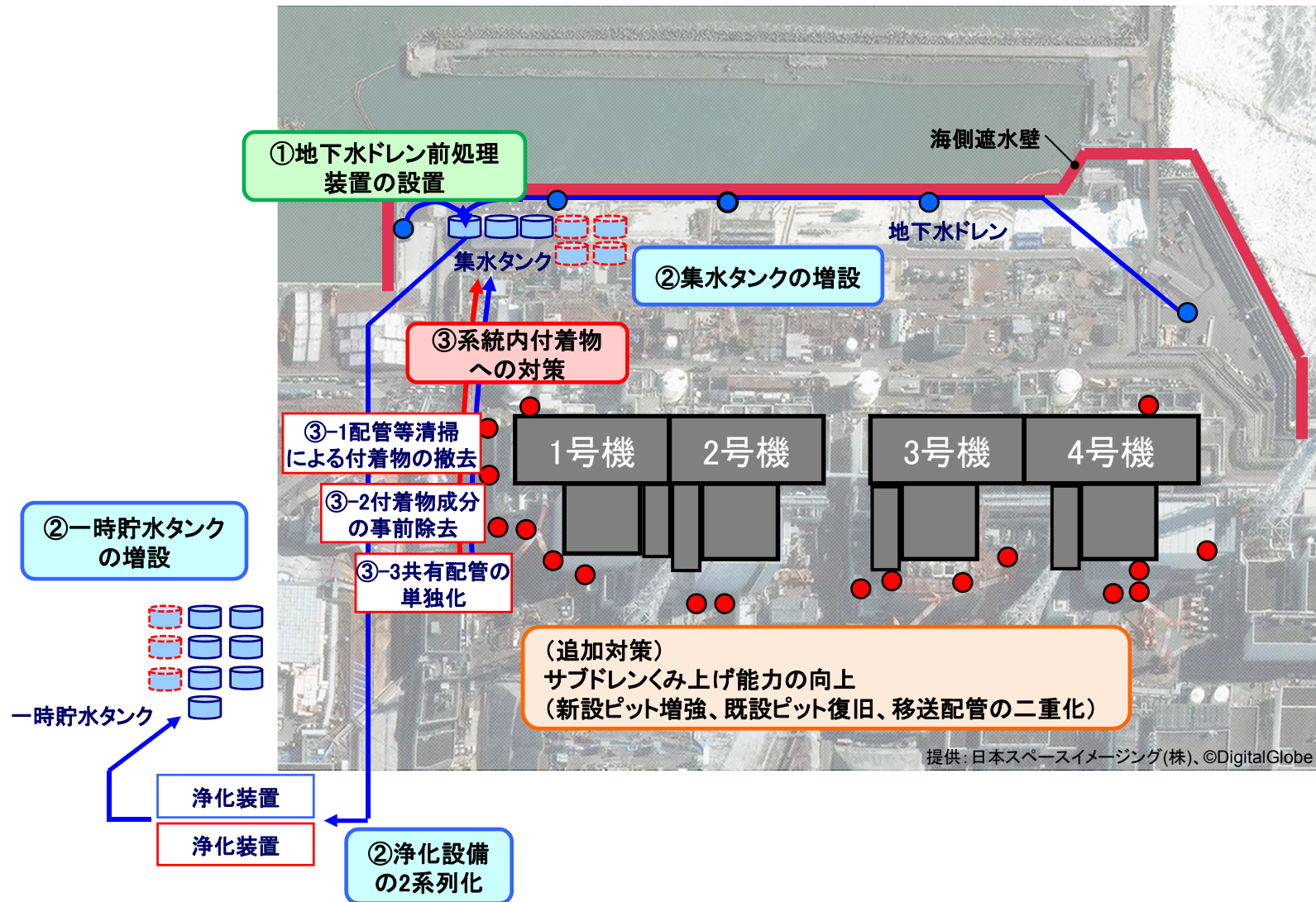
*NDは検出限界値未満を表し、()内に検出限界値を示す。

*運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を1 Bq/Lに下げて実施。

*浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。

※ 一時貯水タンクNo.Bの次に排水を予定していた一時貯水タンクNo.Cについては、再浄化してからサンプルタンクAへ移送した後、排水を実施する予定。

4-1. サブドレン他強化対策



4-2. サブドレン他強化対策スケジュール

対策	2016年度(H28)				2017年度(H29)				2018年度(H30)			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
① 地下水ドレン前処理装置の設置		[工事期間]			▼							
② 集水タンクの増設 浄化設備の2系列化 一時貯水タンクの増設												
					▼	[工事期間]						
③-1 配管等清掃による付着物の撤去	[工事期間]			▼	以降、計画的に順次実施							
③-2 付着物成分の事前除去												
③-3 共有配管の単独化												
追加 サブドレンくみ上げ能力の向上												

[青い棒] : 工事期間 (予定) ▼ : 工事完了 (予定)

5. 地下水ドレン水位と港湾内海水中放射性物質濃度の推移

- 海側遮水壁閉合前後における地下水ドレン水位と、1～4号機取水路開渠内南側（遮水壁前）海水中放射性物質濃度の推移は下記の通り。

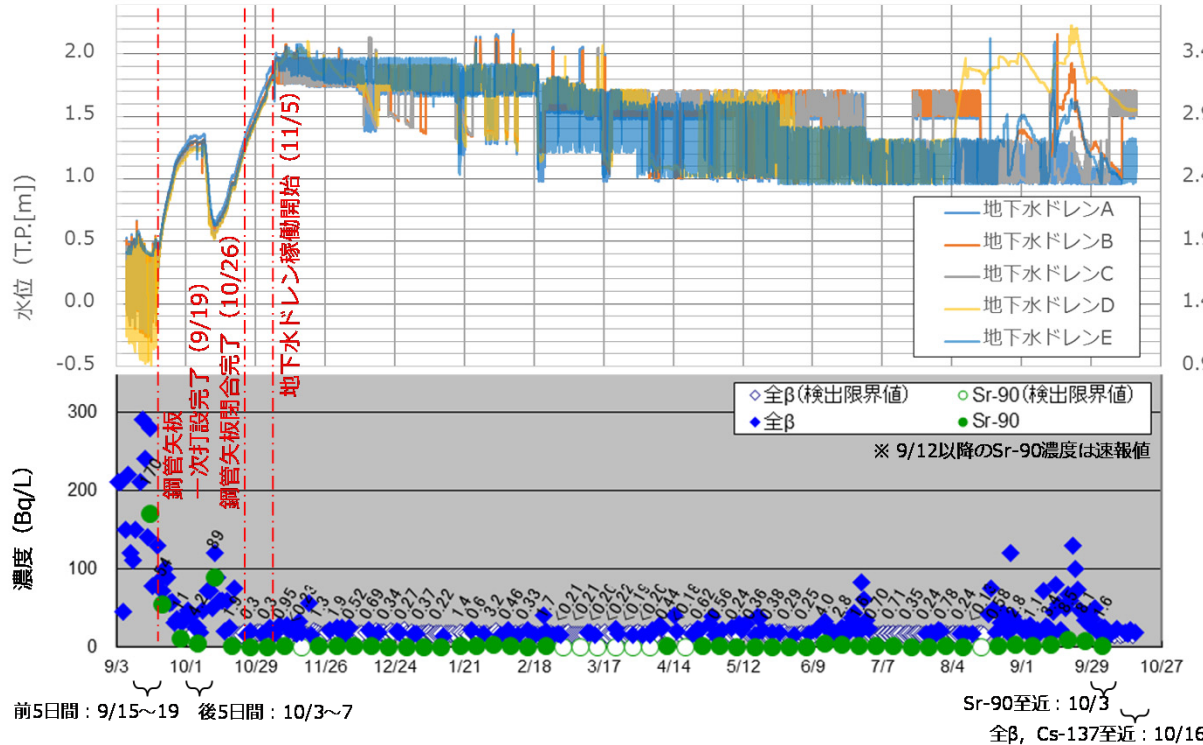


図 地下水ドレン水位と1～4号機取水路開渠内南側（遮水壁前）海水中放射性物質濃度の推移

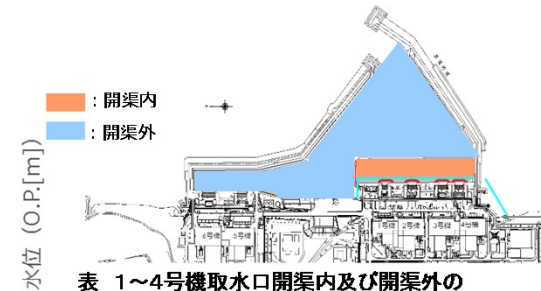


表 1～4号機取水口開渠内及び開渠外の測定地点における海水中放射性物質濃度平均値 (Bq/L)

		前5日間	後5日間	至近
		平均値 ^{※1}	平均値 ^{※2}	平均値 ^{※3}
全β	開渠内	150	26	19
	開渠外	27	16	17
Sr-90	開渠内	140	8.6	1.6
	開渠外	16	2.1	0.26
Cs-137	開渠内	16	3.8	4.3
	開渠外	2.7	1.1	0.90
H-3	開渠内	220	110	39
	開渠外	1.9	9.4	1.9

※1 H-3については、前5日間のデータがないため、前10日間の平均値

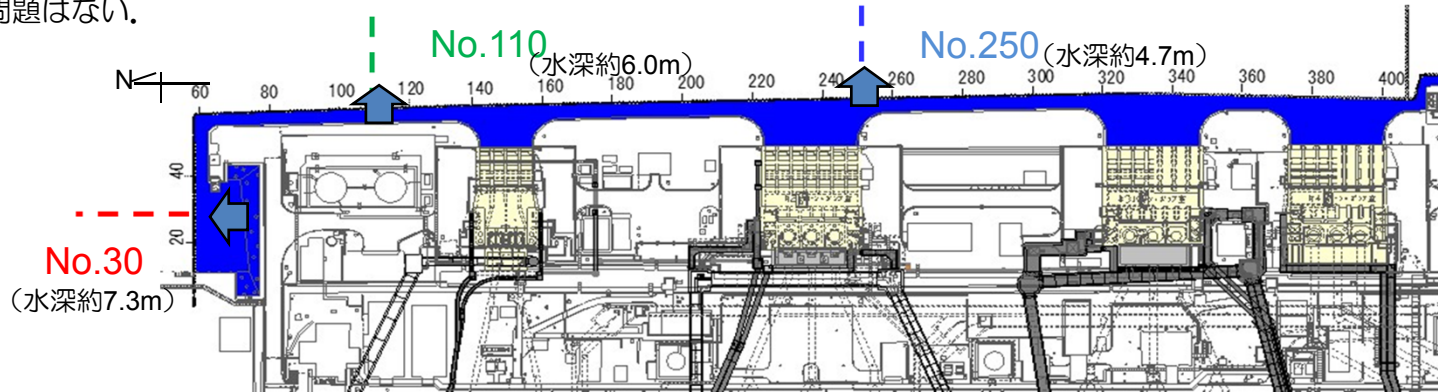
※2 後5日間は、地下水ドレン水位が一定及び降雨がない期間を選定

※3 全βとCs-137は10/17、Sr-90開渠内(速報値)は10/3、Sr-90開渠外は9/5、H-3は10/10に採取した各地点の平均値

- 鋼管矢板打設により地下水ドレン水位が上昇し、海水中の全ベータ、ストロンチウムの濃度低下や、セシウム、トリチウムも低い濃度で推移していることから、海側遮水壁の効果は発揮されている。
- 豊水期に入っていることから、地下水ドレンの稼働水位を下げ、地下水位を低下させている。
- 今後もモニタリングを継続する。

<参考 1> 鋼管矢板のたわみに伴う杭頭変位について

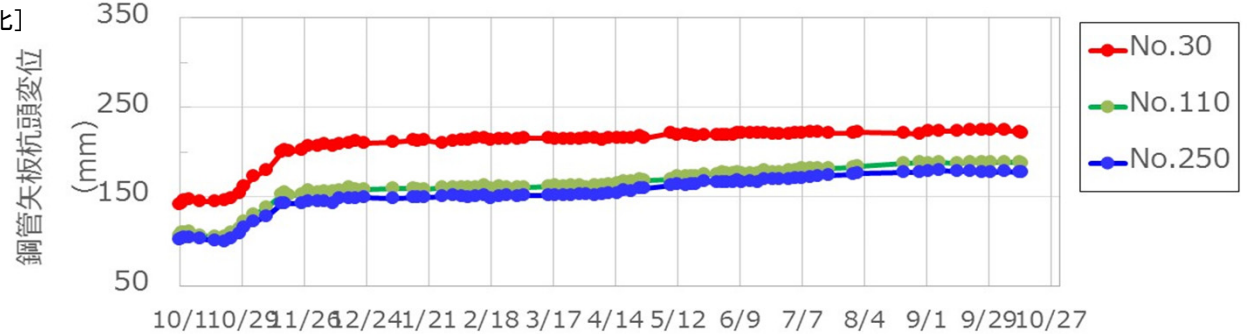
- ▶ たわみに伴い生じた鋼管矢板杭頭変位については、引き続き、傾向を確認していく。現状の杭頭変位においては、鋼管矢板の健全性に問題はない。



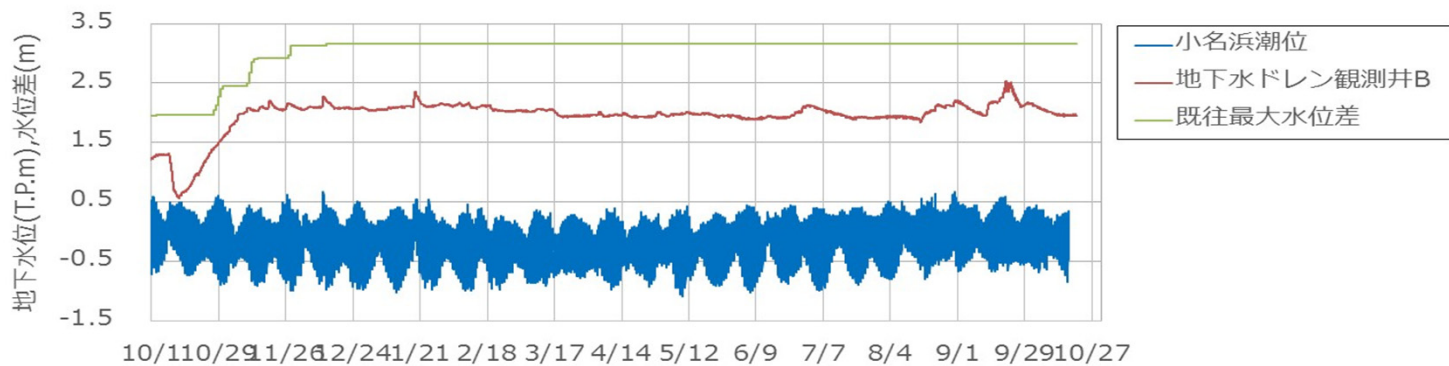
【凡例】
 - - - 代表断面
 ← 変位方向

※水深は福島第一原子力発電所の平均潮位を基準。

[杭頭変位の経時変化]

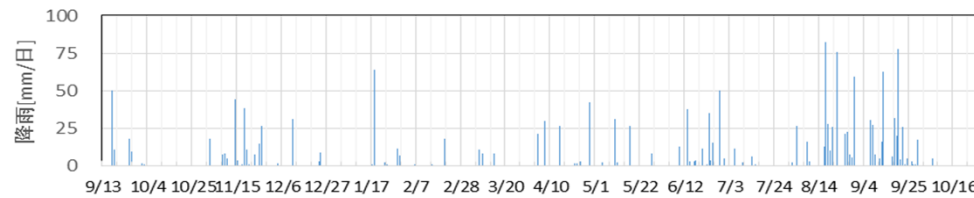
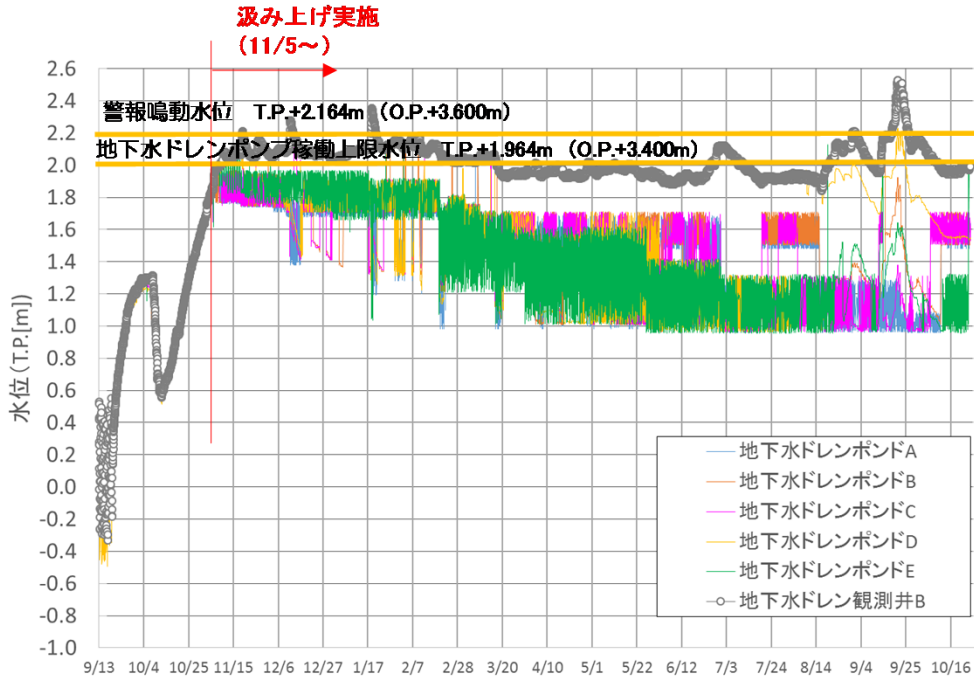


[地下水位, 水位差の経時変化]

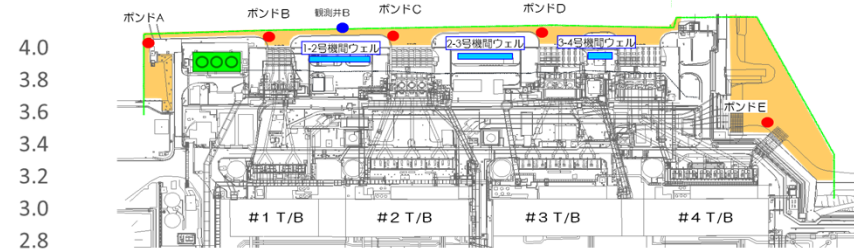


<参考2> 地下水ドレン水位および稼働状況

■ 海側遮水壁の閉合以降、地下水ドレンポンド水位が上昇したことから、11/5より汲み上げを開始。



※水位(O.P.)は、震災前標高と比較しやすいよう、目安として記載しているもの。
 (水位(T.P.)を水位(O.P.)に換算する場合は、約1.4m~1.5m加算する。)
 ※水位計点検時の水位データは除く。
 ※地下水汲み上げにより観測井Cの地下水水位データが欠測しているため、
 観測井Bのデータを使用する。



サブドレン集水タンク及びT/B移送量 (m³/日平均)

水位O.P.[m]	地下水ドレン				
	ポンドA ポンドB	ポンドC ポンドD	集水タンク	ポンドE	集水タンク
移送先	T/B	T/B	集水タンク	T/B	集水タンク
9/27 ~ 10/3	109	156	20	0	183
10/4 ~ 10/10	101	84	57	0	187
10/11 ~ 10/17	46	59	53	0	128
10/18 ~ 10/24	41	19	85	0	72

ウエルポイント移送量 (m³/日平均)

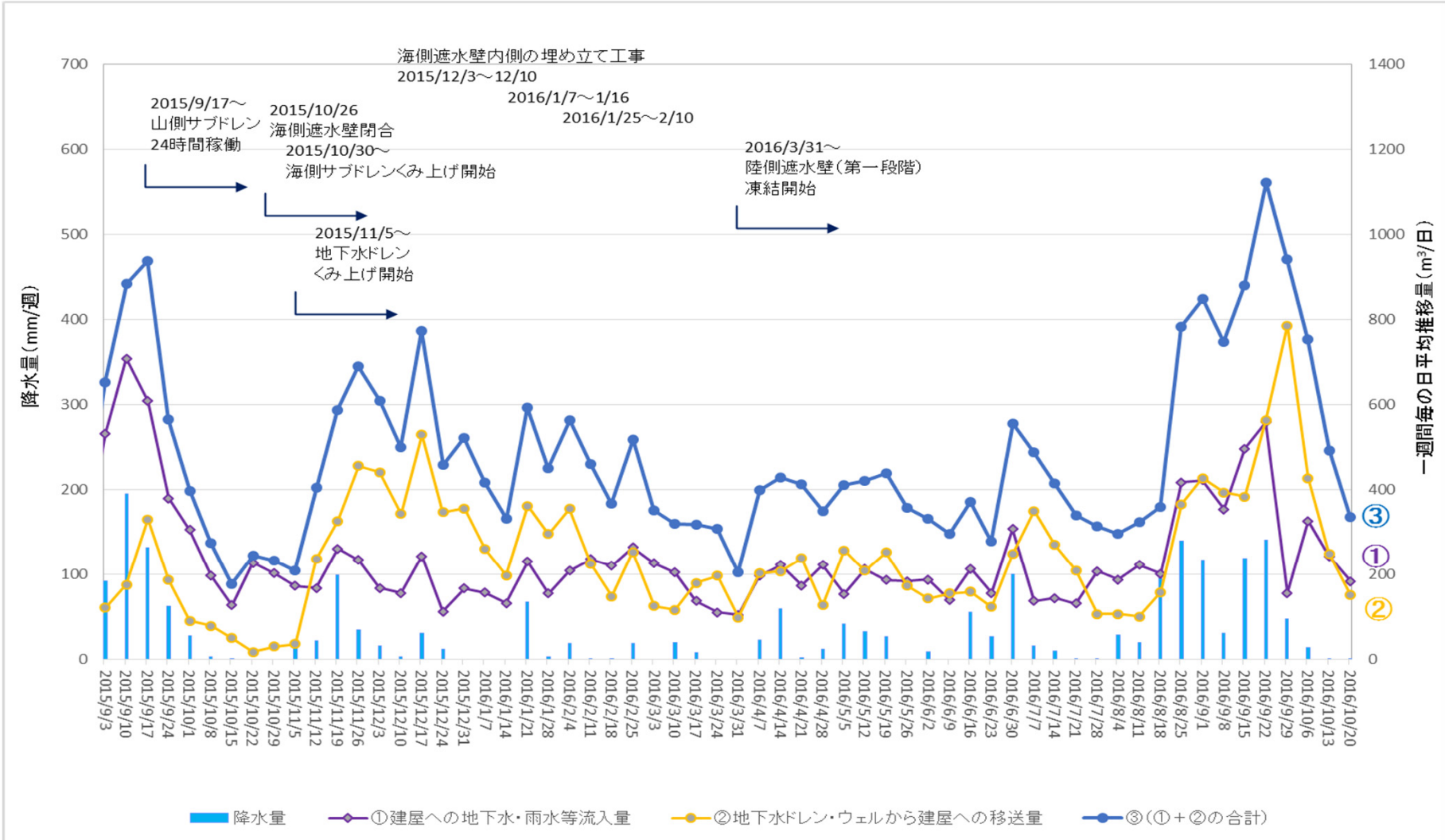
移送先	ウエルポイント		
	1-2号間	2-3号間	3-4号間
移送先	T/B	T/B	T/B
9/27 ~ 10/3	63	123	8
10/4 ~ 10/10	62	51	2
10/11 ~ 10/17	48	16	1
10/18 ~ 10/24	45	4	0

※移送先のT/Bはタービン建屋、集水タンクはサブドレン集水タンク

<参考3> 建屋への地下水ドレン移送量・地下水流入量等の推移



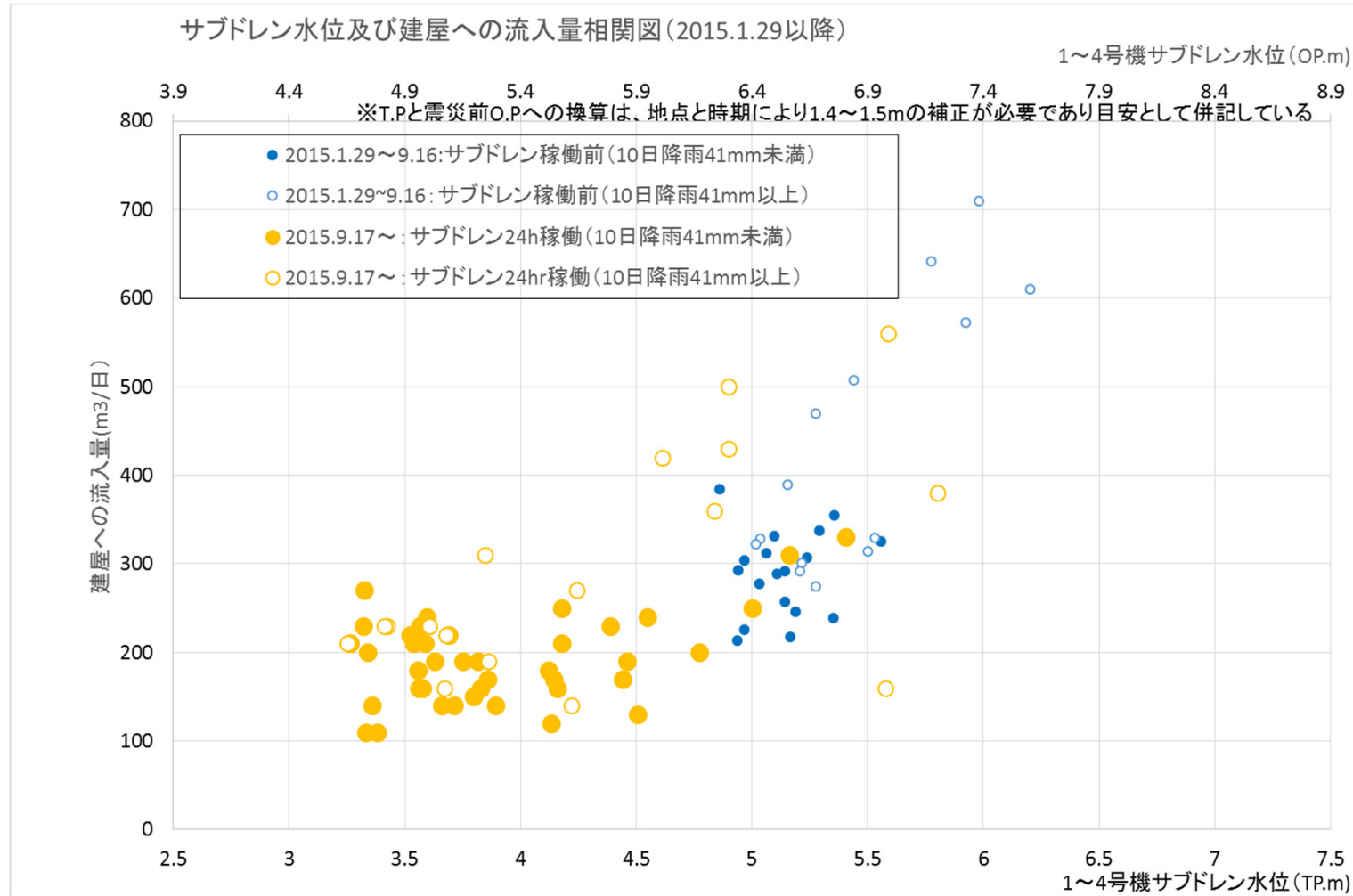
■ 建屋への流入量(①)と移送量(②)合計の増加傾向は、8月中旬以降の台風等の影響によるもの。(下図③)



＜参考4＞サブドレン稼働後における建屋流入量評価結果 (1-4号機サブドレン水位) **TEPCO**

2016.10.20現在

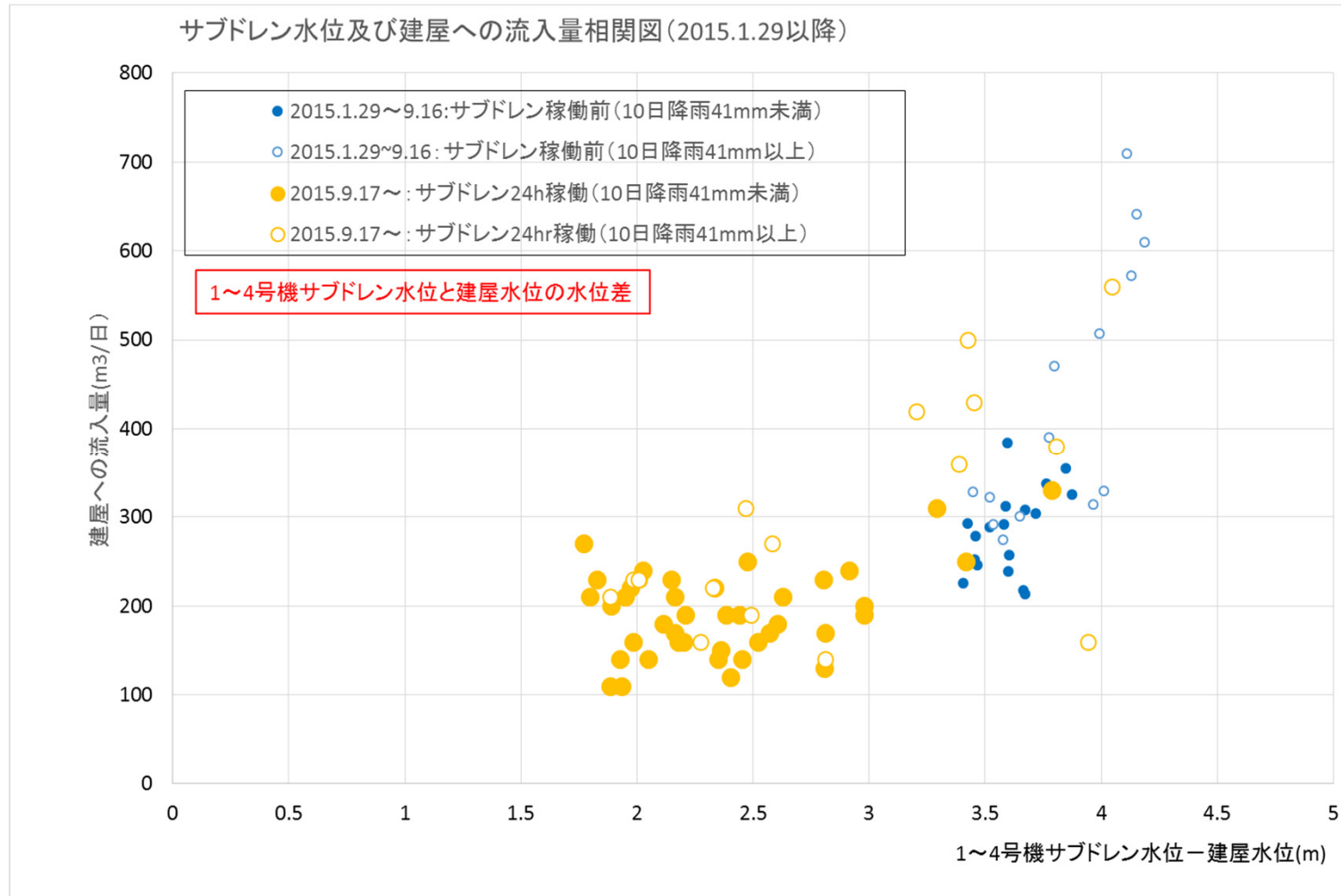
- 建屋への地下水流入量はサブドレンの水位と相関が高いことから、サブドレンの水位(全孔平均)でサブドレン稼働の影響を評価した。
- サブドレン稼働によりサブドレン水位がTP3.5m程度まで低下した段階では、建屋への流入量は150~200m³/日程度に減少している。



<参考5>サブドレン稼働後における建屋流入量評価結果 (サブドレン水位-建屋水位) **TEPCO**

2016.10.20現在

- 建屋への地下水流入量はサブドレンの水位－建屋水位とも相関が高いことから、サブドレンの水位(全孔平均)－建屋水位でサブドレン稼働の影響を評価した。
- サブドレン稼働により水位差が2m程度まで低下した段階では、建屋への流入量は150～200m³/日程度に減少している。

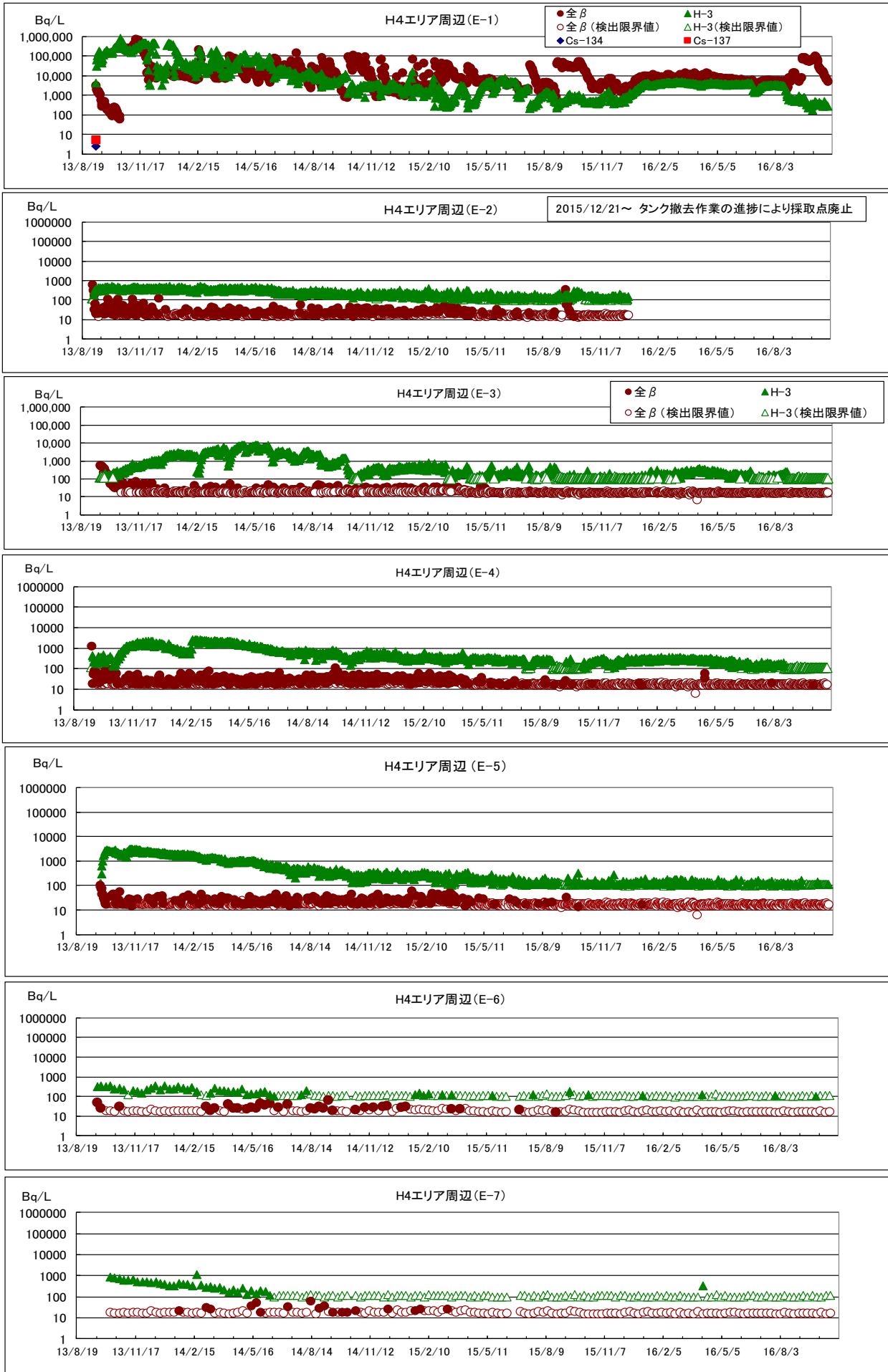


H4・H6エリアタンク漏えいによる汚染の影響調査

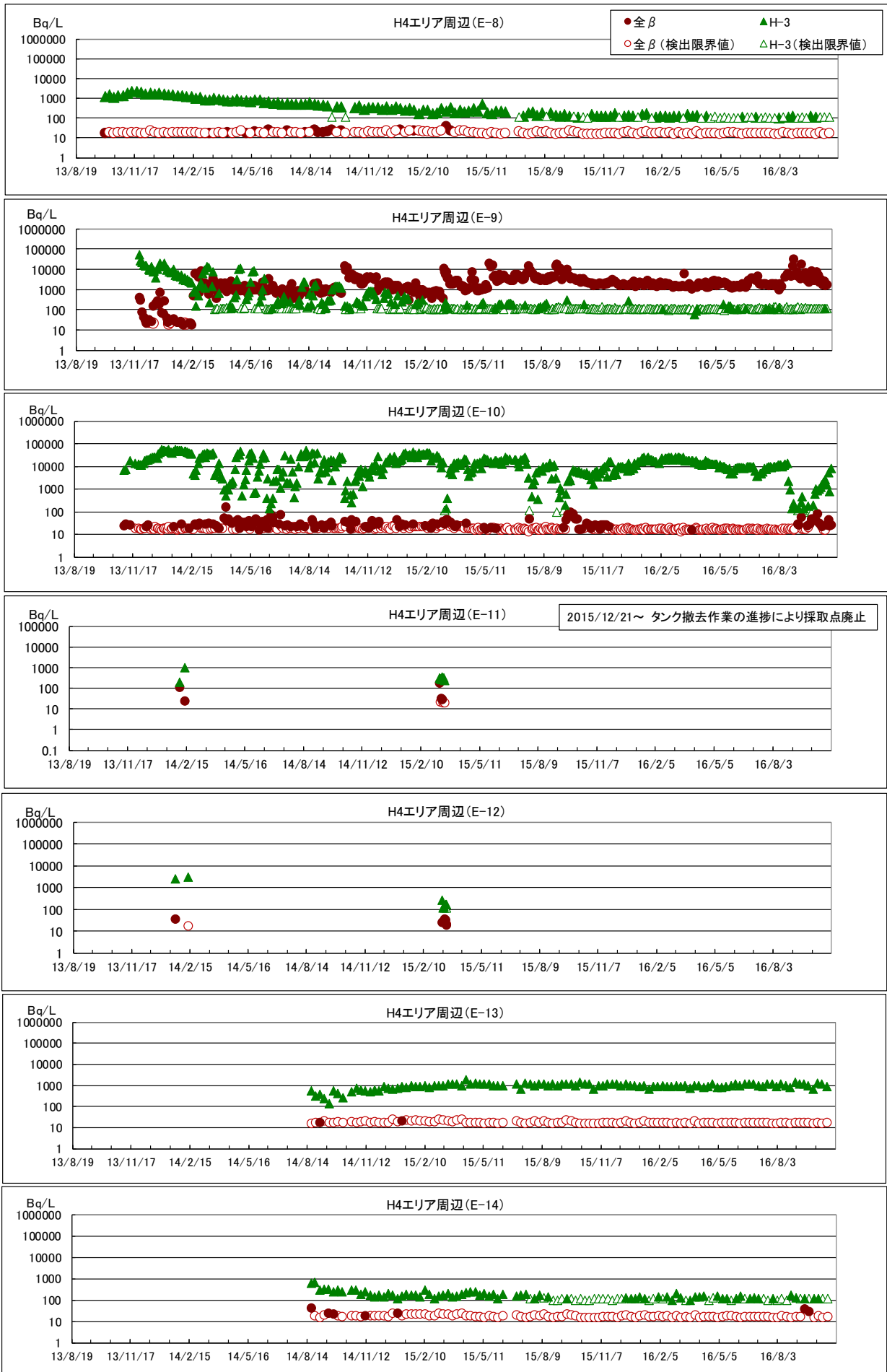
- ①追加ボーリング観測孔の放射性物質濃度推移
- ②地下水バイパス調査孔・揚水井の放射性物質濃度推移
- ③排水路の放射性物質濃度推移
- ④海水の放射性物質濃度推移

サンプリング箇所

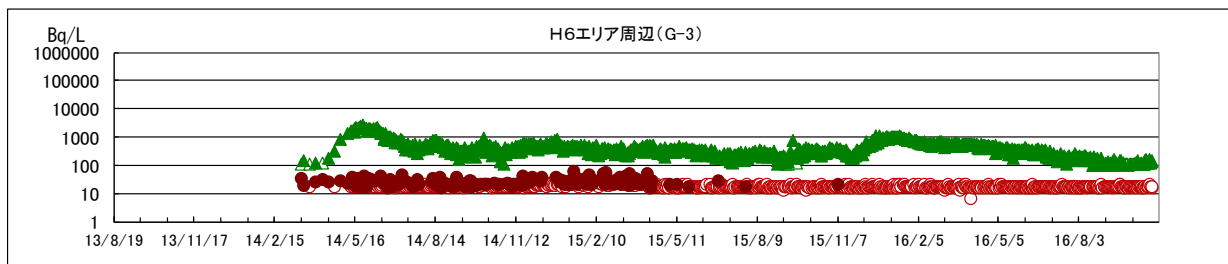
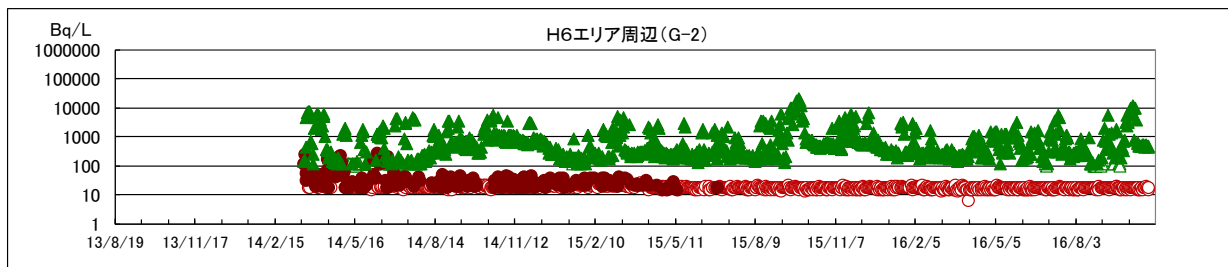
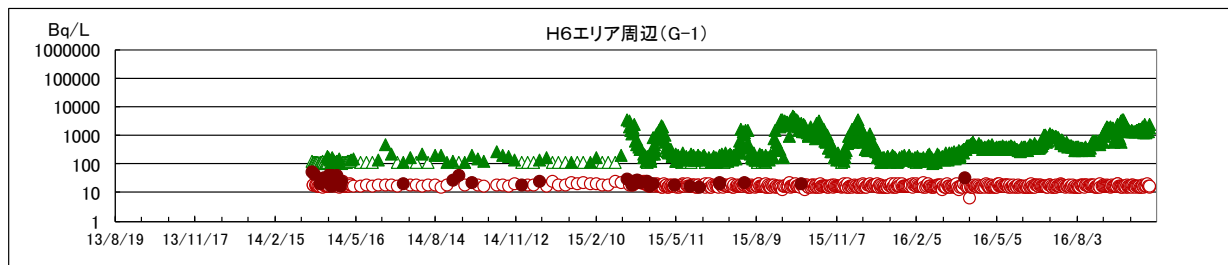
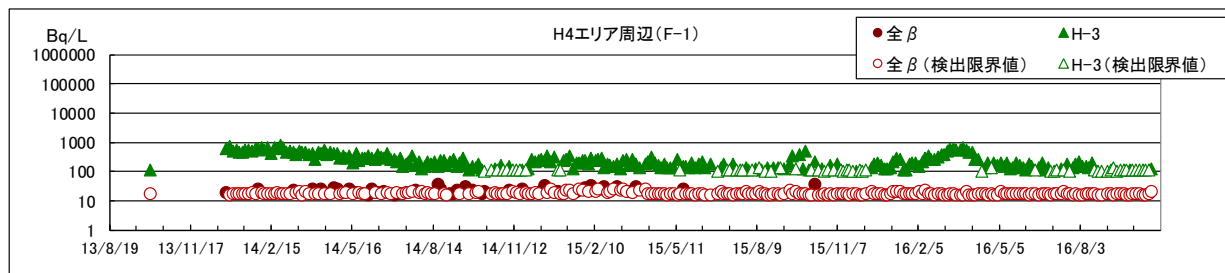
①追加ボーリング観測孔の放射性物質濃度推移 (1/3)



①追加ボーリング調査孔の放射性物質濃度推移 (2/3)

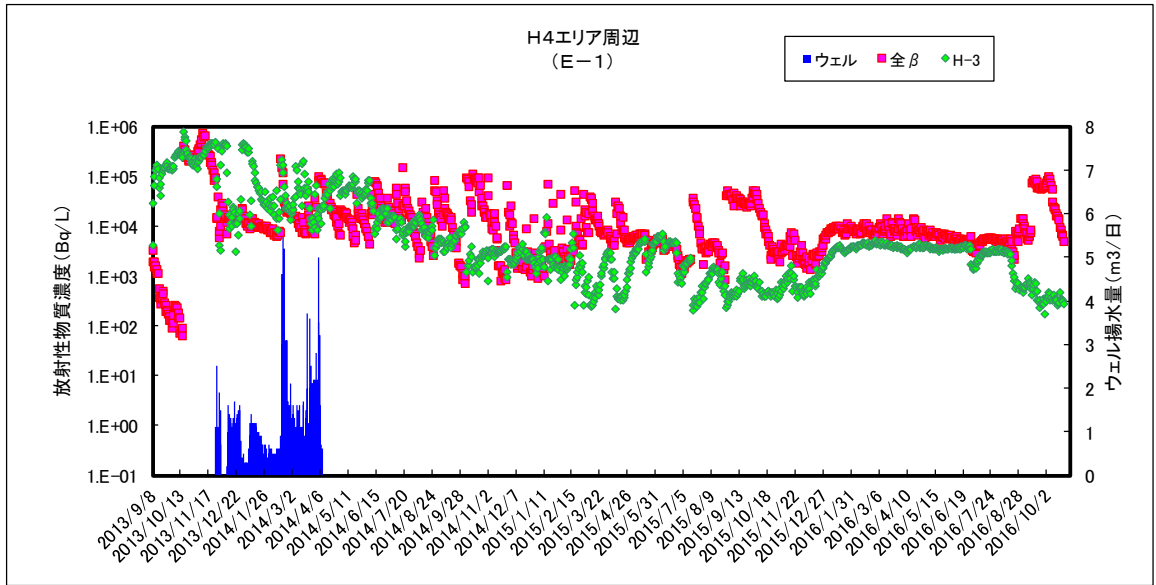


①追加ボーリング観測孔の放射性物質濃度推移 (3/3)



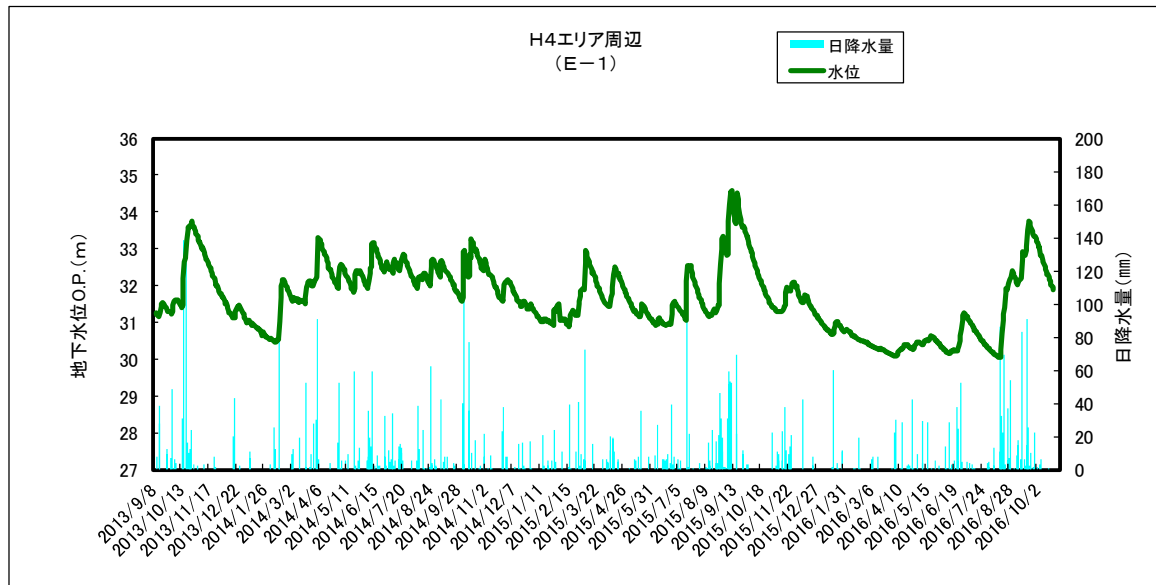
<2014/5/12より採取頻度変更>
 G-1: 毎日→1回/週
 検出限界値未満で安定していることから頻度減
 G-3: 1回/週→毎日
 H-3が上昇傾向にあることから頻度増

観測孔E-1の放射性物質濃度と降水量、地下水位との関係



←←←←← ← 2014.4.8~ 揚水停止

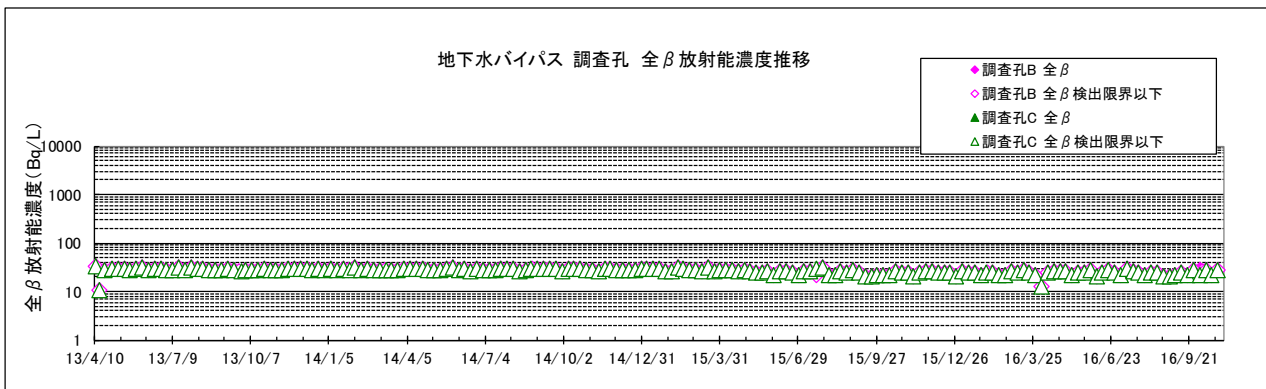
揚水停止 揚水量低下



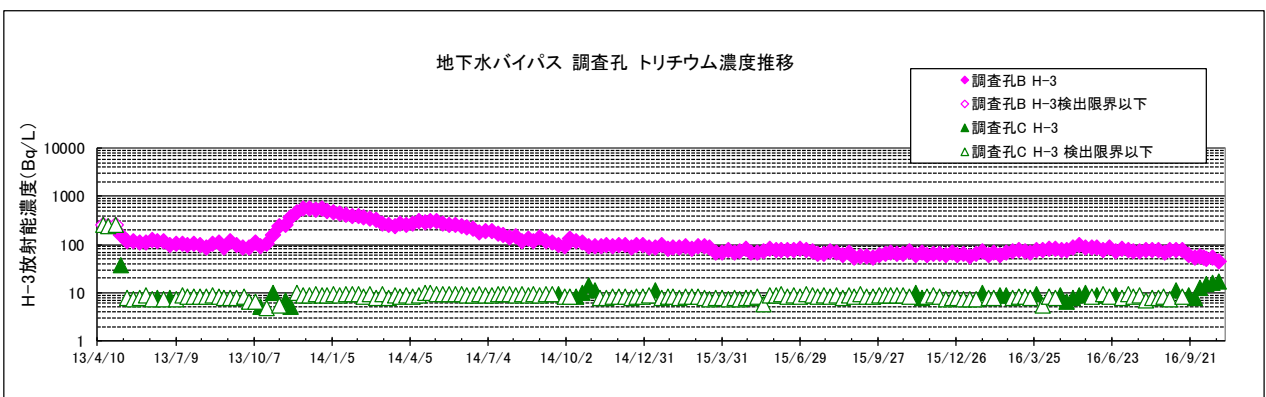
②地下水バイパス調査孔・揚水井の放射性物質濃度推移 (1/2)

地下水バイパス調査孔

【全β】



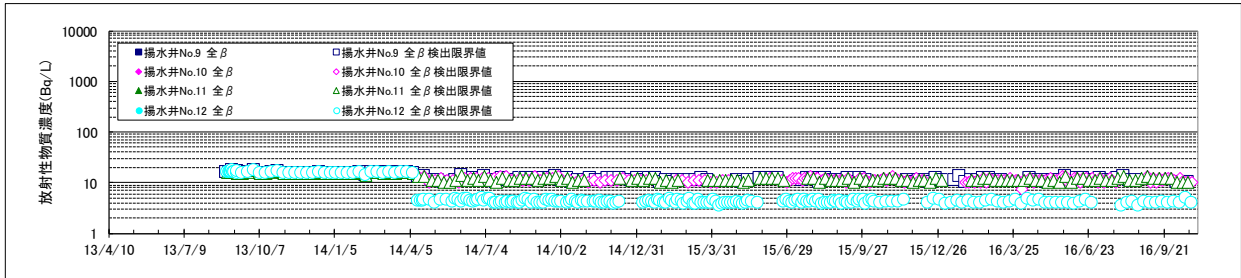
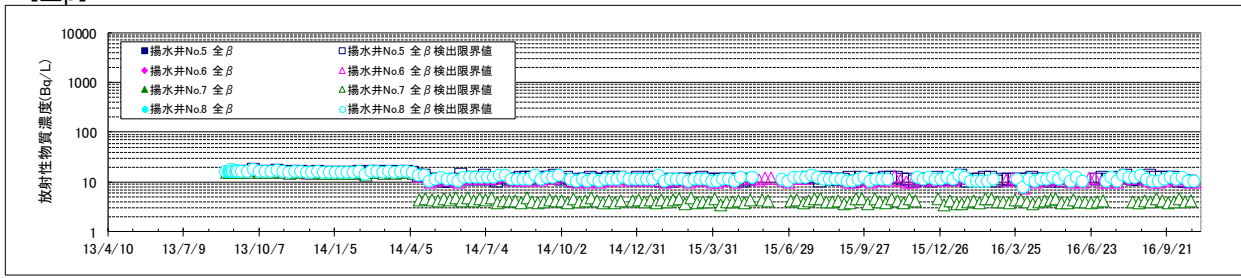
【トリチウム】



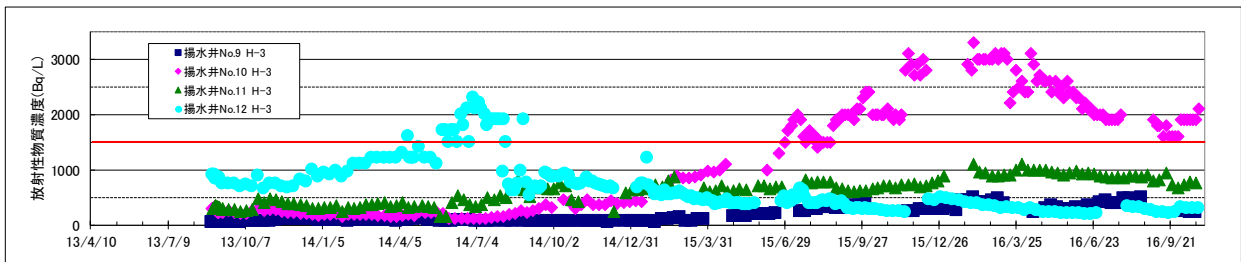
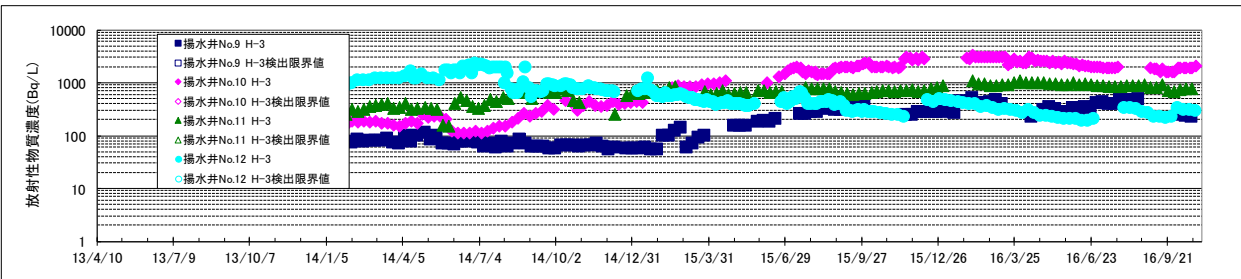
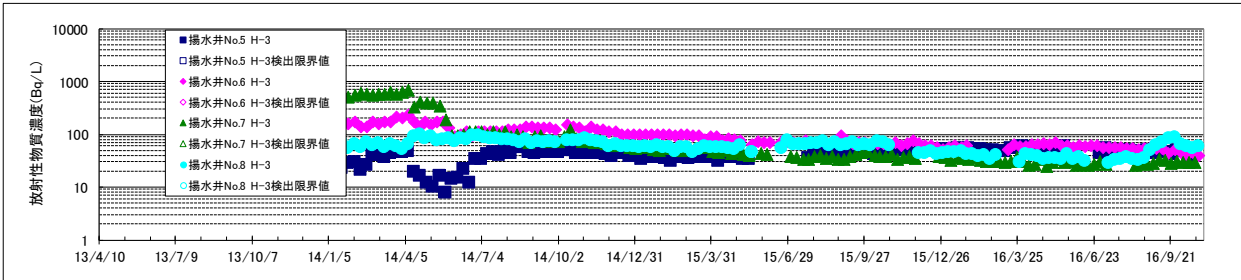
②地下水バイパス調査孔・揚水井の放射性物質濃度推移 (2/2)

地下水バイパス揚水井

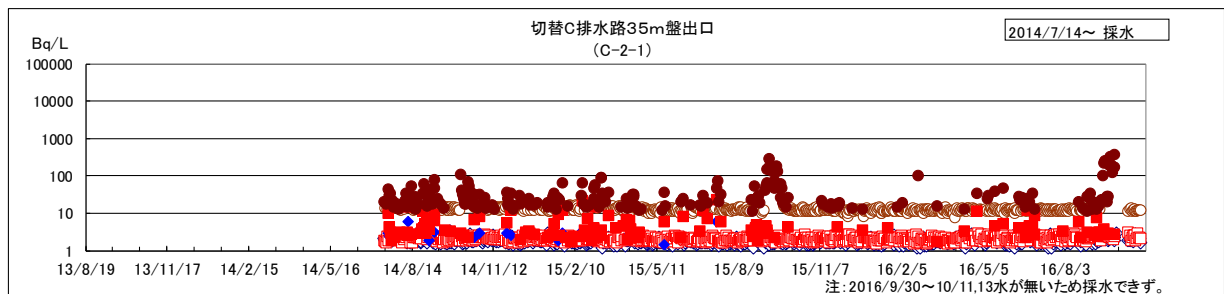
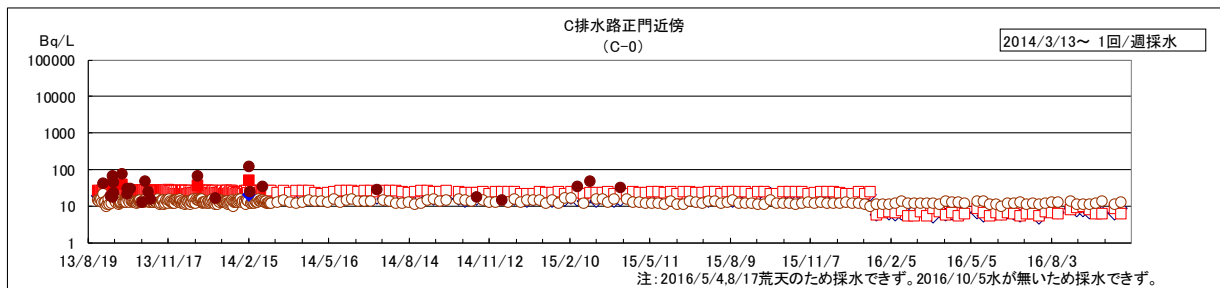
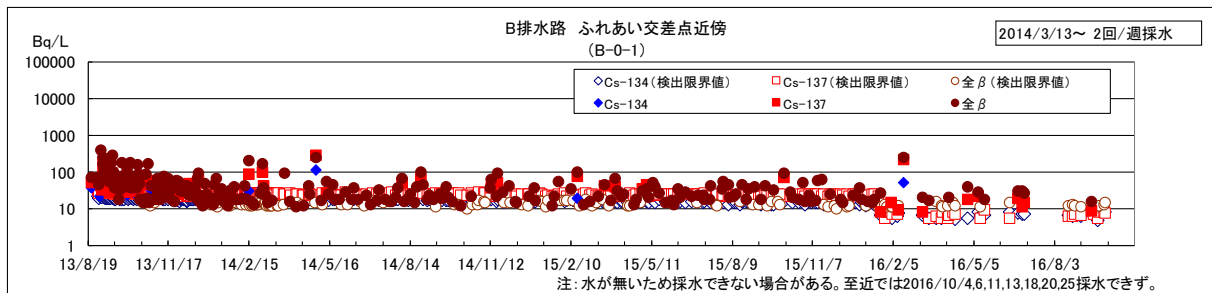
【全β】



【トリチウム】

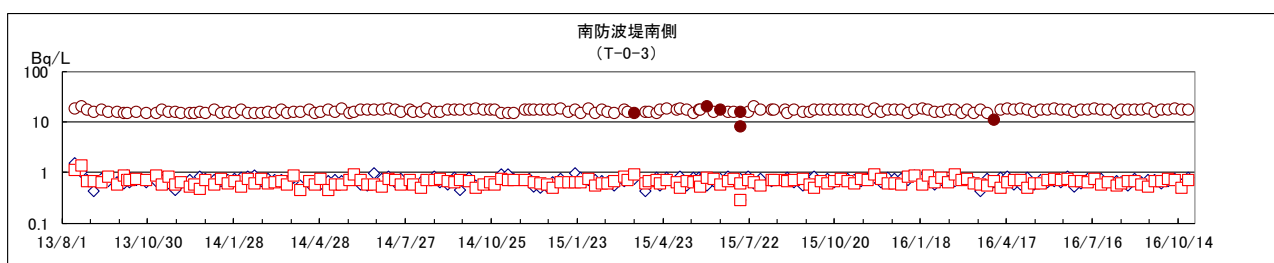
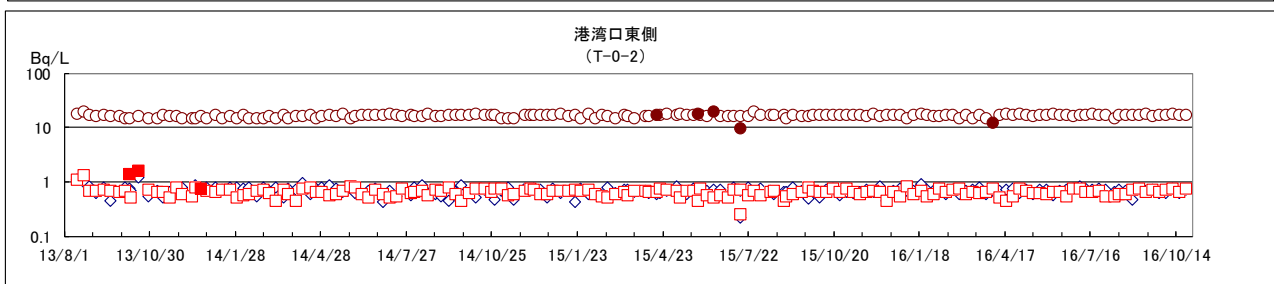
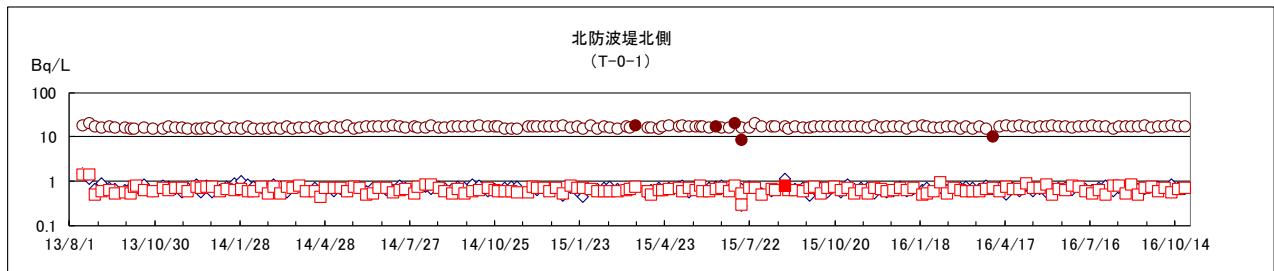
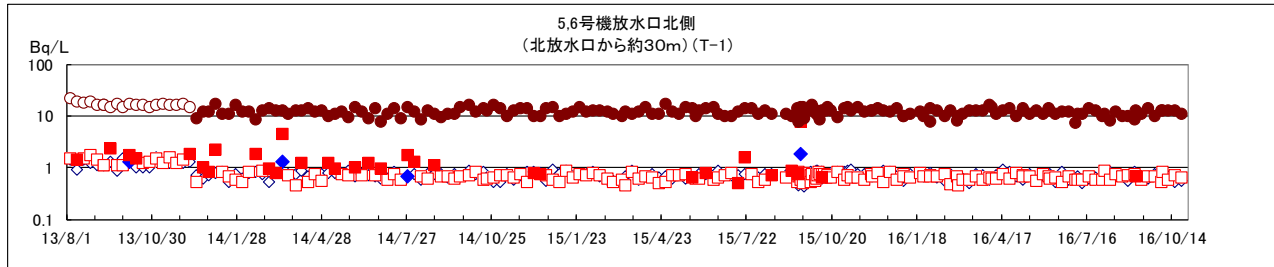
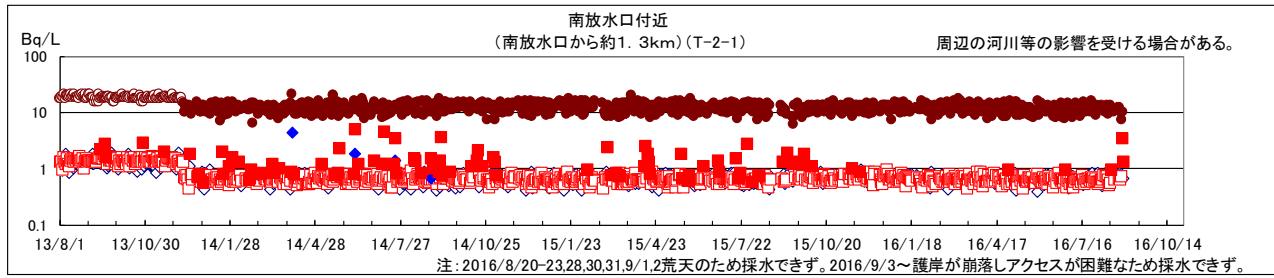
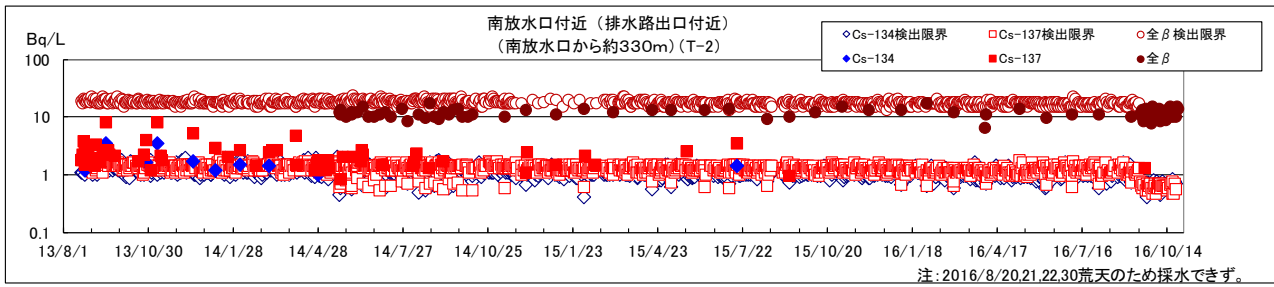


③排水路の放射性物質濃度推移



(注)
Cs-134,137の検出限界値を見直し(B排水路ふれあい交差点近傍: 1/21~, C排水路正門近傍: 1/20~)。

④海水の放射性物質濃度推移



(注)

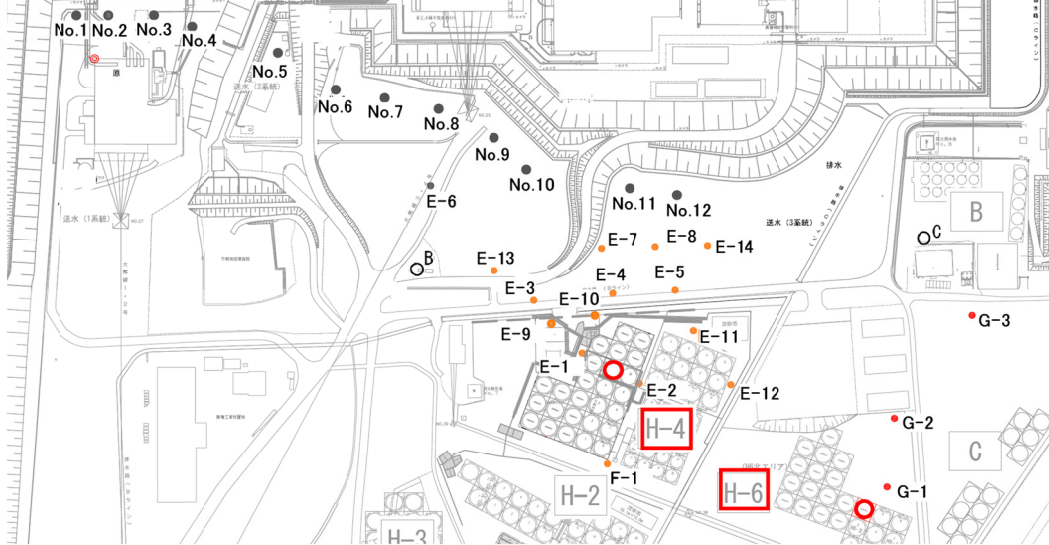
南放水口付近（排水路出口付近）：地下水バイパス排水中に検出限界値を下げて分析したのもも表示している。

2016/9/15～全βの検出限界値を見直し(20→5Bq/L)。

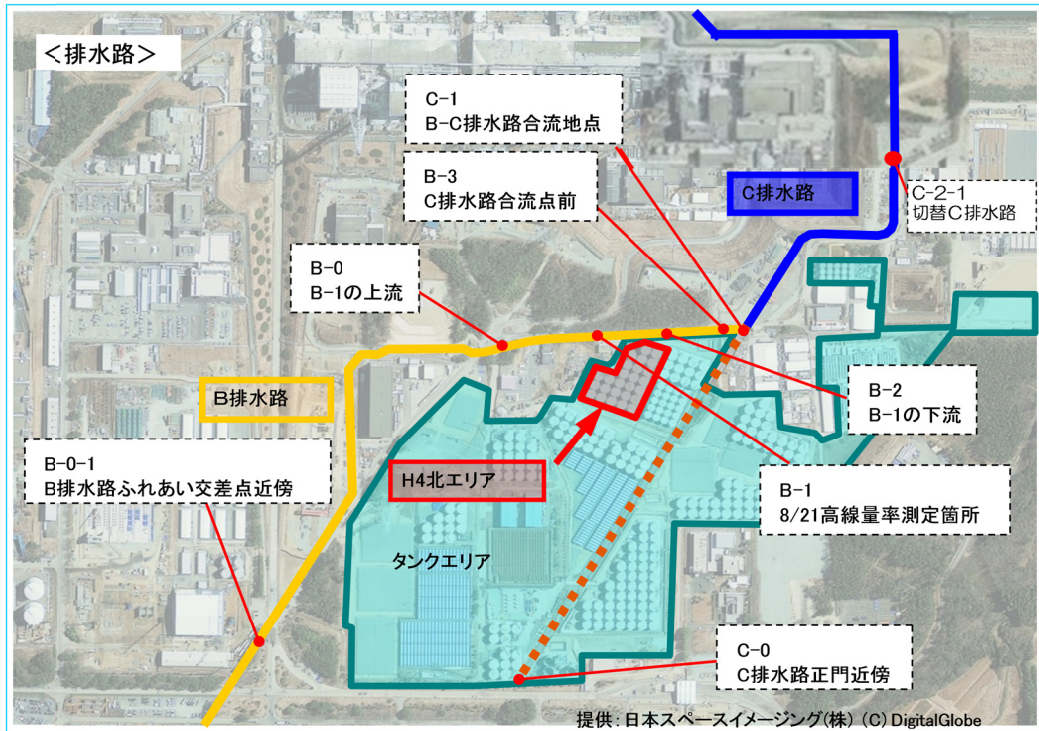
北防波堤北側、港湾口東側、南防波堤南側：全βの検出が増えたため15/7/13は第三者機関においても検出限界値を下げて分析したのもも表示している。

サンプリング箇所

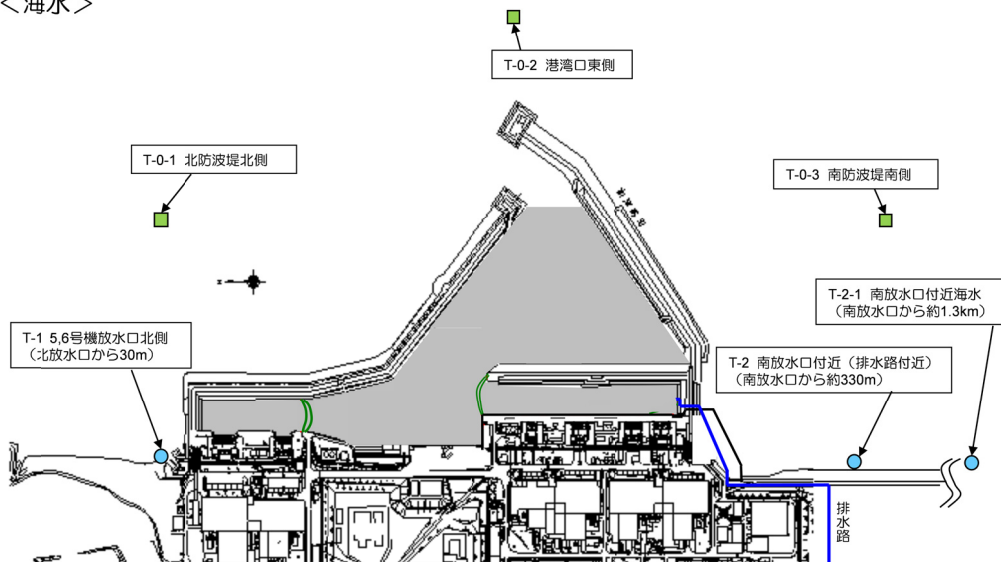
＜追加ボーリング観測孔、地下水バイパス揚水井＞



＜排水路＞



＜海水＞



KURION制御装置用電源装置の不具合について

2016年10月27日

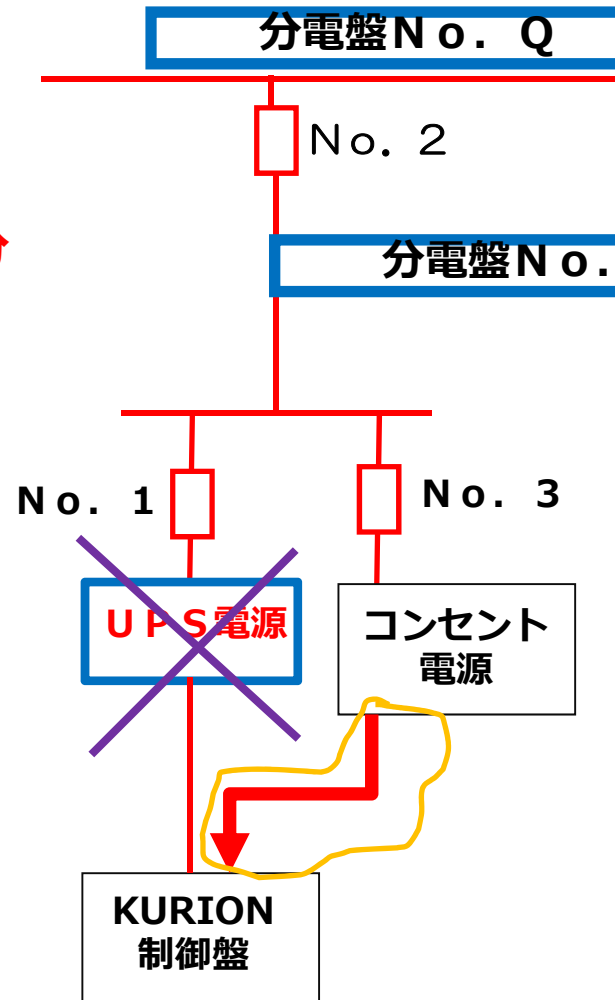
TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

- 発生日時：2016年10月8日（土）14時53分
- 発生場所：CCR内KURION設備制御盤
- 発生状況：KURION連続運転状態中の10月8日（土）14時53分「M201工程異常」並びに「KURION設備異常」警報が発生し、KURION設備が停止した。

2. 電気系統概略図

10月8日14時53分
KURION設備停止



- 分電盤J-2No.1から電源供給していたUPS電源が単品故障した。その為、KURION制御盤への電源供給が停止し、工程異常により設備停止に至った。
- 応急対策として、同分電盤J-2No.3のコンセント電源より、電源供給を10月9日8時19分に開始した。

3. 現場写真



不具合発生時

応急対策としてコンセント
電源により電源供給開始



4. 復旧状況と今後の対応

- コンセント電源による電源供給開始：
2016年10月9日（日） 8時19分
- 各警報クリア：
2016年10月9日（日） 8時20分
- K U R I O N 設備の再起動：
2016年10月9日（日） 10時23分
- 今後の対応として， U P S 電源の早期取替を行う。